

理事監事ハ任期中他ノ銀行又ハ會社等ノ役員タルヲ許サス

第二十一條

大藏卿ハ特ニ監理官ヲ日本銀行ニ派出シテ諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ

第二十二條

日本銀行ハ本支店出張所及約定店等ノ營業上百般ノ景況ヲ調査シ少クモ毎月一回之ヲ大藏卿ヘ報告スヘシ

第二十三條

日本銀行ハ本條例ノ旨趣ニ基キ銀行定款ヲ作り政府ノ許可ヲ受クヘシ但定款ヲ改正シ又ハ定款外ノ事件ヲ處スル時ハ株主總會ニ於テ決議シ政府ノ許可ヲ受クヘシ

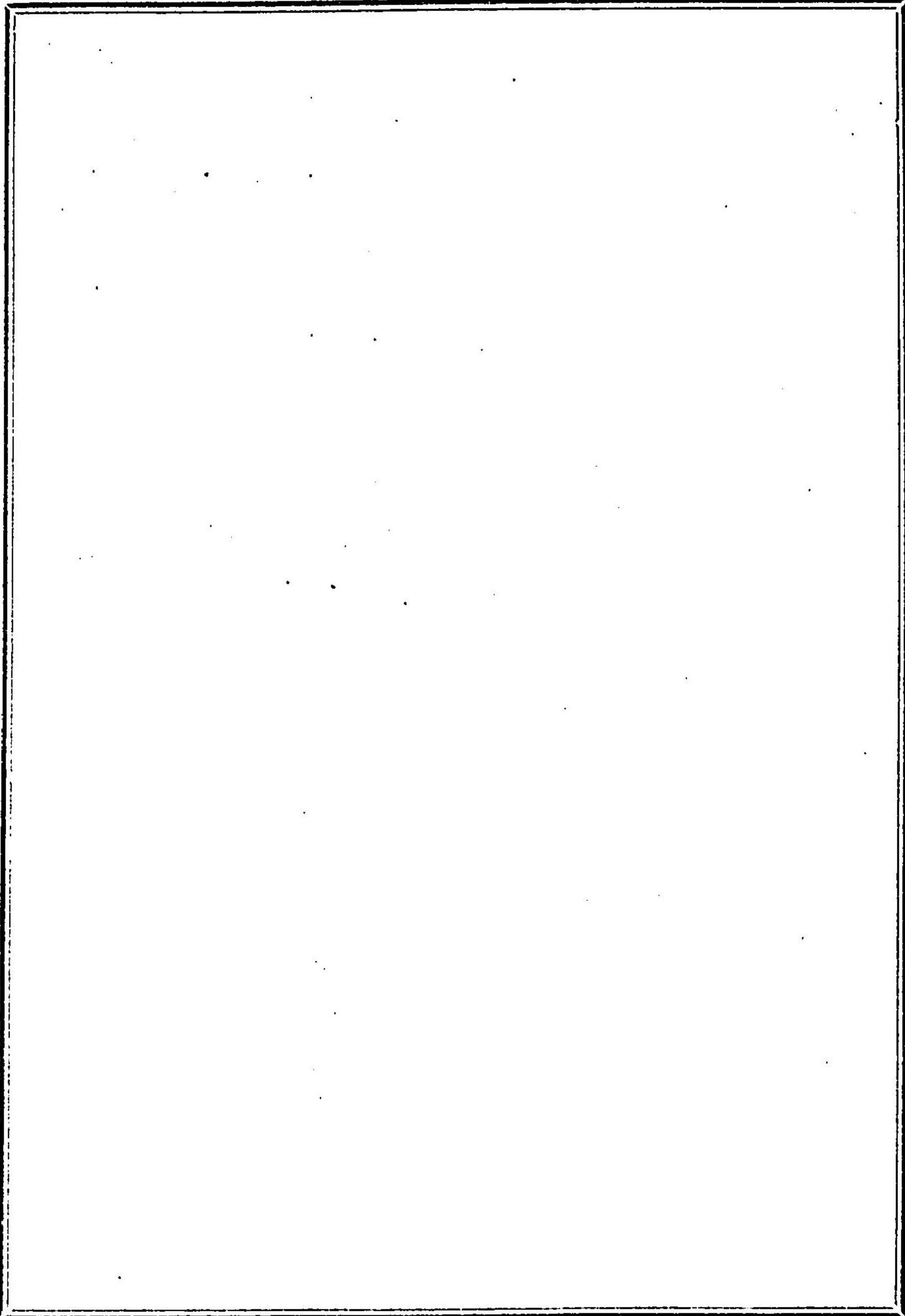
第二十四條

政府ハ日本銀行諸般ノ業務ヲ監督シ其營業上條例定款ニ背戾スル事ハ勿論政府ニ於テ不利ト認ル事件ハ之ヲ制止スヘシ

第二十五條

此條例ヲ改正増削スル時ハ其施行ノ日ヨリ三ヶ月以前ニ之ヲ布告ス可シ

右奉 勅旨布告候事



○保ノ部

○北海道海關廢置改稱

○明治五年六月廿四日第百九拾號布告

一自今北海道日高州幌泉灣海關ヲ廢シ更ニ膽振室蘭釧路州厚岸ノ兩灣ニ海關相設候事

一後志州手宮港自今小樽港ト改稱候事

○明治五年九月廿五日第百八拾九號布告

今般北海道渡島國檜山郡江差港へ海關ヲ設候條此段相達候事

○北海道土地賣買規則

ホ

○明治五年十月十日第三百四號布告

北海道開拓創業以來募移自移ノ徒日月ニ増加今日ニ至リテハ運漕行旅モ不便トセ  
ス然ルニ元ヨリ曠莫ノ地ナレハ肥沃多産ニシテ廢棄スル者猶十ノ八九ニ居レリ因  
テ今度全道開曠ノ地低價賣下緩期除租等ノ規則別紙開拓使布告ノ通施行セシムル  
條墾闢牧畜或ハ漁獵採鑛都テ生産興工ノ志願有之者ハ同使ヘ可申出事

別紙

北海道土地賣貸規則

- 第一條 原野山林等一切ノ土地官屬及ヒ從前拜借ノ分目下私有タラシムル地ヲ除  
ノ外都テ賣下ケ地券ヲ渡シ永ク私有地ニ申付ル事
- 第二條 賣下ノ地一人十萬坪ヲ以テ限トシ下手後十ヶ年除租タルヘシ尤モ已ニ私  
有シタル地ヲ相對賣買スル者ハ其坪數制限ナカルヘキ事
- 第三條 賣下ノ地價上等千坪一圓五十錢中等同一圓下等五十錢千坪以下其割合タ  
ル可ク且其地代即納タルヘシト雖モ家産中人以下或ハ罹災究乏ノ者ハ三年乃至

五年賦上納申付ル儀モ可有之事

- 第四條 既ニ私有スルノ土地ハ牧畜開墾等一切ノ産業ハ勿論他人ヘ賣却スルモ其  
地主ノ自由タルヘシ尤右等下手スル節ハ水利運便等ノ上ニ注意シ其方法及ヒ期  
限等詳細ニ可申出事
- 第五條 人民私有ニ屬スル土地ト雖モ外國人ヘ賣渡シ或ハ之ヲ引當トシテ金子ヲ  
借受ル等禁止タルヘキ事
- 第六條 土地買下ノ後開墾其他共上ノ地ハ十二ヶ月中ノ地ハ十五ヶ月下ノ地ハ二  
十ヶ月ヲ過キ不下手者ハ上地申付ル事
- 第七條 除租滿期後ノ制程ハ追テ其地ノ差等ニヨリ適當ニ可相定事
- 第八條 採鑛漁獵等都テ生産興工ノ見込アリテ出願スル者ヘハ其方法取調年限ヲ  
立貸地等ニ差出シ稅則ハ出品ノ精粗多寡ニ隨ヒ追テ適當ニ可相定事  
但諸鑛山脈理等ノ甲乙ハ查了シテ可公布事
- 第九條 右等諸工業ノ新發明或ハ水陸運便等ニ費財盡力シテ國家人民ノ利ヲ興シ

タル者へハ其功業ノ大小輕重ニ因リ若干ノ土地ヲ付與シ或ハ專賣除租ノ榮利ヲ與ル等ノ處置可有之事

右之通候事

壬申九月

開拓使

○貿易銀貨

○明治七年三月廿日第三十四號布告

大坂造幣寮ニ於テ鑄造ノ貿易圓自今別紙圖面ノ通模樣改正候條此旨布告候事

但銀地金ヲ出シ改鑄願出候節若シ同寮ニ於テ地金高凡ソ一ヶ月間ノ工程ニ充ツ

時ハ受取相斷リ追テ工程見積リ順序ヲ以テ地金可受取事


別紙

八年三十五號布告  
ヲ以テ標目等ヲ改  
正シ貿易銀ト改稱  
ス  
十三年三十五號布  
告ヲ以テ再鑄發行


改正貿易銀圖面

貿易銀 一圓

表



裏



性合銀九銅一	量目 日本七匁一分七厘六毛 西洋四百十六ケレイシ	徑曲 一寸二分四厘
--------	--------------------------------	--------------

○明治八年二月二十八日第三拾五號布告

大坂造幣寮ニ於テ是迄鑄造ノ壹圓銀今般更ニ量目相増貿易銀ト唱ヒ隨テ表裏ノ模樣量目ノ公差并鑄造費ノ割合等夫々別紙ノ通改正鑄造候條此旨布告候事  
別紙  
略之

十一年三十五號布  
告ヲ以テ鑄造ヲ中  
止ス

水

○明治十一年十一月二十六日第三拾五號布告

明治八年<sup>二月</sup>第三十五號布告貿易銀<sup>増量圖畫ノ鑄造ヲ見合セ同七年<sup>三月</sup>第三十四</sup>

號布告貿易壹圓銀<sup>圖畫改正ノ分</sup>ヲ再鑄發行候條此旨布告候事

十二年四十一號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス

○明治十二年十月一日第四拾壹號布告

明治十一年<sup>十一月</sup>第三拾五號布告へ左ノ通但書追加候條此旨布告候事

但貿易壹圓銀一般通用ノ儀ハ明治十一年<sup>五月</sup>第拾貳號布告ノ通可相心得事

○明治十一年五月廿七日第拾貳號布告

貿易銀貨ノ儀ハ從來各開港場貿易便利ノ爲メ鑄造シ各開港場ニ限り通用候處今般更ニ一般ニ令通用候條租稅其他公私ノ取引上都テ授受可致旨布告候事

○明治十二年九月十二日第三拾五號布告

一貿易壹圓銀(量目七匁一分七厘六毛性合銀九銅一)ノ儀今後稅關ノ諸稅及其他凡ソ洋銀ヲ以テ取引スヘキ諸勘定ノ拂方ヲナス爲メ之ヲ差出スルハ諸官廳ニ於テハ之ヲ洋銀ト並價ニテ受領スベシ

一本月十九日以後ハ人民ニ於テ凡ソ負債其他ノ拂方洋銀ヲ以テ履行スベシト  
結約シタル所ノ金高ヲ拂フ爲メ右壹圓銀ヲ差出スルハ之ヲ洋銀ト並價ニテ受領スヘシ

右布告候事

○捕魚採藻ノ爲メ海面ヲ區畫所用スル者出願方

○明治八年十二月十九日第百九拾五號布告

從來人民ニ於テ海面ヲ區畫シ捕魚採藻等ノタメ所用致居候者モ有之候處右ハ固ヨ

亦

リ官有ニシテ本年<sup>二</sup>第貳拾三號布告以後ハ所用ノ權無之候條從前ノ通所用致度者  
ハ前文布告但書ニ準シ借用ノ儀其管轄廳へ可願出此旨布告候事

○北海道地租當分地價百分ノ一ト定ム

○明治九年十二月廿八日第百六拾壹號布告

北海道地租ノ儀當分地價百分ノ壹ニ相定候條此旨布告候事

○北海道諸產物出港稅則并各港船改所規則

○明治十年八月十一日第五十六號布告

明治八年<sup>二</sup>第十四號布告北海道諸產物出港稅則并各港船改所規則別冊ノ通改正本  
年九月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

別冊

北海道諸產物出港稅則並各港船改所規則

第一條

北海道諸產物 鐵屬穀類酒類麻卵 紙生糸器具ヲ除ク 各府縣へ輸送ノ節ハ官私用 陸海軍用ノ品ヲ除ク 別ナク出港  
稅トシテ其原價百分ノ四ヲ貨主ヨリ下條ニ掲載スル一ノ船改所ニ納ムヘシ  
但本文ノ稅金ハ船長ニ於テ取纏メ 外國船ヲ以輪送ノ節ハ貨主 納入ノ手續ヲ爲スヘシ

第二條

船改所有之各港

渡島國龜田郡函館港

同 國津輕郡福山港

同 國檜山郡江差港

膽振國室蘭郡室蘭港

後志國小樽郡小樽港

十三年三十三號布告ヲ以テ本條中ヲ改正追加ス  
十三年五十一號布告ヲ以テ本條中へ追加ス  
十四年六十六號布告ヲ以テ本條中改正追加ス

同 國壽都郡壽都港

釧路國厚岸郡厚岸港

左ノ十ヶ所ニ於テ毎年五月ヨリ十月マテノ間船改派出所ヲ置キ船改所同様ノ事務ヲ取扱フヘシ

渡島國福島郡吉岡

同 國上磯郡當別

同 國津輕郡江良町

同 國稱志郡熊石

後志國古平郡古平

同 國岩内郡岩内

石狩國石狩郡石狩

日高國浦河郡浦河

根室國根室郡根室

千島國振別郡振別

第三條

諸産物ノ原價ハ右各港ニ於テ毎月上中下旬三度賣買相場ヲ蒐集シ之ヲ査定スヘシ但相場詳ナラサル物品ハ賣買仕切狀ヲ検査シテ之ヲ定ムヘシ

第四條

諸船舶各府縣下ヨリ北海道へ入船スルルハ船免狀或ハ船稅鑑札ヲ添へ第一號書式ノ通其港津船改所或ハ地方役所<sup>又ハ區戶長役</sup>場以下同シ<sup>場</sup>へ速ニ届出ヘシ但北海道産物ニ類似ノ物品ヲ青森秋田兩縣下等ヨリ廻漕スル分ハ其品名數量ヲ詳記シタル仕出場ノ送狀或ハ賣買仕切狀ヲ添届出ヘシ

第五條

北海道各港津ヲ回漕スル諸船舶ハ出帆ノ節甲港船改所或ハ地方役所へ申出改所役所ニ於テハ第二號書式ニ法リタル檢印帳ヲ付與シテ回漕セシムヘシ其船乙港へ入津セハ乙ノ船改所或ハ役所へ速ニ檢印帳ヲ納メ置キ出帆ノ節乙港ノ檢印ヲ乞フテ

水

携帶スヘシ丙丁港ノ出入モ亦之ニ準ス

但回漕數月ニ渉ル船モ該年中ハ一ノ檢印帳ヲ用ヒシメ翌年ハ更ニ之ヲ付與スヘシ

第六條

諸船舶北海道内ヨリ各府縣ヘ向ケ回漕ノ節ハ第二條ニ掲クル各港ノ内何レカ一港ヘ入船シテ其船改所ヘ檢印帳ヲ還納シ第三號甲ノ書式ニ法リタル出港稅納目錄ニ通ヲ差出シ產物積載セサル節ハ第四號甲ノ書式ノ出帆届ニ通ヲ差出スヘシ改所ニ於テハ審査ノ上產物積載セタルハ定則ノ税金ヲ領收シ第三號乙ノ書式ニ法リ產物積載セサルハ第四號乙ノ書式ニ法リ奥書シテ一通ハ留置キ一通ヲ下付シテ出帆差許スヘシ

但許可ヲ得タル後都合ニ依リ三日以内ニ出帆セラル船ハ更ニ其旨ヲ届ケ出ツヘシ

第七條

船改所ナキ地方ヨリ產物積取直ニ各府縣ヘ輸送セント欲スルモノハ其積受ノ地ヘ航行ノ節第二條ニ掲クル各港ノ内何レカ一港ヘ入津シ豫メ其積取ルヘキ產物ノ高ヲ計算シ第三號甲ノ書式ニ法リタル出港稅前納目錄ニ通ヲ差出シ船改所ニ於テハ前納目錄ノ高ニ從ヒ定則ノ税金ヲ領收シ同號乙ノ書式ニ法リ奥書シテ一通ハ留置キ一通下付シテ直艫差許スヘシ

但本條許可ヲ得テ其地ニ到リ產物積取ノ節ハ其地方役所ニ中立檢査ヲ受クヘシ役所ニ於テハ出港稅前納濟ノ目錄ニ照較シテ之ヲ檢査シ若シ產物不足ノ節ハ其由ヲ詳記セル書面ヲ右目錄ニ添ヘテ船長ヘ下附シ船長之ヲ翌年七月迄ニ曩キニ納稅ノ船改所ヘ差出スニ於テハ過納ノ金額下戻スヘシ

第八條

出港稅納濟ノ諸產物都合ニ依リ第二條ニ掲クル各港ノ内ヘ揚陸スルルハ該港船改所ヘ願出ヘシ改所ニ於テハ現品審査ノ上稅納濟ノ目錄ヲ引上ケ税金下戻スヘシ但出港稅ヲ收納シタル港内ニ於テ難破ノ災ニ罹リ稅納濟ノ產物流沒シタル分ハ

ホ



實際検査ノ上税金下戻スヘシ

第九條

各港船政所及役所ハ休日ヲ除クノ外毎日午前九時ヨリ午後四時迄船舶出入ノ事務取扱フヘシ尤諸貨物船積卸ハ日出ヨリ日没ヲ限リトス  
但臨時出入港ノ手數ヲ請ヒ或ハ時限外ニ貨物ヲ積卸セント欲スル者ハ其事由ヲ具シ船政所或ハ役所ヘ願出ヘシ

第十條

諸船舶出港税未納或ハ納税目錄外ノ産物ヲ窃ニ積載各府縣ヘ輸送セント謀リ又ハ府縣下ニ於テ陸揚スルモノハ科料トシテ船長ヨリ其物品原價其發露スル地方賣買價格ヲ以テコレヲ十分ノ二及出港税ヲ徴收スヘシ

第十一條

各港船政所及役所ニ於テハ每船ノ出入ヲ審査シ若シ此規則ニ循ハサルモノアリテ其踪跡詳ナラサルハ開拓使ヨリ直ニ其船主ノ本官廳ヘ通報シ本管廳ニ於テハ出

十四年七十二號布告  
例處分方參照  
スヘシ

十五年八號布告  
以テ開拓使ヲ廢シ  
函館札幌根室三縣  
ヲ置ク

税及科料ヲ徴收シ其事由ヲ詳記シタル書面ヲ添ヘ同使函館支廳ヘ送付スヘシ

但北海道回漕中暴風等ノ難ニ罹リ止ヲ得スシテ直ニ府縣下ヘ入船スルモノハ本條ノ限ニアラサル故其事由ヲ具シ檢印帳ヲ添ヘ速ニ其地方廳ヘ届出ヘシ地方廳ハ事實篤ト取糺ノ上疑ナキニ於テハ其現存スル物品ノ出港税原價ハ其入船シタ  
ル地方賣買ノ價格ヨリ其運賃ヲ除キ之ヲ定ムヲ徴收シテ本文同様送付スヘシ

第十二條

出入港ノ届及檢印帳ノ納受ヲ等閑ニスルモノ或ハ許可ヲ得スシテ時限外ニ荷物ヲ積卸シスルモノハ左ノ算則ニ從ヒ船長ヨリ科料ヲ徴收スヘシ

日本形船 五十石マテ 金拾五錢

五十一石以上十石コトニ壹錢ヲ加フ

外國形汽船 三十噸マテ 金五拾錢

三十一噸以上十噸コトニ拾七錢ヲ加フ

同風帆船 三十噸マテ 金三拾錢

ホ

十四年七十二號布告  
例處分方參照  
スヘシ

三十一噸以上十噸コトニ拾錢ヲ加フ

第十三條

總テ犯則ノ者ヲ他ヨリ訴出ル時ハ犯人科料ノ半額ヲ賞トシ與フヘシ

第一號

入港御届

船形

一船名

積高

何石  
何噸

船主

何府  
何縣  
管下何國何郡何所何之誰

乘組

船長  
外何人

積荷

目錄之通

仕出場及仕出場出帆月日

入港日

右御届申上候也

右船長

明治 年 月 日

何之誰印

何港  
何郡

船改所

役所

區戸長

御中

第二號

番 號

檢印帳

船形

一船名

水

積高	何石 何噸
船主	何府 何縣 管下何國何郡何所何之誰
乘組	船長 外何人
出港日	
右北海道回漕差許候也	
明治 年 月 日	開拓使管下 何 港 何 所
以下乙丙港出入檢印ノ書式	
入港月日	開拓使管下 何 港 何 所
出港月日	
第三號	
船形	船主何府 縣管下何國何郡何所何之誰
一船名	乘組 船長 外何人

積高	何石 何噸
出港稅納目錄	
何郡出產	
一品名	何百石 但百石ニ付金何百圓相場
此代金何百何拾何圓何拾錢	
此稅金何拾何圓何拾何錢何厘	但代金百分ノ四
甲	
何郡出產	
一品名	何百何拾貫目 但何貫目ニ付金何圓相場
此代金何拾何圓何拾何錢	
此稅金何圓何拾何錢何厘	但代金百分ノ四
稅合金何拾何圓何拾何錢何厘	
右之通出港稅金	上納仕候間 何日當港ヨリ(何國何郡へ相廻リ同所ヨリ)何府 縣

何港へ出帆  
直帆御差許被下度候以上

右船長

明治年月日

何之誰印

何港

船改所

御中

前書之通産物出港税金領收  
出帆直帆差許候也

開拓使管下

乙 明治年月日

何港船改所

第何號

官姓名印

第四號

出帆御届

船形

一船名

積高

何石  
何噸

船主

何府  
何縣  
管下何國何郡何所何之誰

乗組

船長  
外何人

仕向場

出港日

右御届申上候也

右船長

明治年月日

何之誰印

何港

船改所

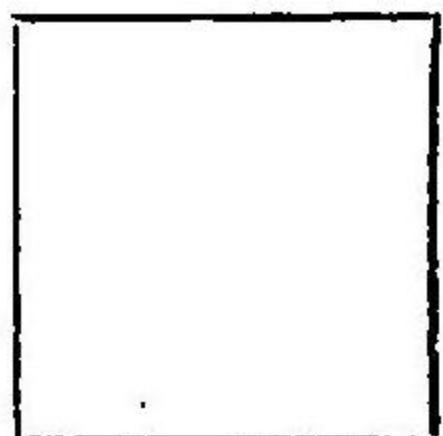
御中

出帆查了

水

乙

第何號



○明治十三年七月六日第三拾三號布告

明治十年<sup>八</sup>月第五十六號布告北海道諸產物出港稅則并各港船改所規則第二條二項中左ノ通改正追加候條此旨布告候事

左ノ「拾ヶ所」ヲ「拾壹ヶ所」ニ改メ石狩國石狩郡石狩ノ次へ左ノ一項ヲ加フ  
天鹽國增毛郡增毛

○明治十三年十一月十二日第五拾壹號布告

明治十年<sup>八</sup>月第五十六號布告北海道諸產物出港稅則并各港船改所規則第二條船改所有之各港ノ部釧路國厚岸郡厚岸港ノ次ニ根室國根室郡根室港ヲ加へ同條

船改派出所ノ部根室國根室郡根室ヲ除キ釧路國厚岸郡濱中ヲ加へ候條此旨布告候事

○明治十四年十二月十六日第六拾六號布告

明治十年<sup>八</sup>月第五拾六號布告北海道諸產物出港稅則并各港船改所規則第二條中左ノ通改正ス

右奉 勅旨布告候事

第二條船改所同派出所ノ内

渡島國津輕郡福山港ヲ松前郡福山港ト改ム

同國福島郡吉岡ヲ松前郡吉岡ト改ム

同國上磯郡當別ヲ上磯郡石別ト改ム

同國津輕郡江良町ヲ松前郡江良町ト改ム

水

○香港ト日本トノ間郵便爲換及小包遞送方

○明治十三年二月五日第四號布告

本年一月ヨリ日本ト香港トノ間ニ於テ外國郵便爲替并小包郵便遞送方法取開キ別紙ノ通驛遞局長ト香港驛遞總長ト條約相整條此旨布告候事

別紙

日本ト香港トノ間ニ郵便爲換方法實施スヘキ條約書

- 一 爲換報知書ヲ交換スヘキ局ハ橫濱及ヒ香港ノミトス
- 二 香港ハ橫濱ニテ拂フヘキ爲替ヲ振出スヘク日本ハ香港(澳門ヲ込メ)其他在清國ノ各英郵便局(海口、廣東、仙頭、廈門、福州、寧波、上海、漢江)ニテ拂フヘキ爲替ヲ振出スヘシ

三 清國人ノ姓名ヲ記スコトヲ要シ且次條ノ方法ニ從フコトヲ得ル場合ニ於テハ報知書ノ式ニ倣ヒ英語ヲ以テ之ヲ記シ又其端邊へ清國語ヲ以テ之ヲ記サシムヘシ

- 又差出人清國人ニシテ清國語ヲ以テ自己ノ名及ヒ受取人ノ名ヲ書記シ得ルルハ報知書ノ端邊ニ之ヲ記サシムヘシ又之ヲ書記シ能ハサルルハ可成ハ其友人ヲ伴ヒ來ラシメ代テ其名ヲ記サシムヘシ
- 四 兩局ニ相場並ニ爲換證及ヒ報知書ノ書式ニ付夫々其方法ヲ設ケ爲替ハ必ス洋銀ヲ以テ相拂フヘシ
  - 五 爲替ハ一ト組必ス五拾弗ニ過クヘカラス且何人タリモ一便ニ一個ノ受取人ヘニタ組以上ノ爲換ヲ振出スコトヲ得ヘカラス
  - 六 兩局トモ各自ニ其手数料ヲ定ムヘシ
  - 七 現今ニテハ兩局トモ其收入セシ手数料ハ之ヲ各自ノ所得トナスヘシ尤モ第十條ハ例外トシテ之ヲ遵奉スヘシ
  - 八 爲替ヲ振出スルハ其報知書ハ便船次第可成至急ニ之ヲ遞送スヘシ
  - 九 爲替ハ凡テ其金額ヲ低減スルコトナク拂ヒ渡スヘシ
  - 十 報知書ノ到着前ニ爲替ヲ拂渡シ損失アルルハ其拂渡セシ局ノ損失タルヘシ

ホ

- 十一 每六ヶ月ノ終リニ當リ兩局相互ノ貸高ノ有無ニ拘ハラズ振出し及ヒ拂渡セシ金額並ニ差引高ヲ顯ス計算書ヲ調理スヘシ且此差引不足高ハ通常ノ爲替證ヲ以テ貸越局へ送付スヘシ
- 十二 受取人ナキ爲替ノ金額ハ之ヲ拂フヘキ局ニ屬スルモノトス
- 十三 拂渡濟ノ爲替證ハ時々之ヲ振出局へ返送スヘシ然レモ其計算ヲ立ルコトハ此ノ爲替證ノ返送濟ト否トニ就テ之ヲ猶豫スヘカラス
- 十四 相場ノ都合ニヨリ或ハ一方ノ振出ノミ多分ニシテ手数料ノ收入ナク其他後來臨時ノ都合ニヨリ兩局ノ内何レニカ常ニ損失アルコトヲ見出スルハ此ノ規則ヲ改正スルヲ得可シ
- 十五 第十一則ニ定ムル計算ヲ調理スヘキ時限ハ兩交換局ノ協議ヲ以テ之ヲ變更スルヲ得ヘシ
- 十六 香港ハ英國ヲ除キ其他ノ諸國ト爲替取組ノ便宜ヲ日本ニ與ヘ且此ノ諸國ノ名ヲ香港ノ交換局ヨリ日本ノ交換局へ時々通報スヘシ而シテ此ノ諸國へ向ケ

又此ノ諸國ヨリ發スル爲替ハ第一ニ香港へ送付スヘク且ツ香港ノ交換局ハ香港外ノ諸國ニテ拂渡スヘキ爲替ヨリ日本ニテ領收シタル手数料ノ半額ヲ受納スヘシ

十七 爲替方法ハ來ル明治十三年一月一日(一千八百八十年一月一日)ヨリ之ヲ開  
 設實施スヘシ

此條約書ニ通ニ認メ手記スルモノナリ

日本東京於テ

明治十二年十二月二十六日

驛遞局長前島 密

香港於テ

一千八百七十九年十二月十日

驛遞總長アルフレッド・リストル

日本ト香港トノ諸郵便局ノ間ニ小包郵便實施スヘキ條約書

一日本ト香港トノ諸郵便局ノ間ニ小包郵便ヲ實施センコトヲ欲シ取扱方ニ付テ左ノ條々ヲ結約ス

一 小包郵便ハ一方ニ於テハ左ノ日本ノ諸局即チ東京、大阪、京都、横濱、神戸、長崎、函館、及ヒ新潟、又一方ニ於テハ香港（澳門ヲ込メ）在清國ノ各英郵便局（海口、廣東、仙頭、厦門、福州、寧波、上海、漢江）並ニ「ハコイ」、「シンガポール」、「ペナン」、及ヒ「マラツカ」、ノ郵便局ノ間ニ郵便ニテ交換スヘシ而シテ小包ノ大サハ長サ二尺（二フィート）幅厚サ各一尺（一フィート）重量ハ六百目（五ポンド）ニ過クヘカラス郵便稅ハ書留手數料ヲ籠メ百二十目（一ポンド）若シクハ其端數毎ニ二十錢（二十セン）トス且小包ノ表記ニ「信書封入無之」ト記載スルハ其全體ヲ密封スルヲ得ルト雖モ差立局ノ郵便局長ハ之レヲ開キ視檢スルコトアルヘシ

一 左ノ物品ハ運送ヲ許サズ即チ充分安全ニ上包セサルカ或ハ破壊シ易キ小包（紙匣類、玻璃、流動物、爆發質物、早附木、藍靛、染質物、氷、魚類、菓物、野菜）其他何品ニ限ラス郵便物ヲ損害スヘキ物、或ハ運送途中危難ヲ醸シ易キ品物

一 小包郵便ハ英國並ニ佛國ノ郵便船ヲ除クノ外郵便局於テ適當ノ便船ヲ選ヒ運送スルモノトス且小包ノ數多分ニシテ他ノ郵便物ノ運送ニ差支ヲ生スル場合ニ於

テハ其運送ヲ延引スルコトアルヘシ但シ郵便局ハ何等ノ小包ニテモ其危難ヲ請合ハサルモノトス

此條約書ニ通ニ認メ手記スルモノナリ

日本東京ニ於テ

明治十二年十二月二十六日

驛遞局長前島 密

香港ニ於テ

一千八百七十九年十二月十日

驛遞總長アルフレッド、リストル

○褒賞條例

○明治十四年十二月七日第六十三號布告

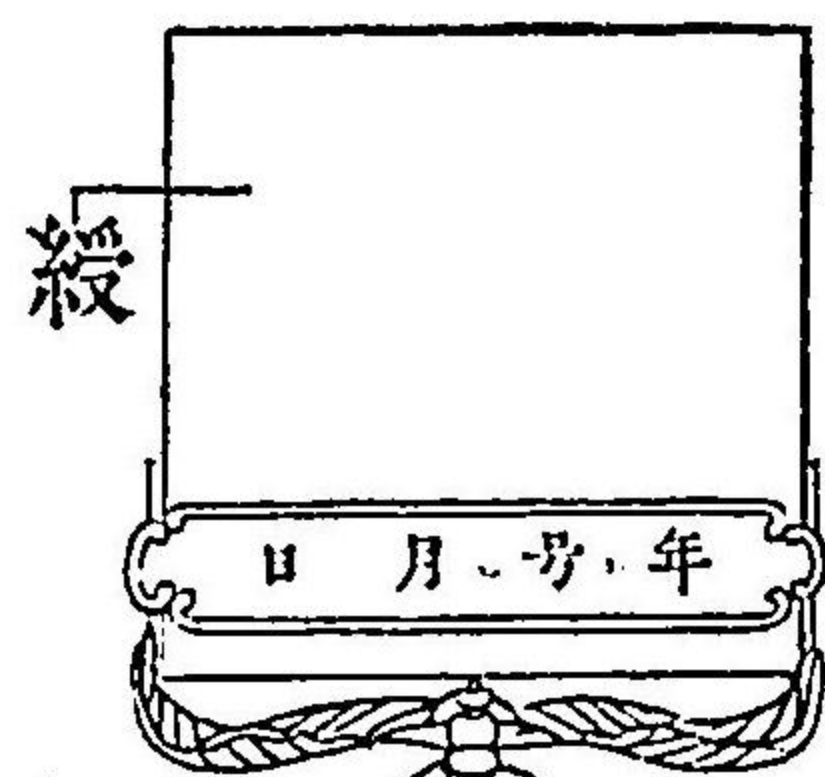
褒章條例別紙ノ通相定來明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

右奉 勅旨布告候事

水

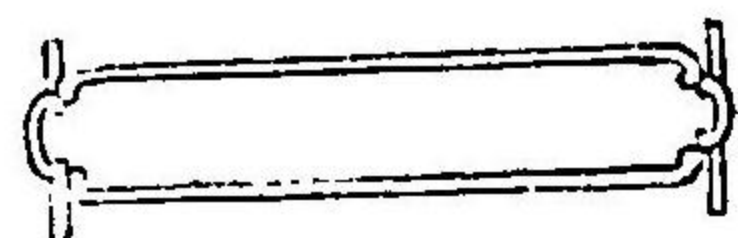






表

飾版



裏

佩用式

一 褒章ハ左肋ノ邊ヘ佩フヘシ  
但勲章及從軍記章ヲ有スル者ハ其章ノ左ヘ列シ帶フヘシ

○北海道ニ施行セサル法律規則ハ當分從前ノ通

○明治十五年二月九日第九號布告

今般北海道ニ函館札幌根室ノ三縣ヲ被置候處法律規則ノ從前北海道ニ施行セザル  
モノハ當分ノ内仍ホ從前ノ通タルベシ  
右奉 勅旨布告候事

○邊ノ部

○平民ニ乘馬ヲ許ス

○明治四年四月十八日布告  
自今平民乘馬被差許候事

○米金獻納ヲ停ム

○明治五年正月廿二日第十七號布告  
是迄御國恩冥加之爲メ米金獻納願出候者不少候所自今被差止候尤郷學ヲ開キ病院  
ヲ興シ或ハ水利堤防其他一切ノ諸工作及ヒ濟貧恤窮等ノ費用ヲ差出度志願之者ハ  
奇特ノ儀ニ付於地方官聞届其施設ノ方法委細取調可申出事

○米油限月賣買禁止

○明治七年十二月廿七日第三百三十八號布告

從來各地方ニ於テ米油限月賣買差許置候處今般右賣買一切差止候條自今會社ヲ結  
ヒ米穀賣買相場取引致シ度者ハ本年<sup>十</sup>月<sup>十</sup>第三百七號布告株式取引條例ノ方法ニ倣ヒ會  
社規則取調其管轄廳ヲ經テ大藏省へ願出許可ヲ受ヘク此旨布告候事  
但目今限月賣買取組居候分ハ右限月内ハ取引不苦候事

○明治八年四月十日第五十貳號布告

米油限月賣買一切差止候但目今賣買取組居候分ハ右限月内ハ取引不苦旨明治  
七年<sup>十二</sup>月<sup>十二</sup>第三百三十八號ヲ以テ布告候處各所期限ノ延縮ニヨリ取引ノ苦情有之  
趣ニ付更ニ一般來ル七月三十一日限り延期セシメ候條右限内從前ノ取引悉皆  
相片ケ付右布告ノ通更ニ出願可致此旨布告候事

○明治八年七月二十三日第百貳拾三號布告

米油限月賣買一切差止候旨明治七年<sup>十二</sup>月<sup>十二</sup>第三百三十八號ヲ以テ布告候後本年<sup>四</sup>月<sup>四</sup>  
第五拾貳號ヲ以テ更ニ當七月三十一日限り取引延期ノ儀布告候處尙詮議ノ次  
第有之來ル十一月三十日限り延期セシメ候條此旨布告候事

○明治八年十月十七日第百五拾五號布告

米油限月賣買ノ儀ニ付昨七年<sup>十二</sup>月<sup>十二</sup>第三百三十八號并ニ本年<sup>四</sup>月<sup>四</sup>第五十二號及<sup>七</sup>月<sup>七</sup>  
百二十三號ヲ以當十一月三十日限取引延期ノ儀及布告置候處猶營業上實際ノ  
慣法等ニヨリ右期限内難取纏事情有之向ハ其事由ヲ詳記シ管轄廳ヲ經テ内務  
省へ申出指揮ヲ可受此旨布告候事

○平民自今必ス苗字ヲ唱ヘシム

○明治八年二月十三日第貳拾貳號布告

平民苗字被差許候旨明治三年<sup>九</sup>月布告候處自今必苗字相唱可中尤祖先以來苗字不分  
明ノ向ハ新タニ苗字ヲ設ケ候様可致此旨布告候事

○米商會所條例

○明治九年八月一日第百五號布告

從來各地方ニ於テ差許置候米油限月賣買一切差止メ自今米穀賣買相場取引致度モ  
ノハ會社規則取調可願出旨明治七年<sup>十二</sup>月第百三十八號ヲ以テ布告候處今般更ニ米  
商會所條例別冊ノ通相定候條營業致度者ハ右ニ照準可願出此旨布告候事  
米商會所條例

第一條 緒言

十四年三十一號布告ヲ以テ本條例中ハ大藏卿トアルヲ農商務省農商務卿ト改ム

第一節 米商會所ハ米穀流通ノタメ米商人ノ集會シテ賣買取引ヲ爲ス所ナリ而シ  
テ協同結社之ヲ創立セント欲スル者ハ内務卿ノ免許ヲ請フヘシ

第二節 内務卿ハ地方ノ景狀ヲ察シ之ヲ創立スルノ緊要ナルヤヲ考定シ之ヲ許可  
スルト否トノ權ヲ有ス

第三節 米商會所營業ハ五ヶ年ヲ以テ一期ト定ム右滿期ノ際猶之ヲ保續セント望  
ムモノハ更ニ其趣ヲ申立内務卿ノ免許ヲ乞フヘシ

第二條 會所創立ノ手續

第一節 米商會所ヲ創立スルニハ發起人十人以上ニシテ資本金ノ總額三萬圓以上  
タルヘシ

第二節 資本金ハ百圓ヲ以一株ト定メ發起人總員ニテ必資本金總高ノ半額以上ニ  
當ル株數ヲ所持スヘシ

第三節 會所ノ發起人ハ創立願書ニ此會所ヲ創立セントスル地方ノ從來米穀聚散  
ノ實況及ヒ將來賣買ノ目的ヲ詳悉シ各記名調印シ區戸長ノ奧書ヲ得會所創立証

書及ヒ定款申合規則等ヲ添へ之ヲ地方官廳へ差出スヘシ

第四節 地方官廳ニ於テハ願人共ノ身元行狀ヲ檢知シ且ツ其目的ノ利害障礙ノ有無ヲ識別シ又會議所等ノ設ケアル地方ニ於テハ其集議ヲ取り併セテ之ヲ參酌シ相當ト思量スルトキハ意見書ヲ添へ内務卿へ具申スベシ

第三條 開業ノ手續

第一節 發起人等ニ於テ會所創立ノ許可ヲ受ケタルトキハ直ニ其旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告シテ他ノ株主ヲ募ルコトヲ得

第二節 發起人ハ其募ニ應シタル株主等ト共ニ集會ヲナシ第五條ノ定限ニ隨ヒ差向キ五人以上ノ肝煎及ヒ正副頭取等ヲ撰任スヘシ

第三節 此頭取肝煎等ハ資本金總高ノ三分二ニ當ル現金或ハ日本政府ノ公債証書此公債証書ハ時々相場ノ昂低ヲ以テ増減スヘシト雖トモ明治七年大藏省乙第二十八號達ノ價額ヨリ減少スヘカラスヲ其地方官廳或ハ國立銀行ニ預ケ公正ナル預リ証書ヲ乞受ケ其寫ヲ内務卿ニ差出シ開業免狀ヲ請求スヘシ

第四節 會所ニ於テ開業免狀ヲ受ケタル上ハ其免狀ノ寫ヲ添へ何月何日ヨリ其商

業ヲ創ムヘキ旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告シ始メテ之ニ從事スルコトヲ得

第四條 社印ノ用方并印鑑差出方等ノ手續

第一節 開業免狀ヲ得テ其商業ヲ創メントスルニ當リ會所ノ印ヲ刻シ頭取以下諸役員ノ印ト共ニ其印影ヲ一纏メニシテ内務卿ニ差出スヘシ若シ改刻スル者アルハ其都度之ヲ差出スヘシ

第二節 會所ノ諸願何届又ハ諸証書約定書及ヒ往復ノ文書等ニ至ルマテ會所一般ニ關スルコトハ其會所ノ名義ヲ用井會所ノ印ヲ捺シ頭取肝煎等之ニ署名加印スヘシ

第五條 役員ノ程限

第一節 會所ノ役員ト稱スル者左ノ如シ

頭取

副頭取

肝煎

以下支配人書記等ノ名義ヲ以テ役員ヲ定ムルハ會所ノ都合ニ任ス

第二節 會所ノ役員タル者ハ該會所ニ於テ賣買本人又ハ仲買人トナルヲ許ルサス

第三節 右役員ハ株主ノ定例總集會ノ節投票ヲ以テ十株以上ヲ所持シタル株主中ヨリ肝煎ヲ撰擧シ肝煎ハ其同僚中ヨリ正副頭取ヲ推任シテ新舊交代セシムヘシ

第六條 役員ノ職務

第一節 頭取ハ會所ノ事務ヲ總轄シ他ノ役員ヲ指揮シ會所一切ノ責ニ任ス

第二節 頭取ハ肝煎分掌ノ事務ヲ定ムヘシ

第三節 副頭取ハ頭取ヲ助ケテ其事務ヲ共成シ時トシテハ其代理ノ任ニ當ルヘシ

第四節 肝煎ハ支配人書記等ノ役名ヲ議定シ其者等分掌ノ課程及ヒ俸給ヲ定メ社中差縫ノ事ヲ判決シ金穀ノ出納ヲ管理シ株主ノ衆議ヲ取ラントスル事柄アル時ハ之ヲ招集スルヲアルヘシ

十三年十九號布告  
ヲ以テ本節改正

第五節 肝煎ハ毎月何回ト定メタル會議ノ議員トナルヘシ

第六節 肝煎ハソノ同僚中又ハ頭取ニ於テ職任ニ不適當ノ行ヒアルカ又ハ之ヲ怠ル者アルトキハ臨時委員ヲ定メ次ノ肝煎會議ノ日ニ無名投票ヲ以テ三分ノ二以上ノ說ニ從ヒ之ヲ退職セシムルヲ得

第七條 株主ノ權利制限及株式讓渡ノ手續

第一節 株主ハ會所ノ本主ニシテ會所資本ノ一部ヲ入金シ其入金高ニ應シタル株券ヲ所持シ以テ株數相當ノ權利ヲ有シ營業上ノ損益ヲ負擔スル者ナルカ故ニ時々ノ景況ニ着目シ金員及ヒ出納勘定帳簿ヲ檢閲セント求ムルノ權アリ

第二節 株主ハ肝煎ノ承認ヲ經テ賣買本人又ハ仲買人ト爲ルヲ得其場合ニ於テハ別段証人ヲ要セスト雖モ仲買人タルノ身元金ヲ出サシムルヲ第八條第三節ノ通りタルヘク賣買上ニ於テハ之ヲ仲買人ト稱スヘシ

第三節 株主ハ何等ノ事故アルトモ會所解散ノ期ニ至ラサル時間ハ其株金ヲ取戻スヲ得ス

十三年十九號布告  
ヲ以テ本節改正

第四節 株主ハ肝煎ノ承認ヲ受ケタル上ニテ其所持ノ株式ヲ賣渡シ讓與ヘ又ハ質入抵當ト爲スヲ得ヘシ但シ其質入抵當ト爲シタル時間ハ總會議事ノ其發言ノ權ナク又役員ノ撰擧ニ應スルヲ許サス

第五節 株主其所持ノ株式ヲ賣渡シ又ハ讓與ヲ爲ス時ハ其賣買授受双方ヨリ連印ノ證書ヲ會所ニ差出スヘシ會所ハ此證書ヲ請取リタル時ニ株主帳ノ姓名ヲ書改ムヘシ若シ右手續ヲナサハル間ハ証書賣買授受ノ効ナキ者トス

第八條 仲買人入社ノ手續

第一節 仲買人トハ肝煎ノ承認ヲ經相當ノ身元金ヲ差入レテ自己ノ賣買取引ヲナシ又ハ社外人ノ依頼ヲ受ケ仲買人トナリ之ニ從事スル者ヲ云フ但他人ノ依頼ヲ受ケ仲買ヲ爲シタルキハ其依頼人ノ姓名住所等ヲ其時々肝煎ニ申告スヘシ

第二節 仲買人タラントスル者ハ會所ニ於テ定タル期日迄ニ書面ヲ以テ肝煎ニ申出ヘシ此書面ニハ姓名住所及ヒ丁年ナルヲ米商人タルヲ等ヲ詳記シテ之ニ調印シ且ツ二名以上証人ノ連印ヲ要ス

十二年四月號布告ヲ以テ本條中ヲ改正シテ三年九月號布告ニテ更ニ全文ヲ改正ス

十三年九月號布告ヲ以テ本條ヲ改正シテ又十五年二月十六號布告ニテ改正ス

十三年九月號布告ヲ以テ本條改正

第三節 仲買人タルノ身元金ハ少クトモ百圓以上タルヘシ

第四節 仲買人退社セントスルキハ其旨趣ヲ書面ヲ以テ肝煎ニ申出ヘシ肝煎ハ之ヲ受ケテ十日間之ヲ會所ニ張出シ置キ會所ニ連帶シタル計算上ノ關係ナキヲ認タル上ニテ其退社ヲ許シ身元金ヲ返付シテ証人ノ責任ヲ解クヘシ

第九條 商會所一般ノ規則

第一節 會所ニ於テハ仲買人ノ身元金及ヒ証據金ヲ使用スヘカラス

第二節 會所ハ賣買上ノ差違ヲ解キ違約ノ處分ヲ爲スノ義務アリ

第十條 賣買取引ノ手續

第一節 會所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現場ト定期ノ二様ニ分チ必ス現米金ノ受渡シヲナスヘシ但シ定期ノ分ト雖モ其期限三ヶ月ヨリ永カルヘカラス

第二節 賣買ヲ約シタルキハ賣買主ノ雙方ヨリ其約定ノ証據金ヲ會所ニ預リ置クヘシ此証據金ハ少クトモ約定代金高十分ノ一宛ヲ下ルヘカラス又此証據金ノ外ニ時々相場ノ高低ニヨリ追証據金増証據金等ヲ差入レシムルヲ得ヘシ

十五年二月十六號布告ヲ以テ本條ト改正ス

十三年九月號布告ヲ以テ本條ヲ改正



第三節 賣買約定ノ期日ニ至ツテハ會所役員立會ノ上現米金ノ受渡ヲナシ其取引ヲ終ルヘシ

第四節 定期約定期限内ニ甲ヨリ乙ニ賣リシ米ヲ乙ヨリ甲ニ買戻シ又ハ甲ノ乙ヨリ買ヒシ米ヲ甲ヨリ丙ニ賣ルコトヲ得ヘシ但シ最初ニ定メタル期日ニ至テハ必ス現米金ノ取引ヲ爲スヘシ

第十一條 手数料並ニ口錢ノ制限

第一節 會所ニ於テ賣買雙方ヨリ收領スヘキ手数料ハ賣買金高千分ノ二ニ超ユ可カラズ

第二節 仲買口錢ハ其頼人トノ示談ニ任スト雖トモ會所ニ於テ豫メ其制限ヲ立ルモ妨ケナシトス

第三節 手数料口錢ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ニ關スル他ノ債主ニ先ツテ之ヲ收受スルコトヲ得

第十二條 會議ノ規則

十二年四月號布告ヲ以テ本條中ヲ改正シ四年三月十九號布告ニテ全文改正十二年四月號布告ヲ以テ本條中改正

第一節 會所ノ會議ヲ分ツテ肝煎會議ト株主總集會トノ二類トス

第二節 肝煎會議ハ毎月何回ト定メ頭取ヲ以テ議長トナス此會議ニ於テ發言ノ權ハ一人ニ付一説ト定メ衆說ヲ取リテ其議事ノ可否ヲ決ス若シ可否ノ數相半ハスルハ議長ノ判決ニ任カス

第三節 右會議ニ當リ出席定員ノ半ハニ充タサルハ其議事ヲ始ムヘカラス但シ急遽ノ事件ハ格別ナリトス

第四節 株主ノ總集會ハ毎年一度又ハ數度例日ヲ定メテ之ヲ開ク此集會ハ頭取肝煎ノ撰舉及ヒ會所營業ノ實況計算ノ得失ヲ議スルヲ主務トス

第五節 株主五分ノ一以上ノ請求又ハ肝煎ノ衆議ニ依リテハ臨時總集會ヲ開クコトヲ得

第六節 總集會ニ於テノ發言ノ權利決議ノ方法ハ便宜ニ從テ之ヲ定ムヘシ

第七節 總集會ニ於テノ議長ハ頭取又ハ株主中ヨリ撰舉スルモ妨ケナシ

第十三條 資本金増減ノ手續

十五年二十六號布告ヲ以テ但書追加

第一節 會所ニ於テ資本金高ヲ増減セントスルハ總集會ノ決議案ヲ具シ頭取肝煎其次第ヲ詳記シ内務卿ノ指揮ヲ受クヘシ

第二節 右増減ノ許可ヲ得タル上ハ直ニ世上ニ公告シ其増減セシ名前書ヲ取經メタル上内務卿ニ届出且地方官廳或ハ銀行ニ預ケタル營業保證ノ金額ヲ増減スヘシ

第十四條 損益金計算ノ定規

第一節 頭取肝煎ハ毎年兩度以上營業ノ總決算ヲ爲シ其内税金並積立金其他一切ノ社費ヲ引去リ残り損益高ヲ以テ株數ニ割り合セ之ヲ株主ニ分賦スヘシ

第二節 右計算表ハ株主ニ分賦ノ日ヨリ十五日内内務卿ニ届出且世上ニ公告スヘシ

第十五條 納税ノ手續及ヒ積金ノ規則

第一節 會所ノ税金ハ明治八年<sup>五月</sup>第八十八號布告ニ照準シ前半年分ハ七月中後半<sup>年分</sup>ハ翌年一月中之ヲ地方官廳へ上納シ地方官ハ一般ノ收税手續ニヨリ租税寮

十五年二十六號布告ヲ以テ本節改正

十三年十九號布告ヲ以テ第一節ヲ改正シ十五年二十六號布告ニテ第二節ヲ修正シ分テ三條トス

第二節 株主等へ配當スヘキ純益金一ケ年一割即百分ノ十以上ノ利息ニ當ルハ肝煎ノ衆議ヲ以テ割賦高ノ内幾分ヲ引去リ之ヲ積立テ以テ非常準備金ト爲スヘシ

第十六條 報告ノ定規

第一節 頭取肝煎ハ株主及ヒ役員仲買人ノ進退又ハ賣買ノ實況等ヲ詳記シ之ヲ内務卿ニ申告スヘシ

第十七條 官員檢査規則

第一節 内務省又ハ地方官廳ヨリ時トシテ官員ヲ派出シ會所營業ノ模様其他諸帳簿等ヲ檢査セシムルコトアルヘシ若シ右ニ付疑問等アル時ハ逐一答辨ヲ爲スヘシ

第十八條 諸願届其他ノ書類上達ノ定規

第一節 會所ヨリ諸願届其他ノ書類及ヒ報告書共内務卿へ差出サントスルニハ都テ正副三通タルヘク其正副トモ必ス捺印シテ地方官廳ヲ經由スヘシ

十五年二十六號布告ヲ以テ本節改正

十五年二十六號布告ヲ以テ本節改正

第十九條 罰則

十三年十九號布告  
ヲ以テ本節改正

第一節 會所ノ役員及ヒ株主仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タル者株主仲買人ノ條例ニ背犯シタルヲ不問ニ措又ハ背犯セシメタル實証アルハ役員並ニ本人トモソノコノ輕重ニヨリ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

十三年十九號布告  
ヲ以テ新ニ第二節  
ヲ定ム  
十三年十九號布告  
ヲ以テ本節ヲ第三  
節トス

第二節 官員檢査ノ節簿冊書類ヲ差出スコヲ拒ミ又ハ疑問ニ答辨ヲ爲ツ、ル者アルハ頭取又ハ其主任者へ五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

十三年十九號布告  
ヲ以テ本節ヲ第四  
節トシ十五年二十  
六號布告ニテ改正

第三節 會所限リ違約人ヲ處分シ過怠等ヲ申付タルハ除名或ハ株金身元金約定証據金ノ高ニ越ユヘカラス

右ノ通り制定候事

○明治十二年二月一日第四號布告

明治九年<sup>八</sup>月<sup>八</sup>第百五號布告米商會所條例中左ノ通改定候條此旨布告候事

米商會所條例

第二條第三節左ノ但書ヲ加フ

但創立証書中株主ノ責任ニ於テ有限或ハ無限ナルコトヲ明記スヘシ

十三年十九號布告  
ヲ以テ本節改正

第八條第一節中「仲買ヲ爲シタルハ」ノ下「ト雖モ會所ニ於テハ都テ仲買人ノ賣買シタルモノト看做スヘシ」ニ改ム

十三年十九號布告  
ヲ以テ本節改正

第十一條第一節中「手数料」ノ下「現場取引ハ賣買金高千分ノ一ヨリ多カラス二千分ノ一ヨリ少ナカラス又定期取引ハ千分ノ一ヨリ少ナカラス千分ノ二ヨリ多カラサルヘシ」ニ改ム

同條第二節中「任スト雖モ」ノ下「其制限ハ前節手数料ノ高ニ超ユヘカラス」ニ改ム

○明治十三年四月十五日第拾九號布告

明治九年<sup>八</sup>月<sup>八</sup>第百五號布告米商會所條例中左ノ通改正加除候條此旨布告候事

米商會所條例第三條第二節

發起人ハ其募ニ應シタル株主等ト共ニ集會ヲ爲シ第五條ノ程限ニ從ヒ五人以上ノ肝煎及ヒ正副頭取ヲ撰任シ其住所姓名年齡等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ地方廳ヲ經由シ大藏卿ノ認許ヲ受クヘシ大藏卿ハ時トシテ其改撰ヲ命スルコアルヘシ

同第五條第三節

右役員ハ株主ノ定例總集會ノ節投票ヲ以テ十株以上ヲ所持シタル株主中ヨリ肝煎ヲ撰舉シ肝煎ハ其同僚中ヨリ正副頭取ヲ撰任シ共ニ其住所姓名年齡等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ地方廳ヲ經由シ大藏卿ノ認許ヲ受テ新舊交代セムヘシ大藏卿ハ時トシテ其改撰ヲ命スルコアルヘシ

同第七條第二節

株主ハ肝煎ノ承諾ヲ得テ仲買人ト爲ルヲ得其場合ニ於テハ別段証人ヲ要セスト雖モ通常仲買人タルノ條件ニ適應スルヲ要ス

同第八條第一節

仲買人タルヲ得ヘキ者ハ丁年ニシテ會所所在ノ地ニ於テ滿一年以上米商營業ヲ爲シタル者ニ限ル而テ仲買人トナラント欲スル者ハ身元金千圓以上ヲ出シ株主二名以上ノ保證ヲ以テ肝煎ニ申出テ其承認ヲ得タル上地方廳ヲ經由シテ仲買人トナラントスル願書ヲ大藏卿ニ捧ケテ其認許ヲ受クヘシ身元金ハ現金又ハ日本政府ノ公債証書ヲ以テ會所ニ預ケ置クヘシ

同 第二節

仲買人ハ他人ノ依頼ヲ受ケテ賣買取引ヲ爲スト自己ノタメニ爲ストヲ問ハス會所ニ對シテハ其賣買取引上ノ責任ノ負フヘキモノトス

同 第三節

仲買人ハ五名ヲ一組トシ組合中ヨリ一名ヲ撰任シ肝煎ノ承認ヲ得テ組頭トナシ組合中一切ノ取締ヲ爲サシムヘシ

同第十條第一節

會所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現米直取引ト定期トノ二様ニ分チ又其定期

ヲ二種ト爲シ其一ヲ約定ノ期限ニ至リ現米金ノ受渡ヲ爲スモノトシ其二ヲ豫定ノ期限内ニ其取引ヲ完結シ又ハ解約スルモノトス

同 第二節

現米直取引ハ見本米ヲ以テ會所内ニ於テ賣買ヲ爲シ其現石受渡ノ順序ハ會所ノ規則ニ從フヘシ

同 第三節

定期賣買ヲ約定シタルハ會所ノ役員ニ届出テ賣買主雙方ヨリ約定ノ証據金ヲ會所ニ差入ルヘシ此証據金ハ少クトモ約定代金高十分ノ二ヨリ下ルヘカラス又此証據金ノ外ニ時々相場ノ高低ニ因テハ追証據金或ハ期日前ニ至リ猶ホ其約定ヲ確固ナラシムル爲メ増証據金ヲ差入シムヘシ

同 第四節

定期賣買約定ノ期限ハ三ヶ月ヨリ永カルヘカラス而シテ其期日ニ至レハ會所ノ役員立會ノ上必ス現米金ノ受渡シヲ爲シ其取引ヲ完結スヘシ但約定濟

十五年六月十六號布告ヲ以テ本條中十分ノ二トアルヲ十分ノ一ト改正シテ施行ス  
六年四月一日ヨリ

ノ分ハ雙方ノ都合ニヨリ其期限内ニ買戻シ又ハ買受ケタル分ヲ他人へ賣渡スヲ得

同第十一條第一節

會所ニ於テ賣買雙方ヨリ領收スヘキ手数料直取引ハ賣買金高ノ二千分ノ一ヨリ多カラス又定期取引ハ千分ノ二ヨリ多カラサルヘシ

同第十六條第一節

頭取肝煎ハ株主及ヒ役員ノ進退仲買人ノ退社又ハ賣買ノ實況等ヲ詳記シ之ヲ大藏卿ニ申告スヘシ

同第十九條第一節

會所ノ役員及ヒ株主仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タル者株主仲買人ノ條例ニ背犯シタルヲ不問ニ措キ又ハ背犯セシメタル實証アルハ役員并ニ本人トモ其輕重ニヨリ三拾圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

同 第二節

十五年二十六號布告ヲ以テ本條ヲ改正ス

前節ヲ犯シタル者ヲ告發シタル者ニハ其告發ニ依テ科シタル罰金ノ半額ヲ給ス

同 第三節

從前ノ第二節

同 第四節

從前ノ第三節

十五年二十六號布告ヲ以テ本節ヲ改正ス

○明治十四年五月廿五日第三十一號布告

明治九年<sup>八</sup>月<sup>八</sup>第百五號布告米商會所條例中內務省及內務卿又ハ大藏卿トアルハ都テ農商務省及農商務卿ト改正候條此旨布告候事

○明治十五年五月二十四日第貳拾六號布告

明治九年<sup>八</sup>月<sup>八</sup>第百五號布告米商會所條例中左ノ通改正追加シ來ル七月一日ヨリ

施行ス

但明治八年<sup>五</sup>月<sup>五</sup>第<sup>八</sup>拾<sup>八</sup>號布告ハ廢止トス

第八條

第二節 仲買人タルモノハ他人ノ依頼ヲ受ルニアラサレハ賣買取引ヲナスコトヲ得ス其賣買取引ニ付會所ニ對シ自己ノ名義ヲ以テシ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負擔スヘシ但一口ノ取引ニ付賣買雙方ノ依頼ヲ受クルヲ得ス

第九條

第一節 外國人ヲ株主並仲買人ト爲スコトヲ得ス  
第二節 會所ニ於テ賣買取引ヲ爲スモノハ其會所ノ仲買人ニ限ルヘシ  
第三節 會所ニ於テハ貸附金ヲナスヘカラス又仲買人ノ身元金及證據金ヲ使用スヘカラス

第四節 會所ハ此條例ノ旨趣ニ基キ賣買主雙方ノ約定ヲ履行セシムルノ責

任アルモノトス

第五節 會所ハ左ノ場合ニ於テハ賣買ノ違約人トシテ會所限處分スルコトヲ得

第一 賣買主雙方若クハ一方其會所ニ差入ヘキ證據金ノ差入方ヲ怠リタルトキ

第二 賣買主雙方若クハ一方其取引約定ノ期日ニ至リ其約定ヲ執行セサルトキ

第三 會所ニ於テ定メタル現米検査ノ方法及受渡上ノ期約ニ背キタルトキ

第六節 會所ニ於テ違約人ヲ處分スルハ其違約ニ依リ會所ノ取引上ニ於テ失ヒタル利得ト蒙リタル損害トヲ其者ノ證據金及身元金ヲ以テ償ハシメ其者ヲ除名スルニ止ルヘシ而シテ仍ホ其損失ヲ償フコト能ハサルトキハ會所ニ於テ其責ニ任スヘシ

第十三條

第一節 但書追加

但其資本金賣買取引ノ景況ニ對シ不適當ト認ルトキハ農商務卿ハ其適當ノ金額ニ増加スヘキ旨ヲ命スルコトアルヘシ

第十五條

第一節 會所ハ會所ニ於テ領收セシ賣買手数料總金高十分ノ四ヲ稅納スヘシ而シテ其税金前半年分ハ七月中後半分ハ翌年一月中之ヲ地方廳ヘ上納スヘシ

第十六條

第一節 會所及仲買人ハ毎日取扱ノ事項并金穀出納等凡テ之ヲ詳明正確ニ記載シ且其簿記ノ方法ニ於テハ農商務卿ノ差圖アルトキハ其差圖ニ從フヘシ

第二節 會所及仲買人ニ於テ使用スル所ノ諸帳簿ハ其名目用法ヲ詳記シ之

十五年六月十六號  
分ヲ以テ本節中  
分ノ四トアルヲ  
分ノ二ト改正シ  
六年四月一日ヨリ  
施行ス

ヲ農商務卿ニ届出ヘシ

第三節 會所ハ賣買實際ノ景況及金穀出納其他役員ノ進退并株主ノ異同仲買人ノ退社ヲ農商務卿ニ報告スヘシ

第十七條

第一節 地方長官ハ時々官員ヲ派出シ會所及仲買人營業ノ模様其他諸帳簿并現米ノ所在其受渡ノ實況及會所ノ現金等ヲ査覈セシムヘシ又時トシテハ農商務省ヨリ官員ヲ派出シ之ヲ檢査セシムルコトアルヘシ若シ右檢査官員ヨリ疑問等アルトキハ會所ノ役員及仲買人等ハ逐一答辨ヲ爲サ、ルヘカラス

第十八條

第一節 會所ヨリ農商務卿ニ差出スヘキ文書中諸願ハ二通其他ハ一通宛ニシテ其差出方ハ地方廳ヲ經由スヘシ

第十九條

第四節 會所ノ規約ニ背犯シタル役員株主仲買人ヲ會所限リ處分スルハ之ヲ除名スルカ或ハ過怠料ヲ取立ルニ止ルモノトス但其過怠料ハ株金身元金ノ高ニ超ルヲ得ス

第二十條 營業停止及禁止

第一節 地方長官ハ會所ノ賣買ニ不正惡弊アルカ又ハ賣買取引上ノ景況穩當ナラサル爲メ公共ニ妨害ヲ及ホスト認ルトキハ其會所又ハ仲買人ノ營業ヲ停止シ其旨ヲ農商務卿ニ上申スヘシ農商務卿ハ其情狀ニ依リ會所又ハ仲買人ノ營業ヲ禁止シ又ハ役員ヲ退役セシムルコトアルヘシ  
右奉 勅旨布告候事

○明治十五年十二月二十七日第六拾六號布告

明治九年 月 日 第百五號布告米商會所條例第十條第三節中約定代金高十分ノ二トアルヲ十分ノ一ト改メ第十五條第一節中賣買手續料總金高十分ノ四トアルヲ

十五年四月十六號布告ヲ以テ本條ヲ刪除ス



十分ノ二ト改ム但來十六年四月一日ヨリ施行ス

右奉 勅旨布告候事

○明治十五年八月十九日第四拾六號布告

米商會所及ヒ株式取引所ノ賣買ニ不正惡弊アルカ又ハ賣買取引上ノ景況穩當ナラサル爲メ公共ニ妨害ヲ及ホスト認ムルトキハ農商務卿ハ其會所及ヒ取引所又ハ仲買人ノ營業ノ一部又ハ全部ヲ停止若クハ禁止シ又ハ役員ヲ退罷セシムルコトアルヘシ

但本年第貳拾六號布告米商會所條例追加第二十條ハ削除ス

右奉 勅旨布告候事

○明治十三年四月十五日第二十一號布告

法律定規ニ遵ヒ官許ヲ得タル米商會所株式及ヒ橫濱取引所外若クハ内タリモ

窃ニ米穀并金銀貨幣及株式ノ限月若クハ現場定規ヨリ起リタ賣買其他之ニ類

似シタル取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ其賣買取引ハ無効ト爲スヘシ

但本條ヲ犯シタル者ヲ告發シタル者ニハ其告發ニ因テ科シタル罰金ノ全部ヲ給ス其自ラ犯シタル者事未タ發覺セサル前ニ於テ自首シタル者ハ其罪ヲ問ハス

右布告候事

○變死ノ屍警察官ニテ解剖スルヲ得

○明治十年二月二十一日第二十二號布告

變死ニ係ル屍ヲ警察官吏檢査スル時ニ於テ解剖ヲ行ハサレハ其致命ノ原由ヲ確知

シ難キ旨醫師申立ル時ハ檢事檢事派出ナキ地方ハ其地方長官ノ許可ヲ受ケ其部分ヲ解剖檢査セシムルヲ得

右布告候事

○米商會所并株式取引所仲買人納稅規則

○明治十五年十二月二十七日第六拾五號布告

米商會所并株式取引所仲買人納稅規則左ノ通制定シ來十六年四月一日ヨリ施行ス

米商會所株式取引所仲買人納稅規則

第一條 米商會所仲買人定期賣買ヲ爲ストキハ賣買雙方ヨリ各約定代金高千分ノ五ヲ納稅スヘシ

第二條 株式取引所株式仲買人公債證書并諸株式ノ定期賣買ヲ爲ストキハ賣買雙

方ヨリ各約定代金高千分ノ一ヲ納稅スベシ

第三條 第一條第二條ノ場合ニ於テ定期内ニ轉賣又ハ買戻ヲ爲ス者ハ其轉賣又ハ買戻ニ係ル稅ヲ免除ス

第四條 株式取引所金銀貨仲買人金銀貨ノ取引ヲ爲ストキハ賣買双方ヨリ各其取引代金高千分ノ二半ヲ納稅スベシ

第五條 賣買ヲ解約スルコトアルモ其稅金ハ之ヲ還付セス

第六條 稅金ハ會所又ハ取引所ニ納ムベシ

第七條 會所及取引所ハ仲買人ヨリ納メタル稅金ヲ每一箇月取經メ翌月十日限り地方廳ニ上納スベシ

第八條 稅金徵收ノ方法ハ大藏卿ノ達ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第九條 大藏卿ハ地方廳ニ委任シ又ハ隨時官吏ヲ派出シ納稅ノ精算ヲ檢査セシムベシ

第十條 稅金ヲ納メスシテ賣買取引スル者ハ脫稅高三倍ノ罰金ニ處ス但此場合ニ

於テハ仲買人タルノ認許ハ其効ヲ失フモノトス

第十一條 前條ノ罰金ハ仲買人ノ身元金ニ對シテ第一先取ノ特權ヲ有スベシ

第十二條 會所及取引所ニ於テ本則納税ノ取締ヲ怠ルトキハ米商會所條例第十九條第一節株式取引所條例第四十八條及本年第四十六號布告ニ依リ處分シ仍ホ其資本金ヲ以テ納税ノ欠額ヲ追徴スベシ

右奉 勅旨布告候事

### ○止ノ部

#### ○富興行ヲ禁ス

○明治元年十二月廿三日布告

富興行之儀ハ兼而御禁制ニ有之處近年諸國ニ於テ金錢融通ヲ名トシ或ハ社寺再建等ニ托シ興行致候向モ有之趣元來澆季之弊風僥倖之利ヲ以民心ヲ誘惑スルヨリ自然農工商共其職業ヲ惰リ往々之カ爲ニ家産ヲ破候者モ不少哉ニ相聞ヘ以ノ外ノ事ニ候斯御一新之折柄右様之所業殊ニ御趣意ニ相戻リ候儀ニ付更ニ嚴禁被仰出候事

○明治十五年五月廿四日第二十五號布告

明治元年十二月二十三日ノ布告ニ原ツキ富籤賣買ノ牙保幫助ヲ爲シ及富籤ヲ購買シタル者處分方左ノ通制定ス

#### 第一條

凡富籤賣買ノ牙保若クハ幫助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條

凡富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未タ拂ハサルトヲ問ハス二十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借りテ購買シタル者及他人ヨリ譲リ受ケタル者亦同シ

第三條

第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルコトヲ得ス

第四條

富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

第五條

富籤ニ關スル罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ

免ス

再犯ニ係ル者ハ自首スト雖モ其罪ヲ免セス

第六條

富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス

自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル  
右奉 勅旨布告候事

○同苗同名ニテ差支アル者ノ外改姓名ヲ禁ス

○明治五年八月廿四日第二百三十五號布告

華族ヨリ平民ニ至ル迄自今苗字名并屋號共改稱不相成候事  
但同苗同名ニテ無餘儀差支有之者ハ管轄廳へ可願出事

九年五號布告ヲ以テ但書改正

○明治九年一月廿七日第五號布告

明治五年<sup>八</sup>月<sup>八</sup>第二三十五號布告但書左之通改正候條此旨布告候事

華族ヨリ云々

但同苗同名等無餘儀差支有之者ハ管轄廳へ改名可願出事

○動産不動産書入金穀貸借規前<sup>地所書入規則ハ知ノ部ニ建物書入質規則ハ多ノ部ニ詳出ス</sup>

○明治六年八月廿三日第三百六號布告

動産不動産書入金穀貸借規則左之通相定候條此旨布告候事

動産不動産書入金穀貸借規則

一動産不動産ヲ書入ニ爲シ金穀貸借致シ右期限中書入ノ動産不動産流亡又ハ燒失ヲ爲スト雖モ負債ハ身代限濟方可申付事

一動産不動産ヲ書入ニ爲シ金穀貸借シ濟方ノ期ニ臨ミ右書入ノ動産不動産ノ相場

高下アリテ糶賣ノ價ヒ負債ノ高ヨリ餘分アル時ハ其餘分ハ借主へ與フヘシ若シ其價ヒ負債ヨリ不足ナレハ身代限濟方可申付事

一壬申第三百號布告以前家祿ヲ書入ニ爲シ金穀貸借致シタル分ハ家祿ヲ除キ外物品ヲ以テ身代限濟方可申付事

○度量衡改定規則

○明治九年二月十九日第十七號布告

度量衡三器別紙種類表ノ通改定候條左ノ規則ノ通可相心得此旨布告候事

別紙

度量衡改定規則

第一條

三器改定ニ付各地方ニ三器製作所並賣捌所ヲ設ケ製作所ニ於テ製作セル新器來ル

三月十五日ヨリ賣捌所ニ所テ發賣爲致從前ノ枡坐秤坐ハ同日ヨリ廢止候事

第二條

各地方ニ舊器改所ヲ設ケ候條從前所持ノ三器來ル三月十五日ヨリ十二月廿五日マテニ右改所ヘ差出シ檢査ヲ請クヘシ右期日ヲ過キ檢印ナキ器ヲ商業上ニ用フルヲ禁ス時宜ニヨリ掛リ官吏商家ニ入り用器ヲ視察スヘキ事

但改所ニ於テ檢査ノ上新器ニ適合セル分ハ檢印シ廢スヘキ分ハ廢ノ字ヲ印シ總テ所持人ニ下ケ戻スヘシ

第三條

製作所賣捌所官許ノ外三器製作賣捌一切不相成事

但尺ハ尺杖等一時使用ノ爲メ目盛致シ枡ハ芋烏芋等ヲ量ル爲メ箱ヲ製シ又ハ賣買スルハ苦シカラス

第四條

尺度秤量ノ目ヲ盛直シ枡ノ緣鉄弦鉄ヲ打替ヘ斗概ヲ修覆スル等ハ必ス製作所ヘ差

出スヘク秤量ノ緒紐ヲ附替フルハ製作所又ハ賣捌所ニ差出スヘシ其他ノ人自儘ニ致シ候儀不相成事

第五條

舊新器共檢印アルヲ賣拂度者ハ必ス賣捌所ニ可申出事

但秤ノ鍾皿又ハ枡ノ緣鉄弦鉄等ヲ取離シ古鏡トシテ賣買スルハ苦シカラス

第六條

第二條以下ノ禁令ヲ犯ス者ハ其品取上ケ律ニ照シテ處斷スヘキ事

十四年七十二號布  
告別例處分方参照  
スヘシ

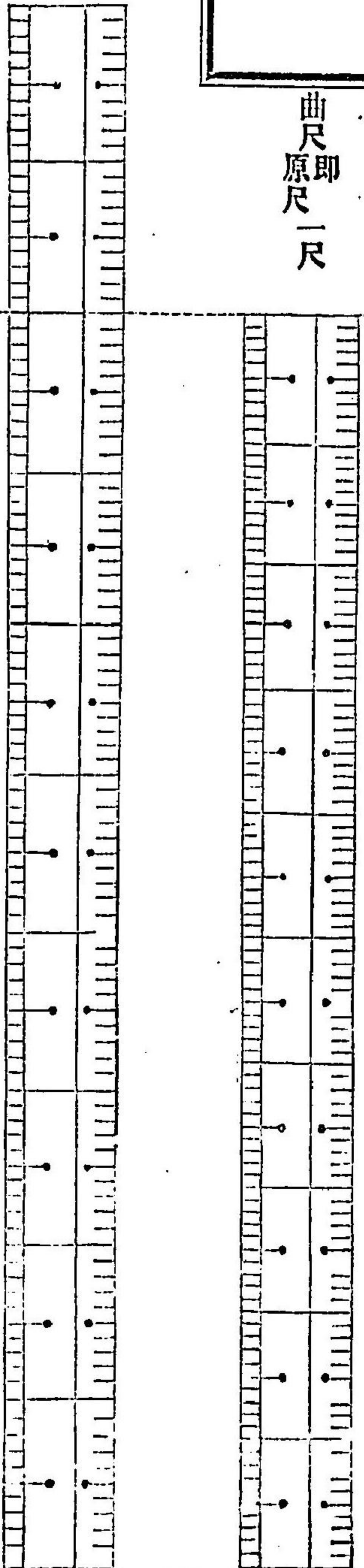
度斗衡種類表

尺度種類表

尺斗圖 本尺二分  
一之縮圖

曲尺即原尺一尺

尺鯨一尺



右表面之通り尺度ハ曲尺ヲ以テ原尺ト定メ尤種類ハ右曲尺鯨尺ノ二種ニ限リ候事

但製作器品ハ竹木鍍黃銅其外等各業ノ便利ニ就キ相製シ尤其寸尺或ハ三寸五分或ハ一尺二尺各其寸法ヲ以テ相製シ候筈之事  
附木匠曲尺ノ裏目ハ曲尺一尺ノ方斜ニテ一尺四寸一分四厘二毛餘ヲ一ト相立テ勾倍等定候ニ使用致候儀ニ付其規矩ヲ以テ目盛致候筈之事

尺度比較

曲尺ヲ鯨尺ニ較ス

曲尺一尺

鯨尺ヲ曲尺ニ較ス

鯨尺一尺

鯨尺八寸

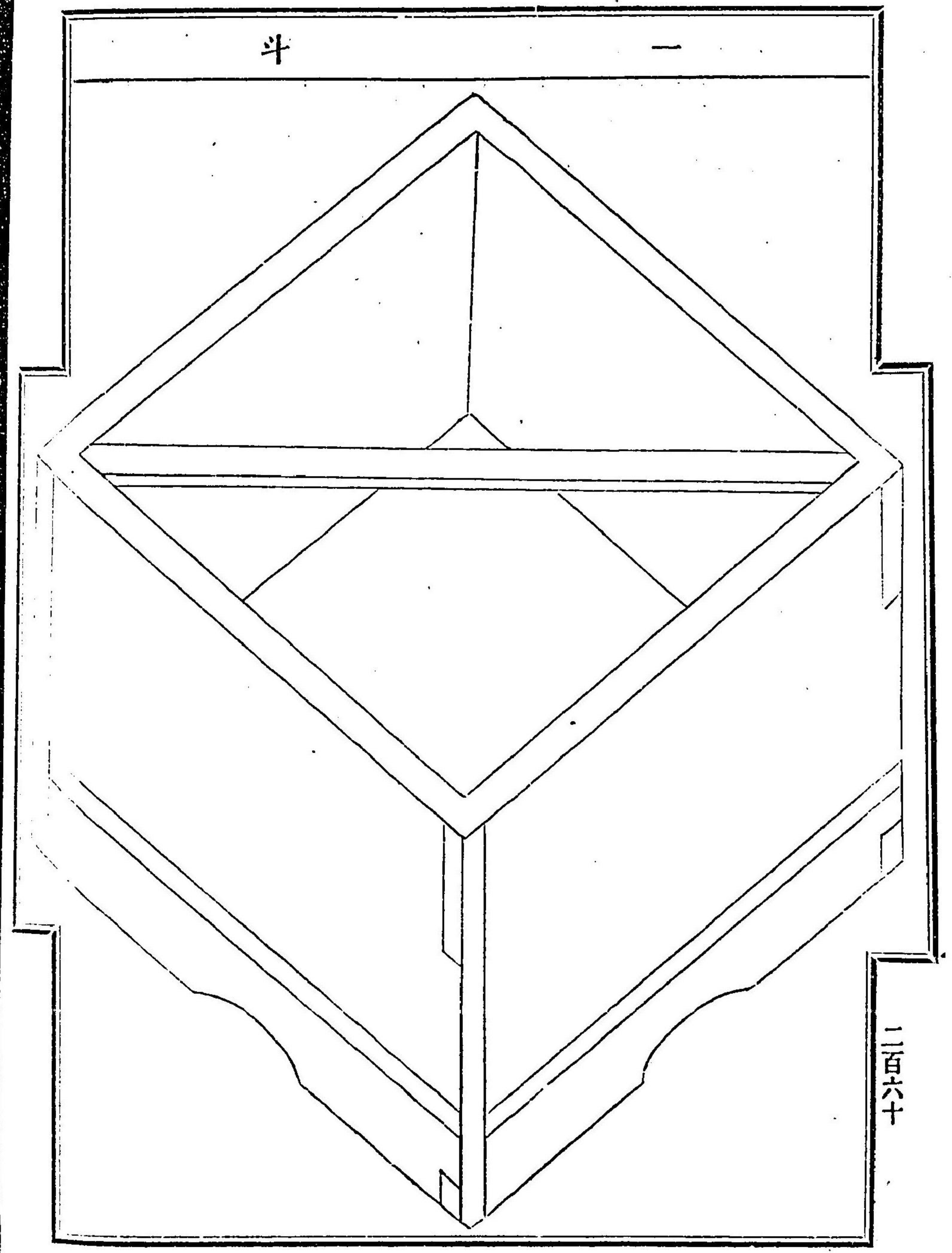
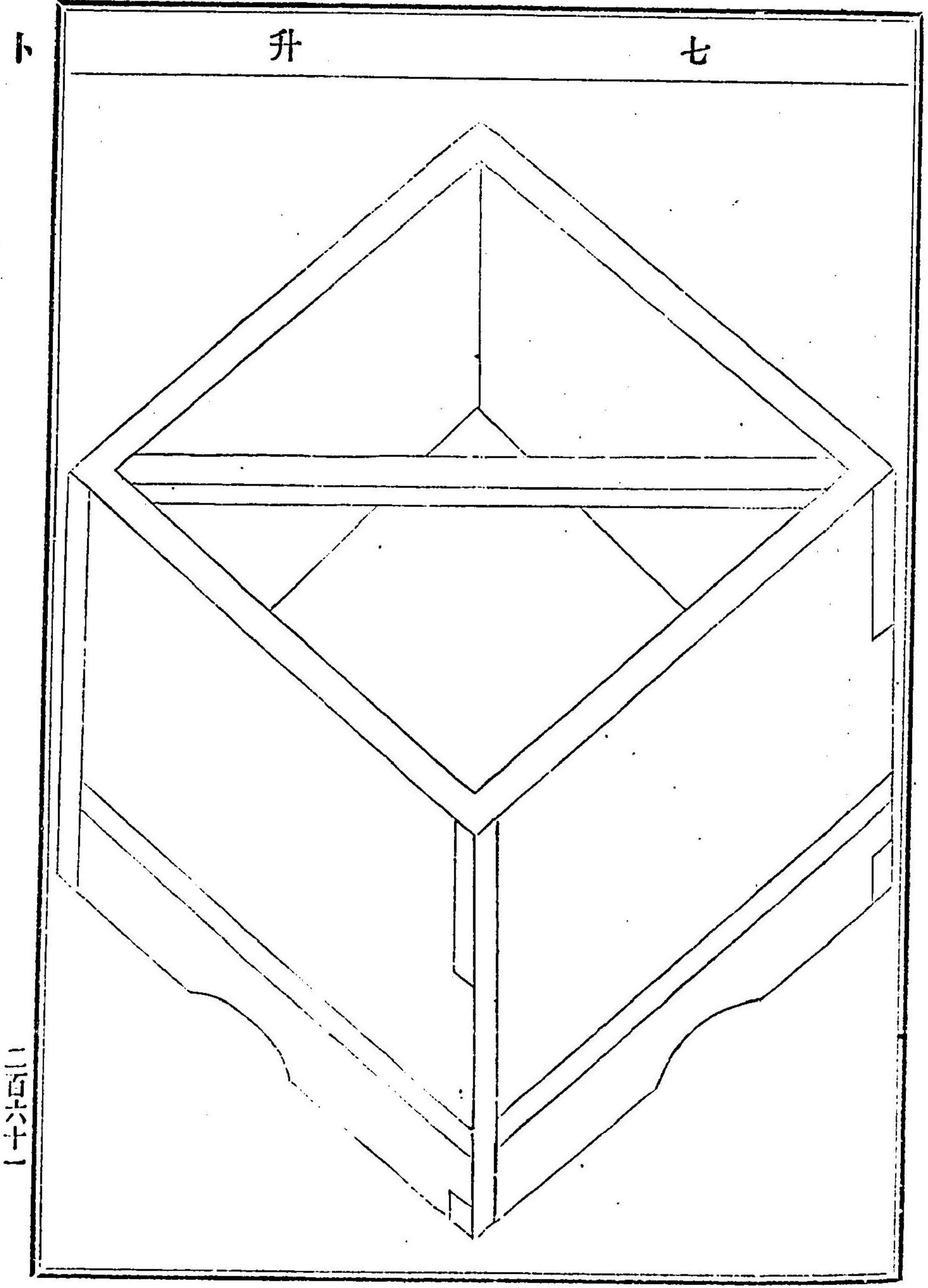
曲尺一尺二寸五分

斗量種類表

舊器穀量圖

本尺四分  
一之縮圖

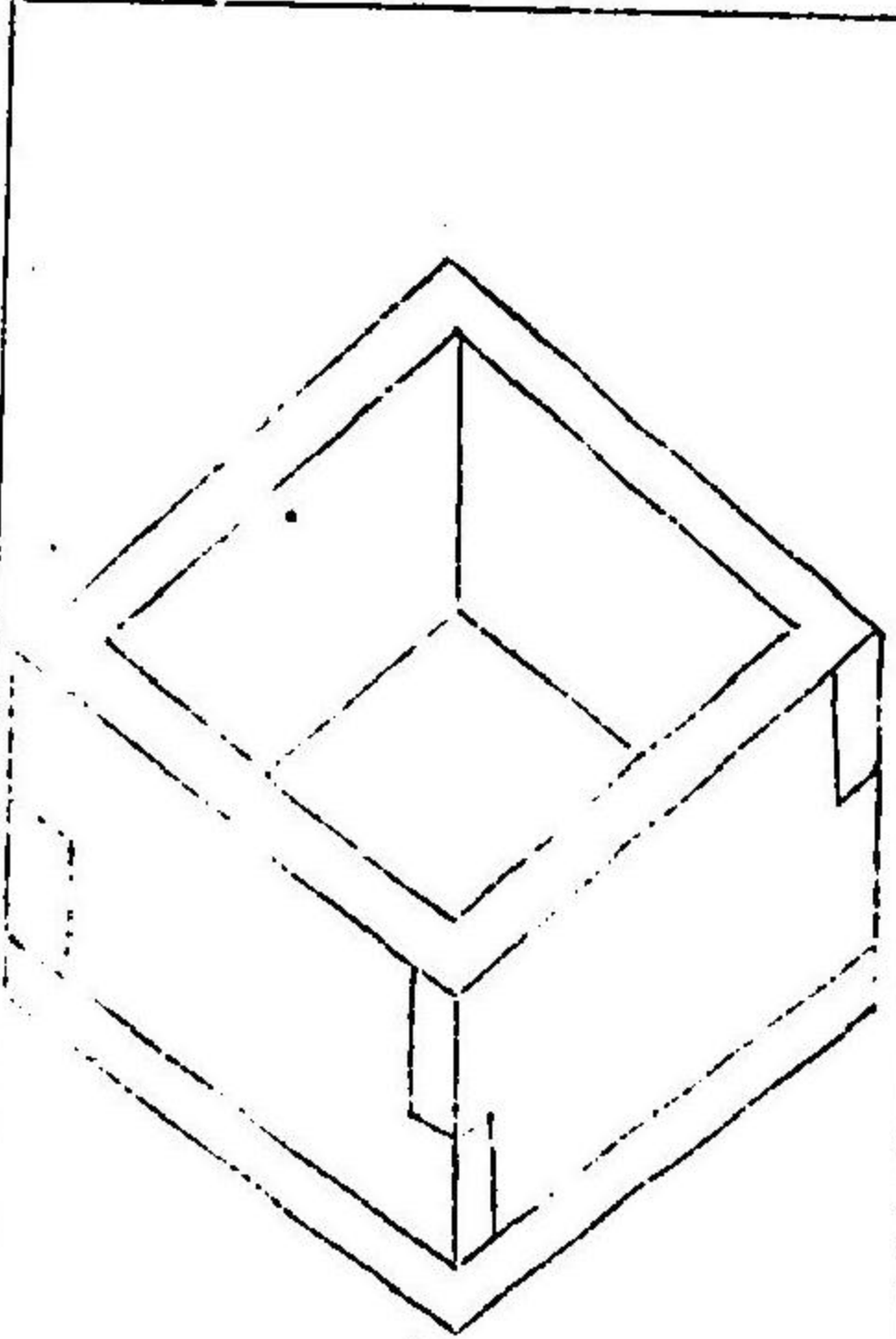




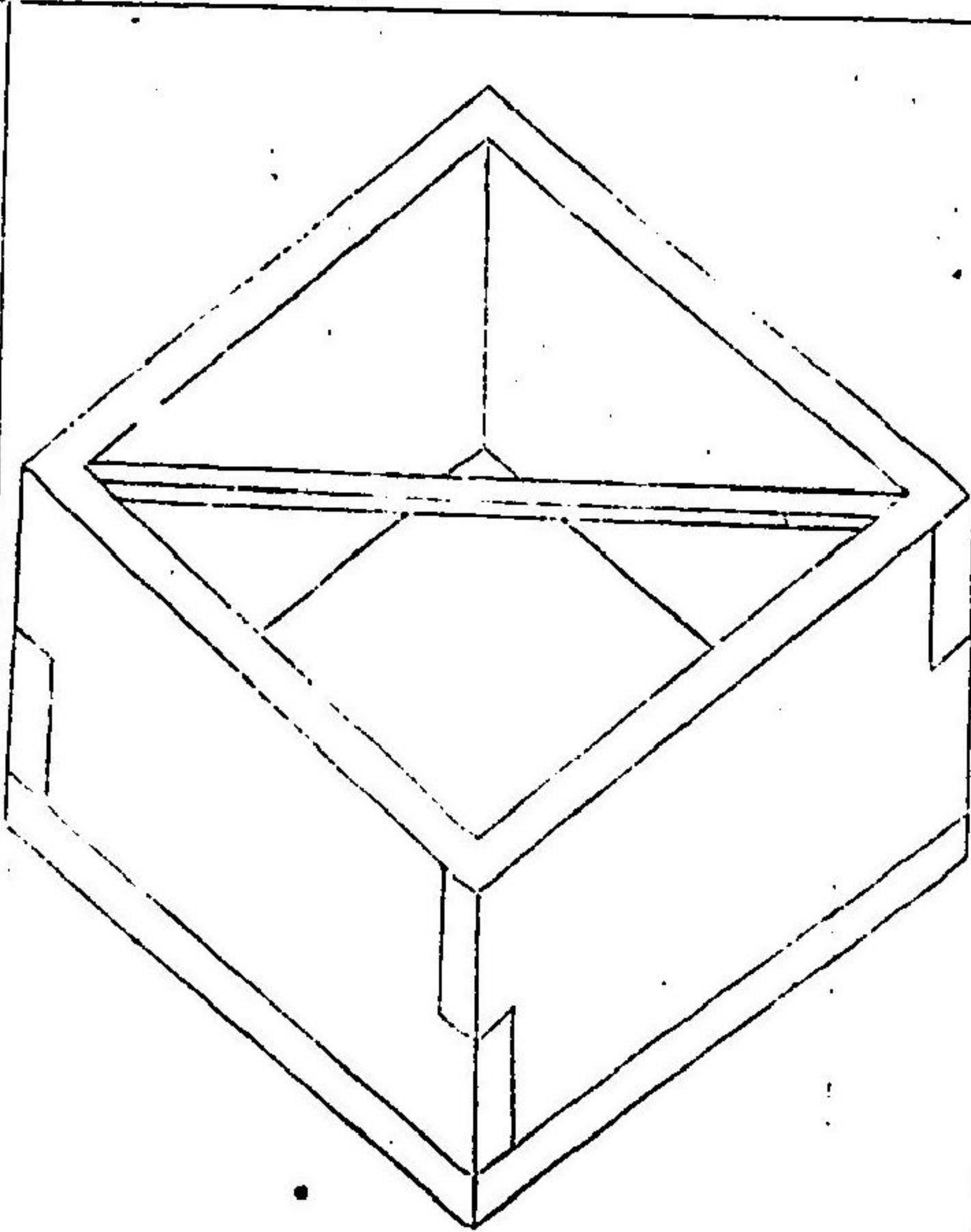
卜

同水量圖一本之尺縮四分

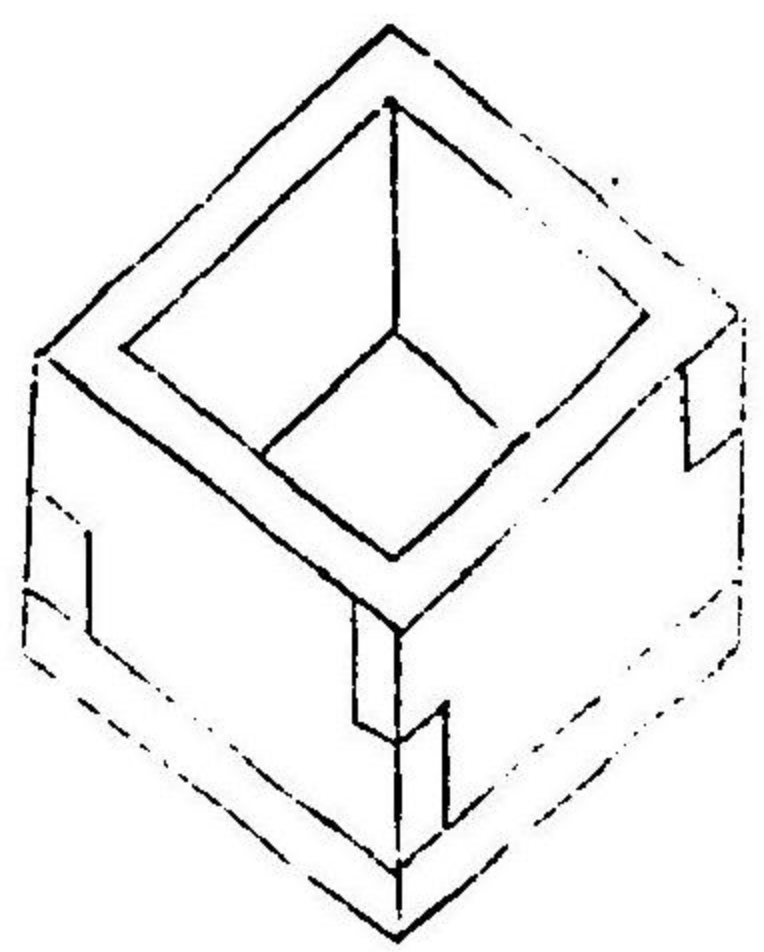
二合五勺



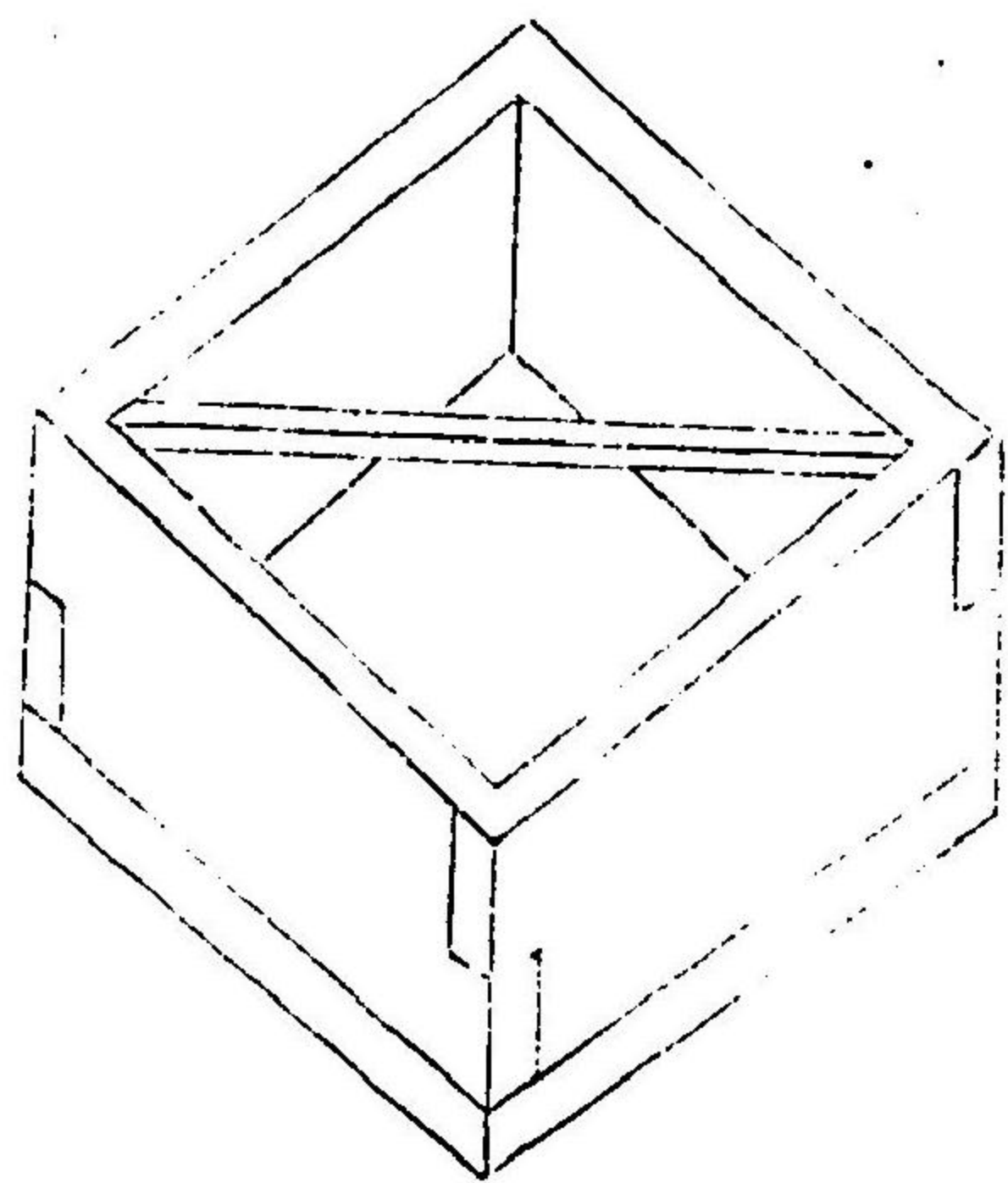
一升



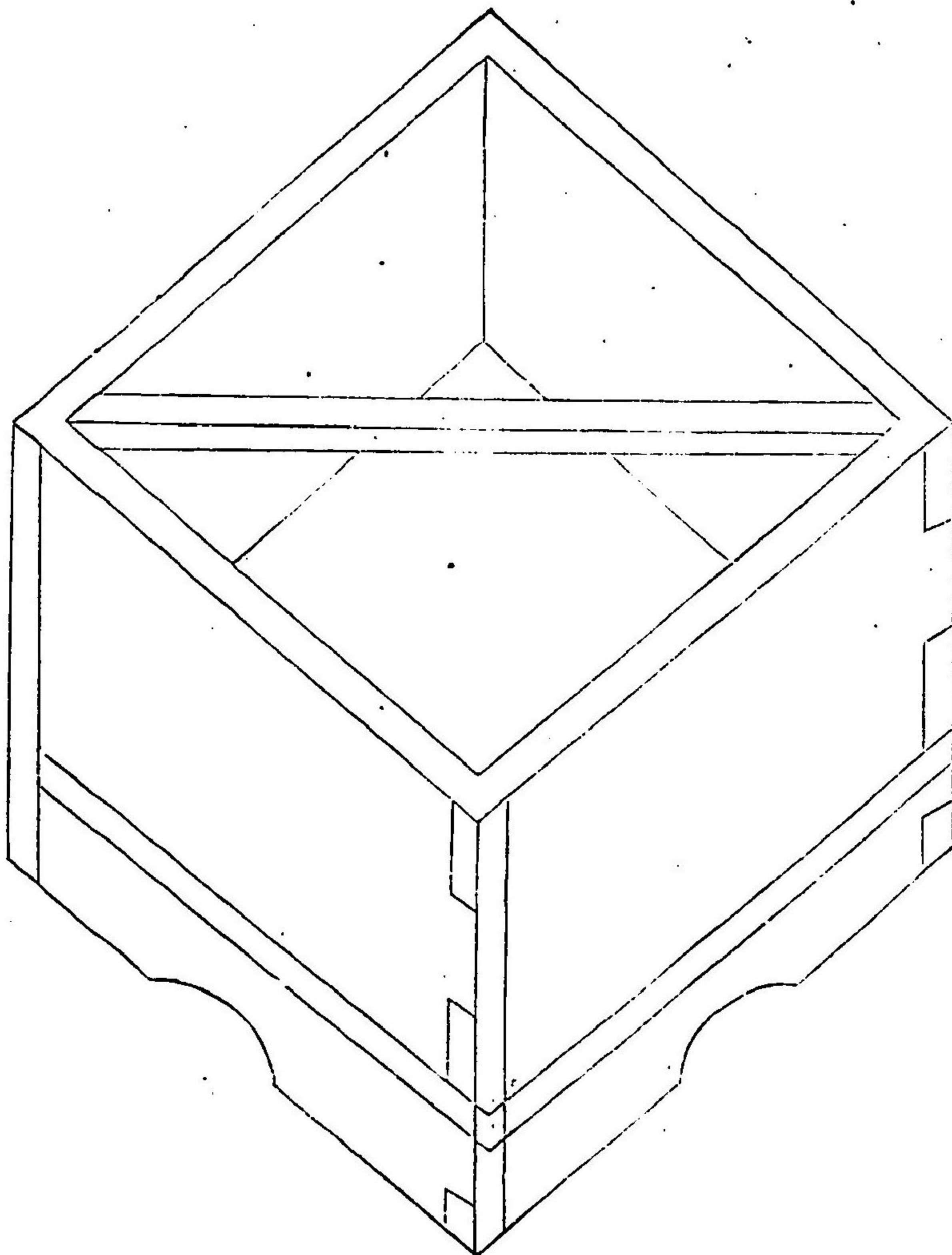
一合

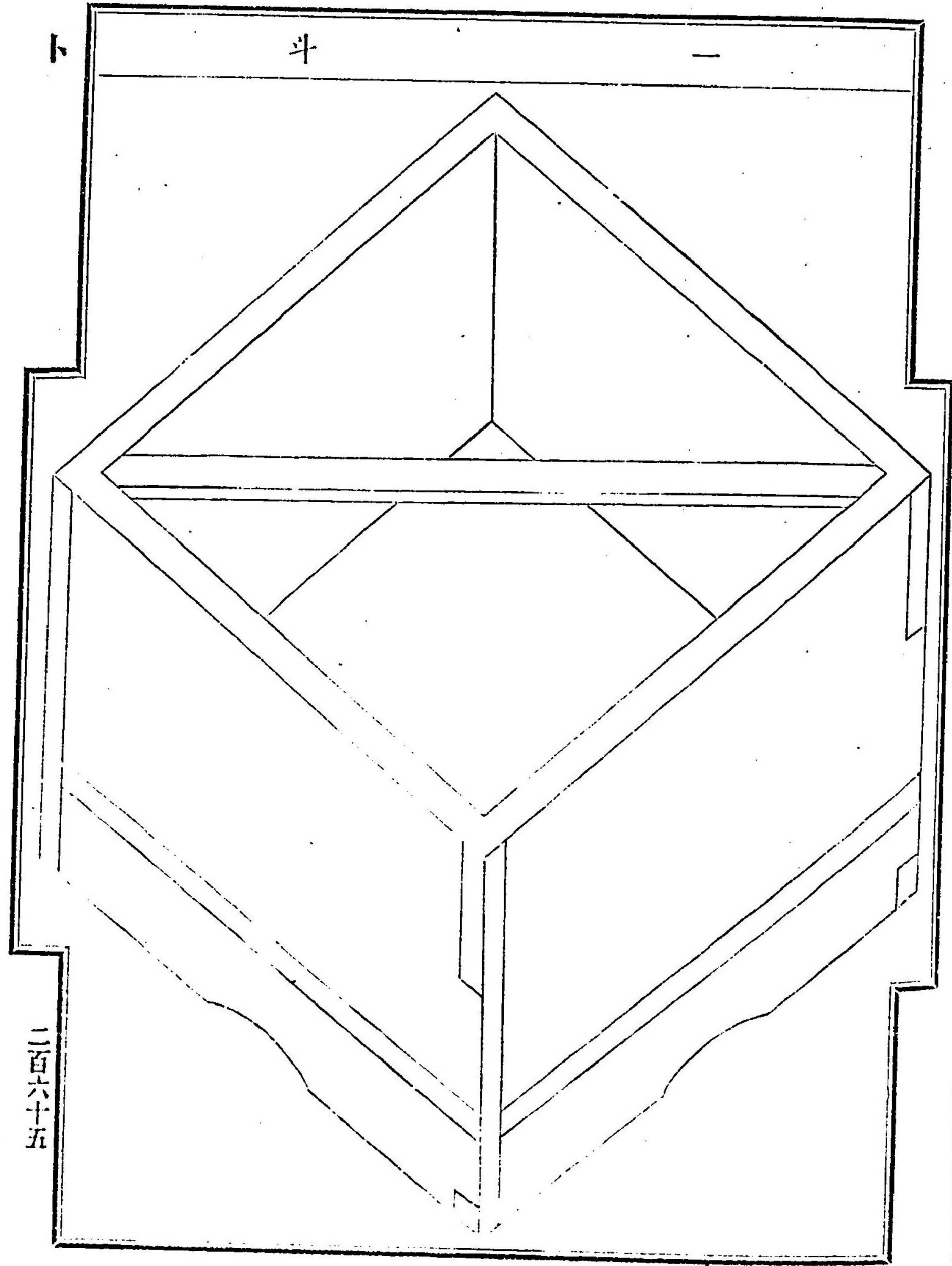


五合



五升





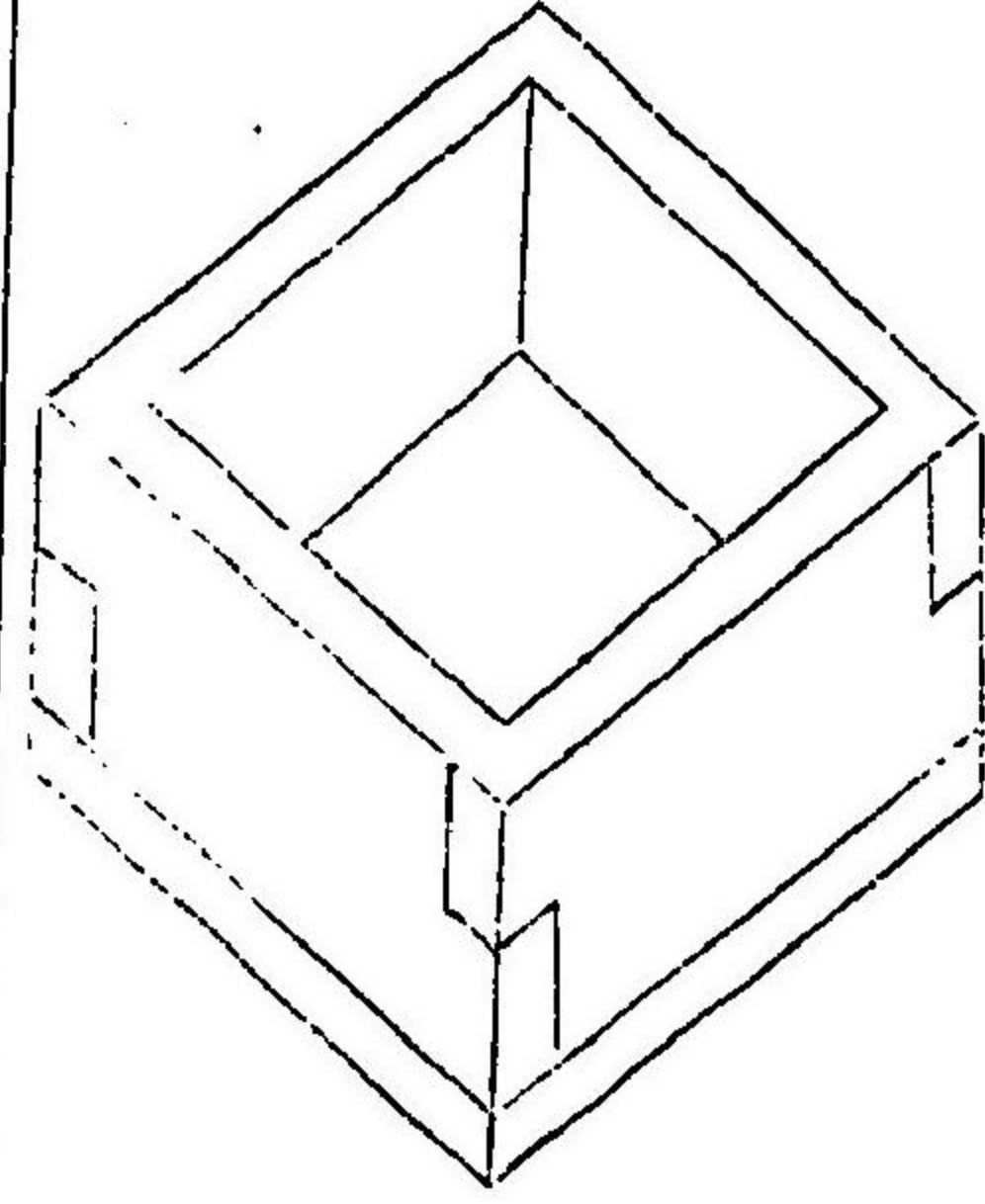
新器穀量圖一本之尺縮四分	二合五勺	一升
	一合	五合

二百六十四

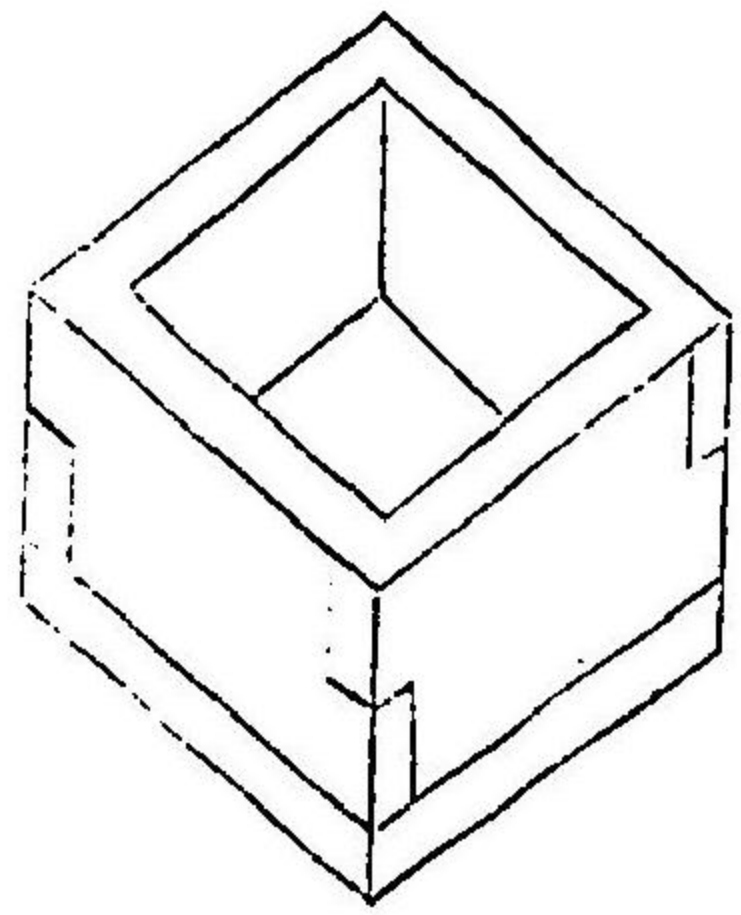
卜

同水量圖  
一木之尺縮四分圖

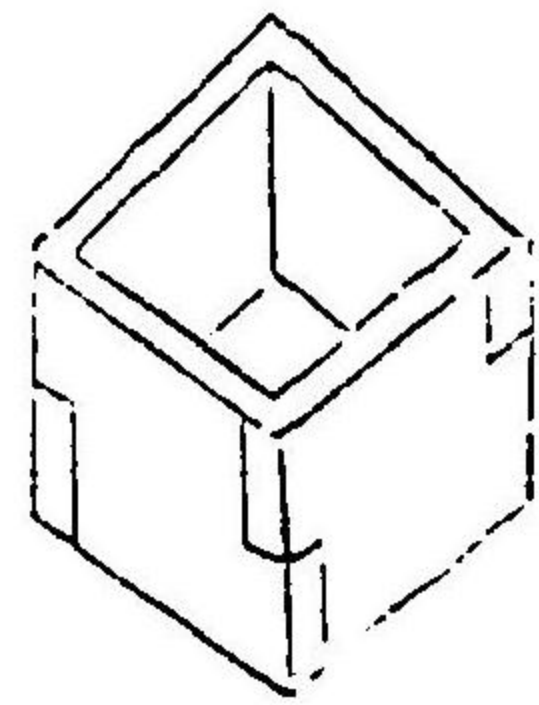
二合五勺



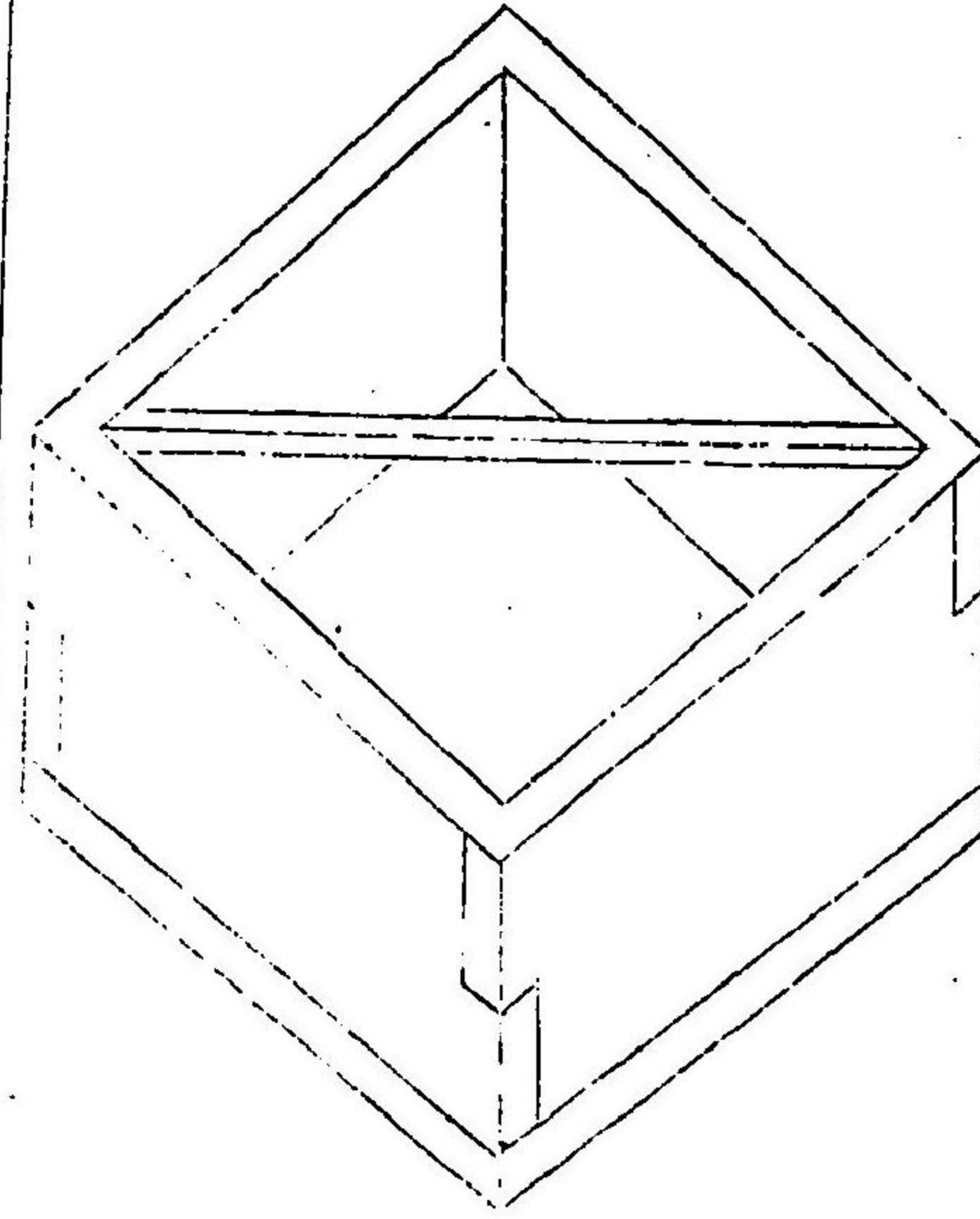
一合



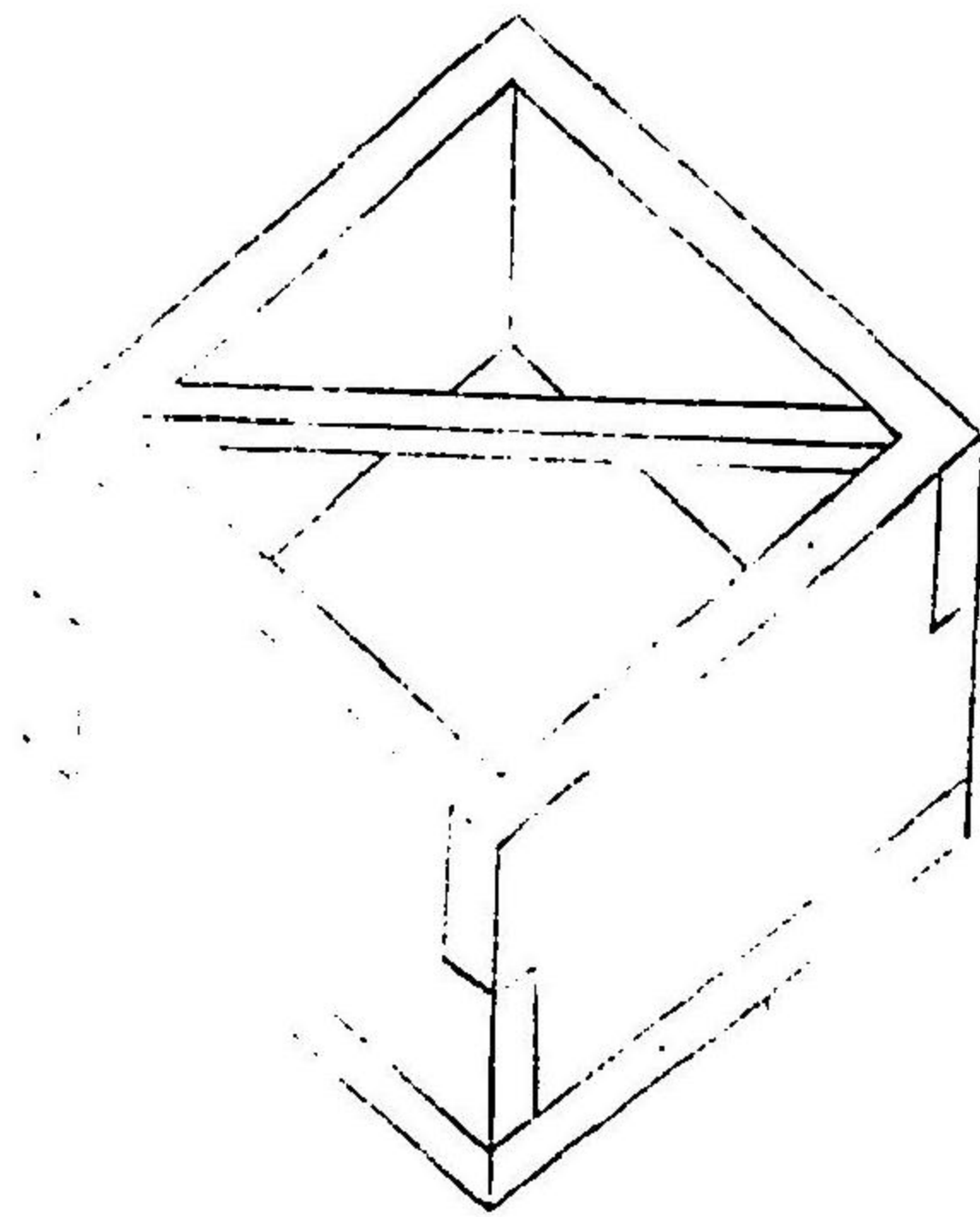
五勺



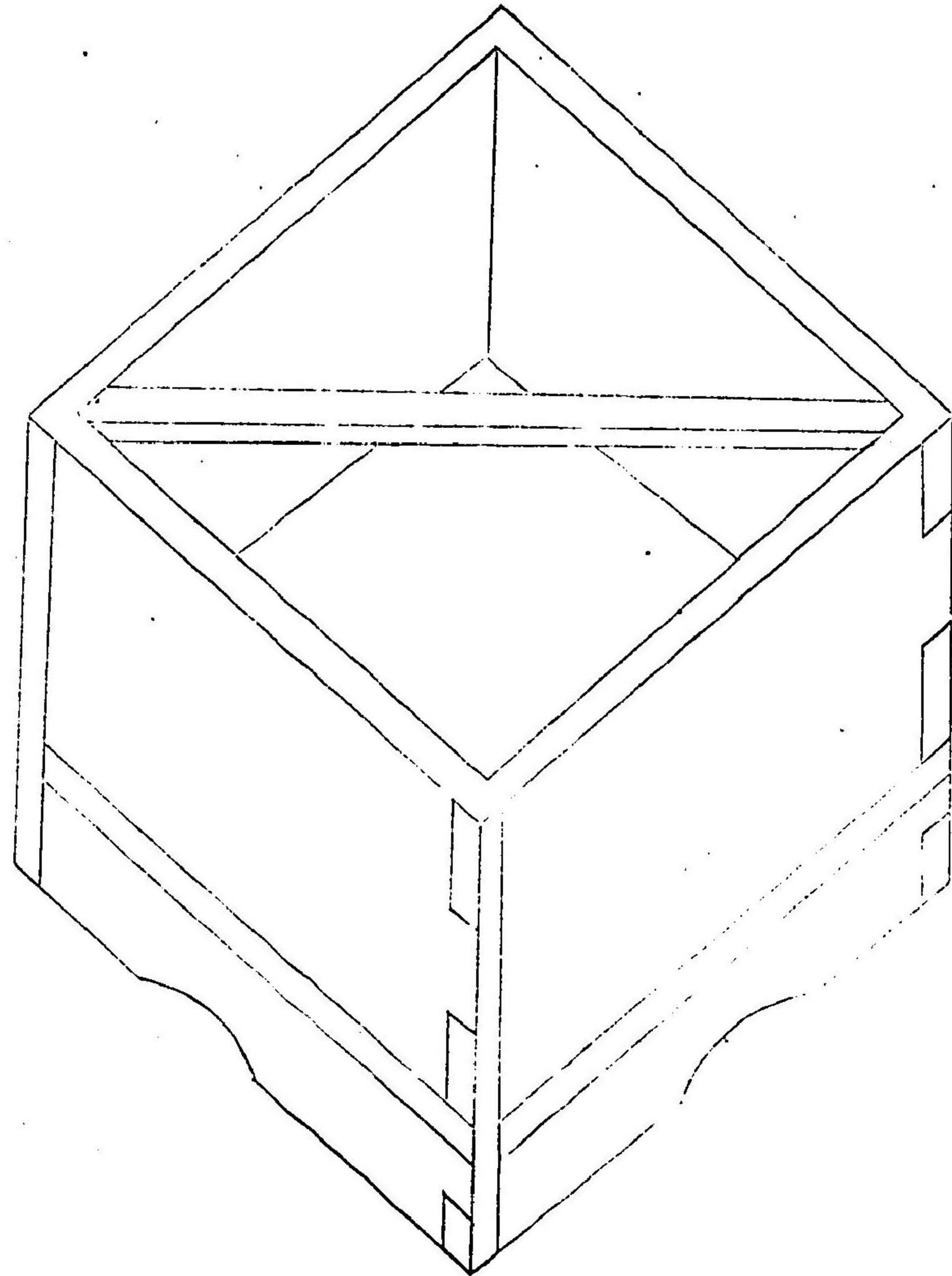
一升



五合

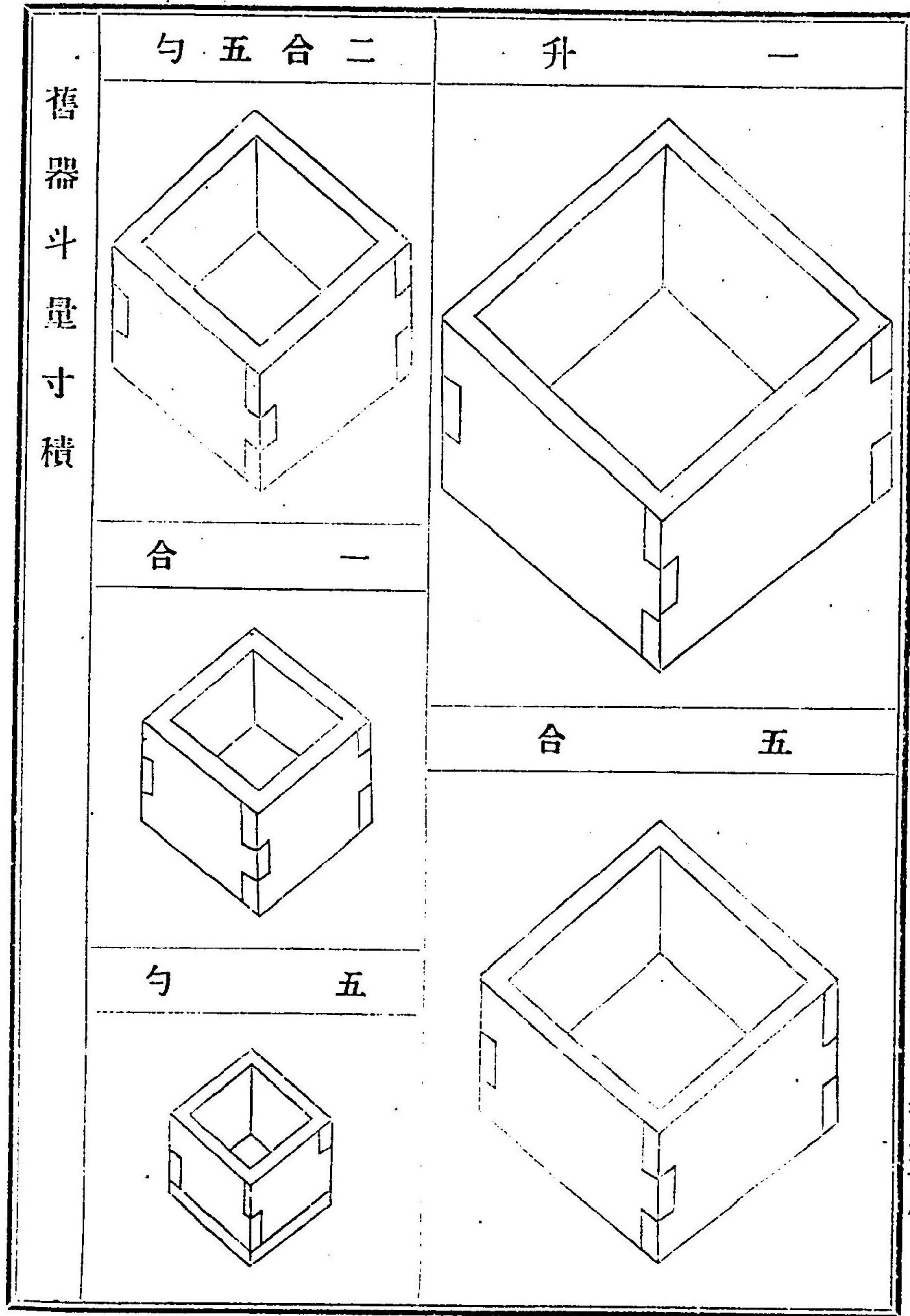


五升



一合	二合五勺	五合	一升	五升	七升	一斗	穀量
方一尺一寸四分七厘 深一寸四分七厘	方二寸〇五厘 深一寸七分四厘	方三寸九分五厘 深二寸〇九厘	方四寸九分 深二寸七分一厘	方八寸三分四厘 深四寸六分九厘	方九寸四分七厘 深五寸〇八厘	方一尺〇五分 深五寸九分一厘	寸法
六千四百八十 二個餘	一萬六千二百 〇四個餘	三萬二千六百 〇九個餘	六萬五千〇六 十七個餘	三十二萬六千 二百十五個餘	四十五萬六千 二十七個餘	六十五萬五千 百七十七個餘	積分立方
同	無弦	上下共 厚一分八厘 幅一分九厘八	上下共 厚一分八厘 幅一分九厘五	上下共 厚三分九厘九 幅四分五厘	上下共 厚三分七厘八 幅四分	上下共 厚四分一厘二 幅五分五厘	弦厚幅
		百九十五個餘	二百四十個餘	二千〇八十一 個餘	二千二百卅九 個餘	三千三百〇八 個餘	弦積分立方
		十三個餘	六萬四千八百 二十七個	三百二十四個餘	四十五萬三千 七百八十七個 餘	六十四萬八千 二百六十九個 餘	引現積
三分五厘	三分五厘	三分五厘	三分五厘	五分	五分三厘	六分	木厚製作品
同	斗緣鍍	同	同	同	同	木品楡 斗緣鍍	

二百六十九

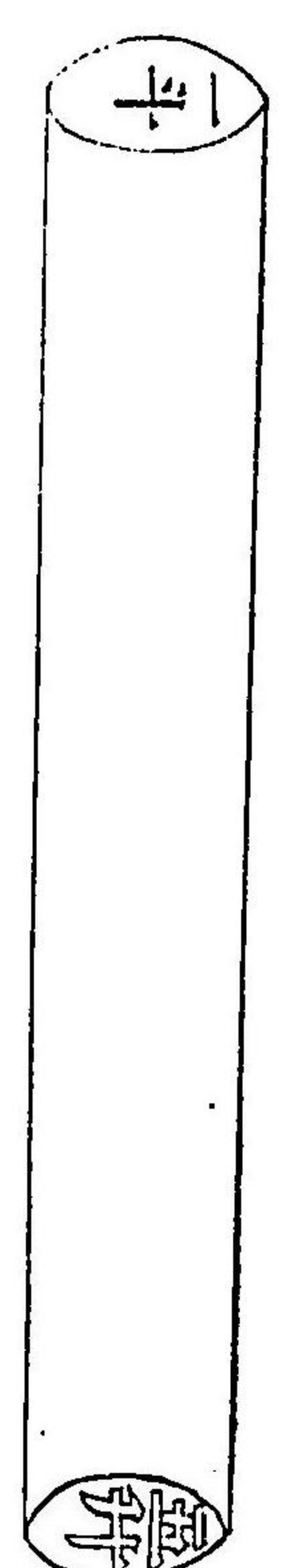
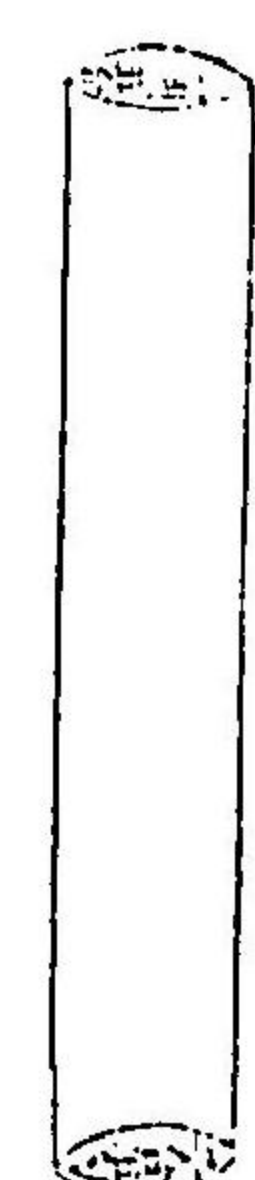
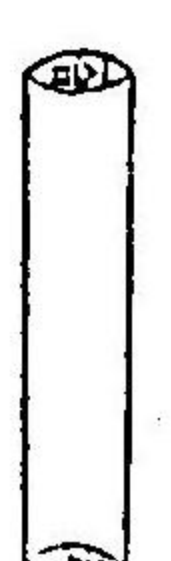
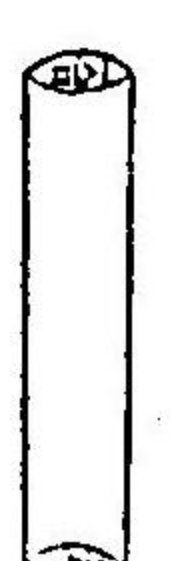


二百六十八

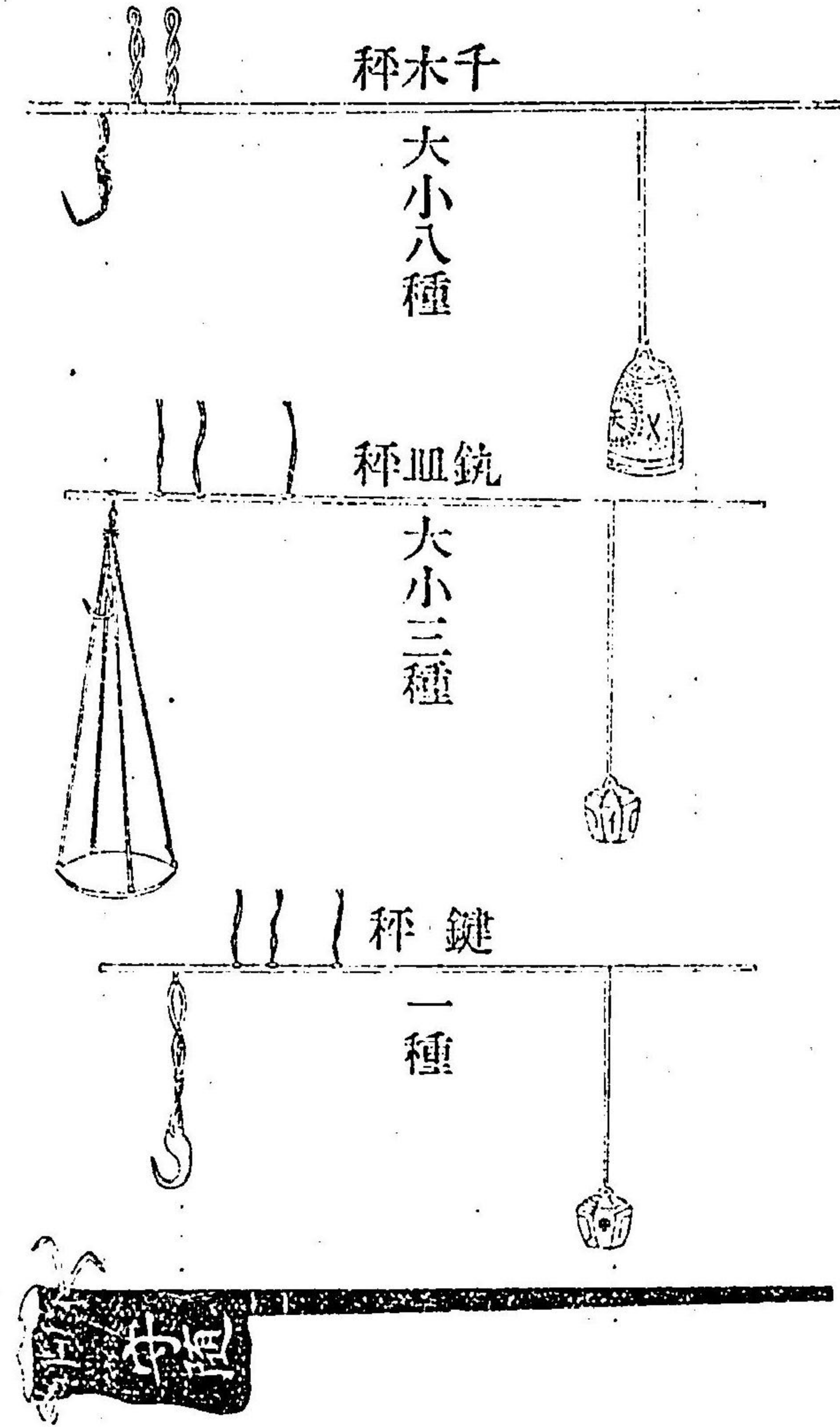
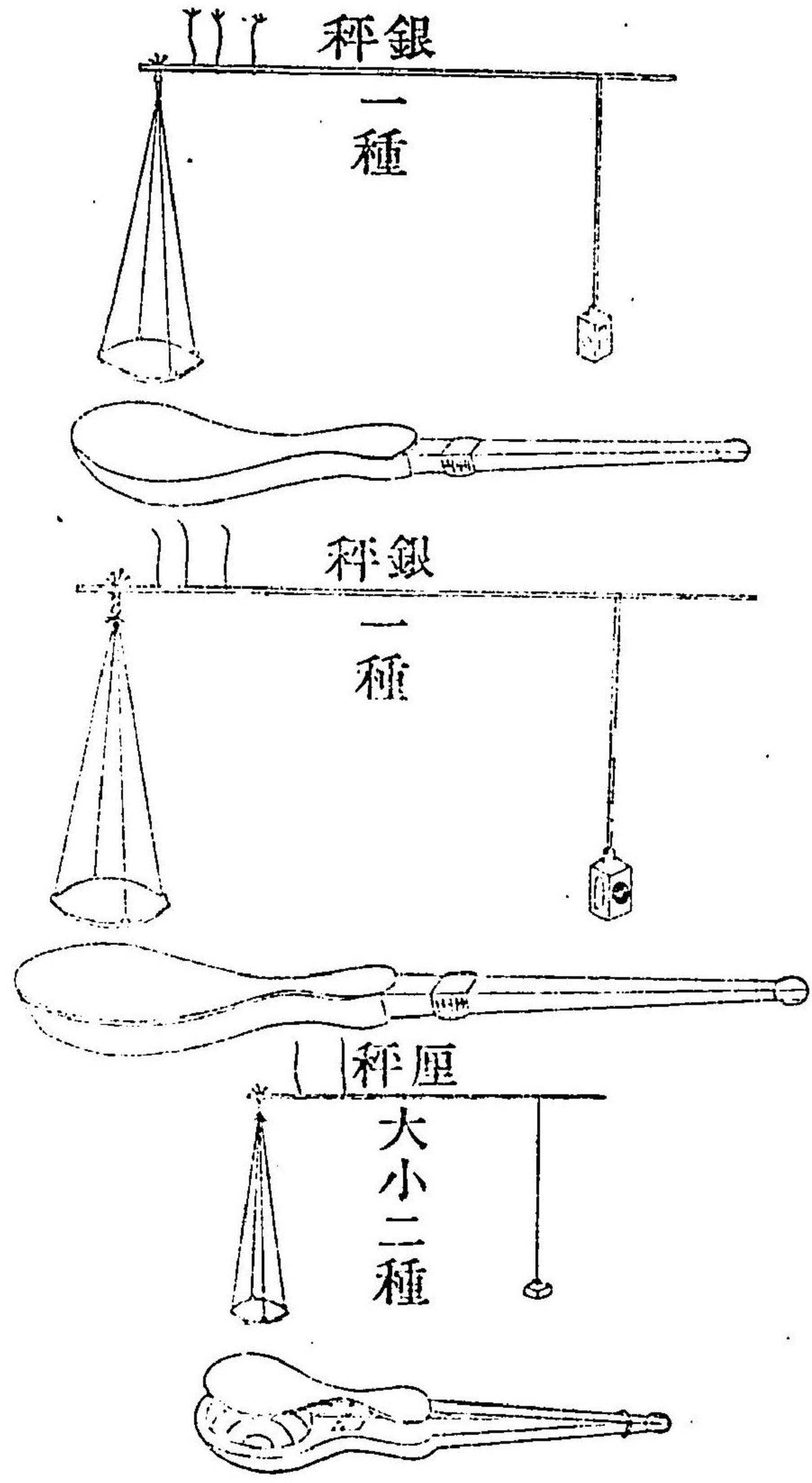
水 量	一 升	五 合	二 合 五 勺	一 合	五 勺	一 升	五 升
寸 法	方四寸九分 深二寸七分	方三寸九分五厘 深二寸〇七厘七五	方三寸〇五厘 深二寸七分四厘一	方二寸一分 深二寸四分七厘	方四寸九分 深二寸七分	方四寸九分 深二寸七分	方八寸三分四厘 深四寸六分九厘
	積 分 立方	六萬四千八百二十七個	三萬二千四百十四個餘	一萬六千二百〇四個餘	六千四百八十二個餘	六千四百八十二個餘	三十二萬六千二百十五個餘
積 分 立方	六千四百八十二個餘	一萬六千二百〇四個餘	三萬二千四百十四個餘	六千四百八十二個餘	六千四百八十二個餘	六千四百八十二個餘	三十二萬六千二百十五個餘
	弦 厚 幅	厚四分一厘二	厚五分五厘	厚四分一厘二	厚四分一厘二	厚四分一厘二	厚四分五厘
弦 積 分 立方	二千〇八十一個餘	二千三百〇八個餘	二千三百〇八個餘	二千三百〇八個餘	二千三百〇八個餘	二千三百〇八個餘	二千〇八十一個餘
	差 引 現 積	六十四萬八千二百六十九個餘	六十四萬八千二百六十九個餘	六十四萬八千二百六十九個餘	六十四萬八千二百六十九個餘	六十四萬八千二百六十九個餘	六十四萬八千二百六十九個餘
木 厚 製 作 品	四分	四分	四分	四分	四分	四分	五分
	木 品 檢	木 品 檢	木 品 檢	木 品 檢	木 品 檢	木 品 檢	木 品 檢

水 量	一 升	五 合	二 合 五 勺	一 合	五 勺	一 升	五 升
寸 法	方四寸九分 深二寸七分	方三寸九分五厘 深二寸〇七厘七五	方三寸〇五厘 深二寸七分四厘一	方二寸一分 深二寸四分七厘	方四寸九分 深二寸七分	方四寸九分 深二寸七分	方八寸三分四厘 深四寸六分九厘
	積 分 立方	六萬四千八百二十七個	三萬二千四百十四個餘	一萬六千二百〇四個餘	六千四百八十二個餘	六千四百八十二個餘	三十二萬六千二百十五個餘
積 分 立方	六千四百八十二個餘	一萬六千二百〇四個餘	三萬二千四百十四個餘	六千四百八十二個餘	六千四百八十二個餘	六千四百八十二個餘	三十二萬六千二百十五個餘
	弦 厚 幅	厚四分一厘二	厚五分五厘	厚四分一厘二	厚四分一厘二	厚四分一厘二	厚四分五厘
弦 積 分 立方	二千〇八十一個餘	二千三百〇八個餘	二千三百〇八個餘	二千三百〇八個餘	二千三百〇八個餘	二千三百〇八個餘	二千〇八十一個餘
	差 引 現 積	六十四萬八千二百六十九個餘	六十四萬八千二百六十九個餘	六十四萬八千二百六十九個餘	六十四萬八千二百六十九個餘	六十四萬八千二百六十九個餘	六十四萬八千二百六十九個餘
木 厚 製 作 品	四分	四分	四分	四分	四分	四分	五分
	木 品 檢	木 品 檢	木 品 檢	木 品 檢	木 品 檢	木 品 檢	木 品 檢

種類	新器斗概圖一本之尺縮四分並寸法	計通	五	一	二合五勺	五
			勺	合	勺	合
			方二寸九分五厘 深二寸〇七厘七五	方二寸〇五厘 深二寸七分四厘二	方二寸一分 深一寸四分七厘	方一寸六分 深一寸二分六厘六
		舊器穀量七種水量四種	三萬二千四百十四個餘	一萬六千二百〇四個餘	六千四百八十二個餘	三千二百四十個餘
		新器穀量七種水量五種	四分	四分	四分	二分
			分同	分同	分同	分同
寸法						
製作品						

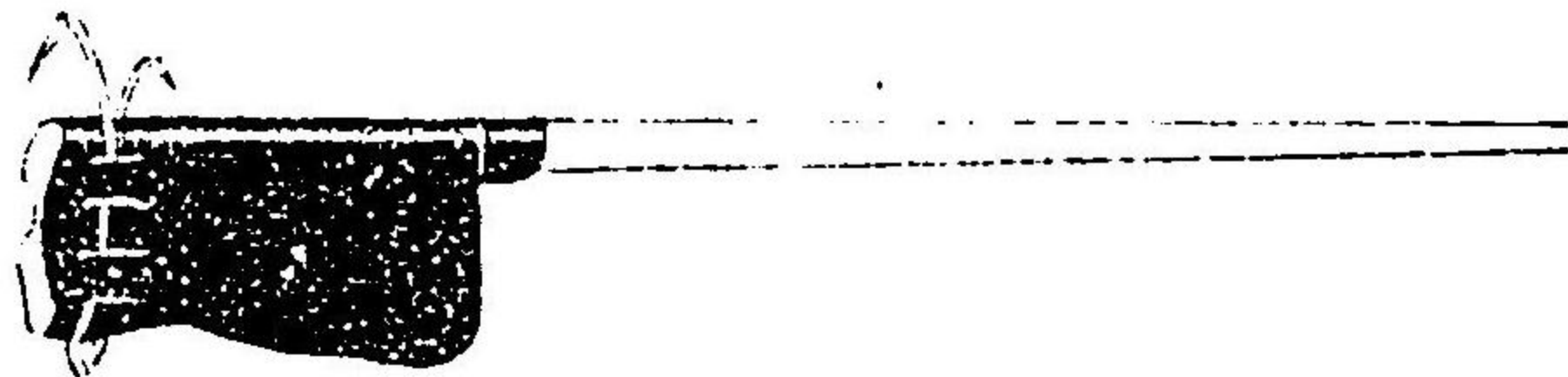
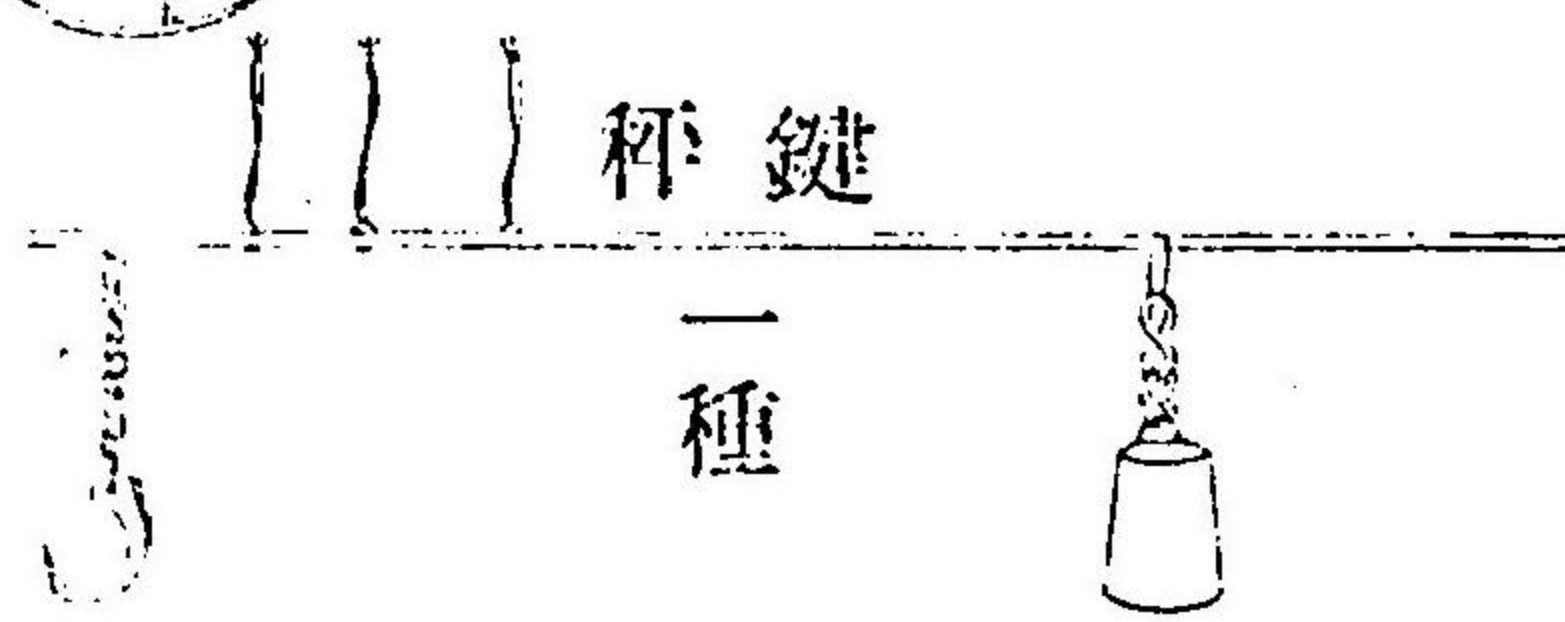
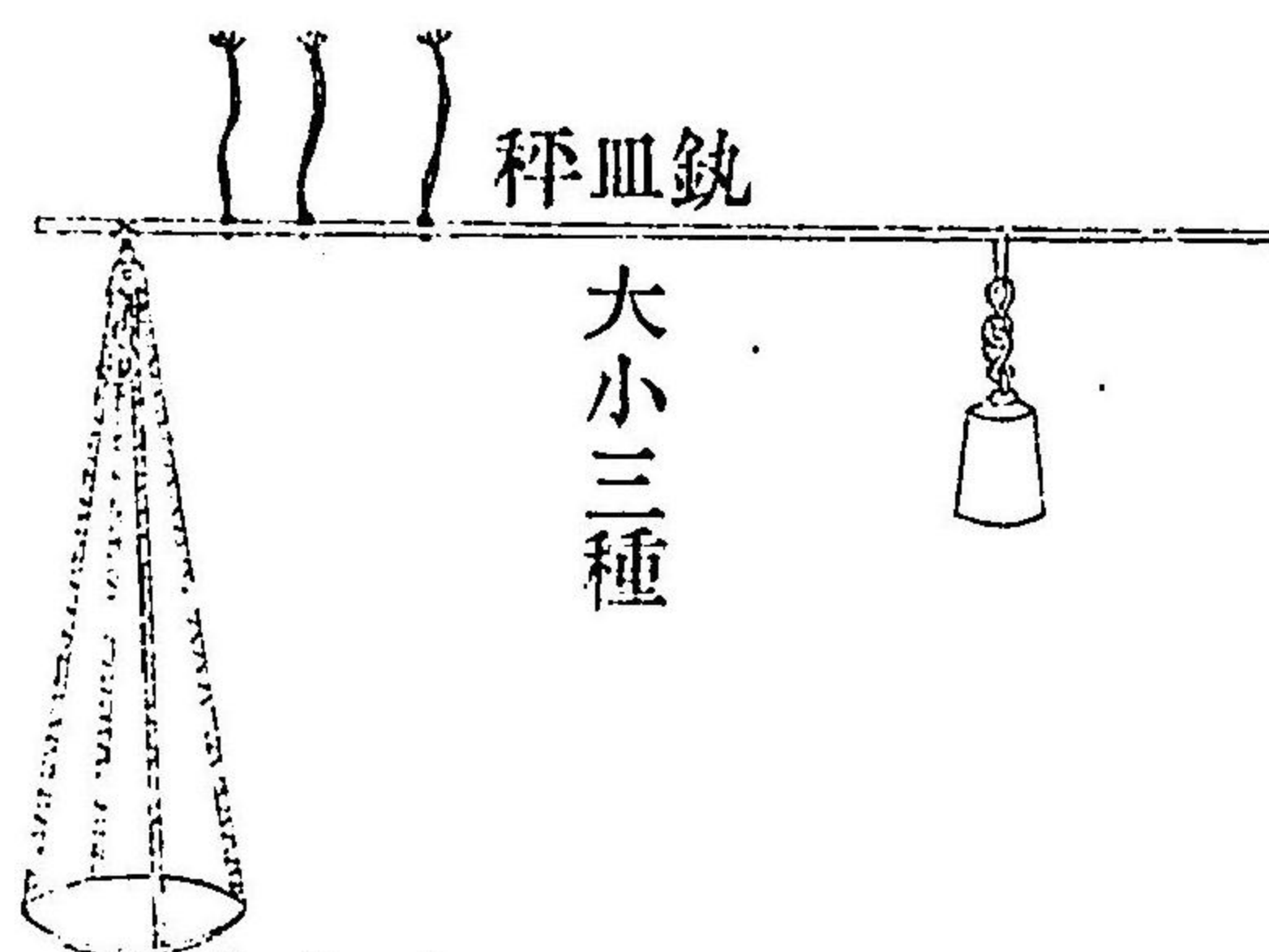
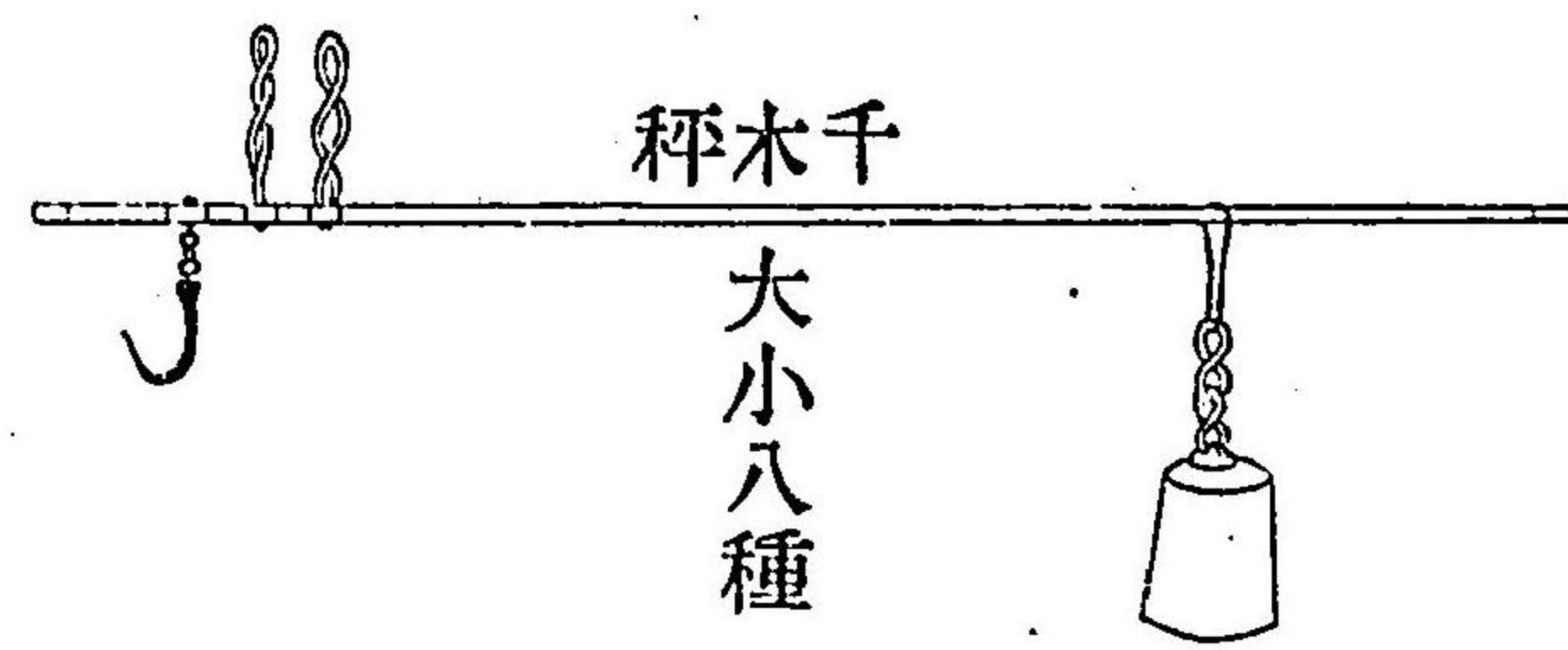
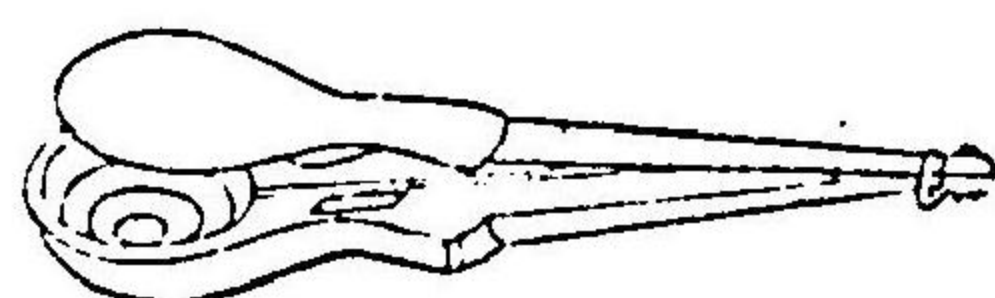
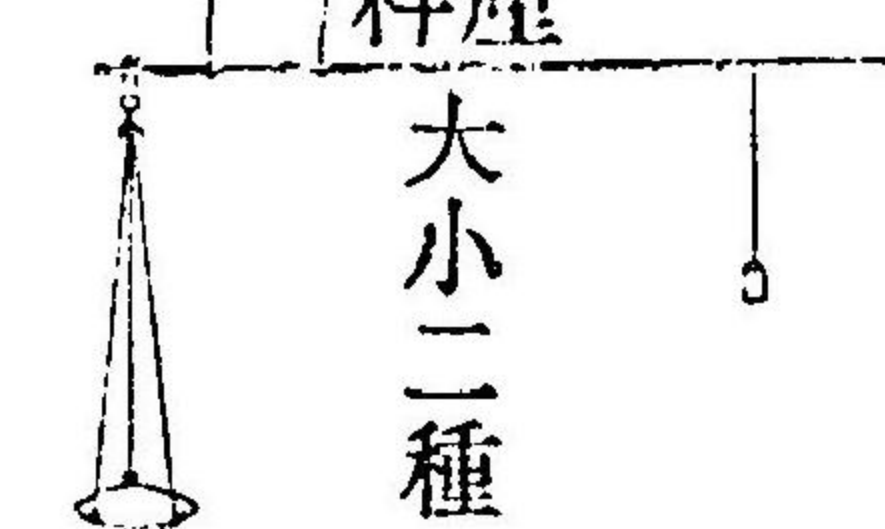
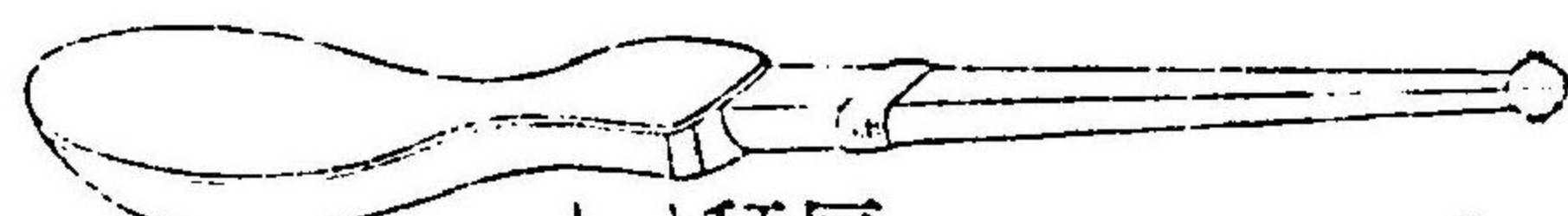
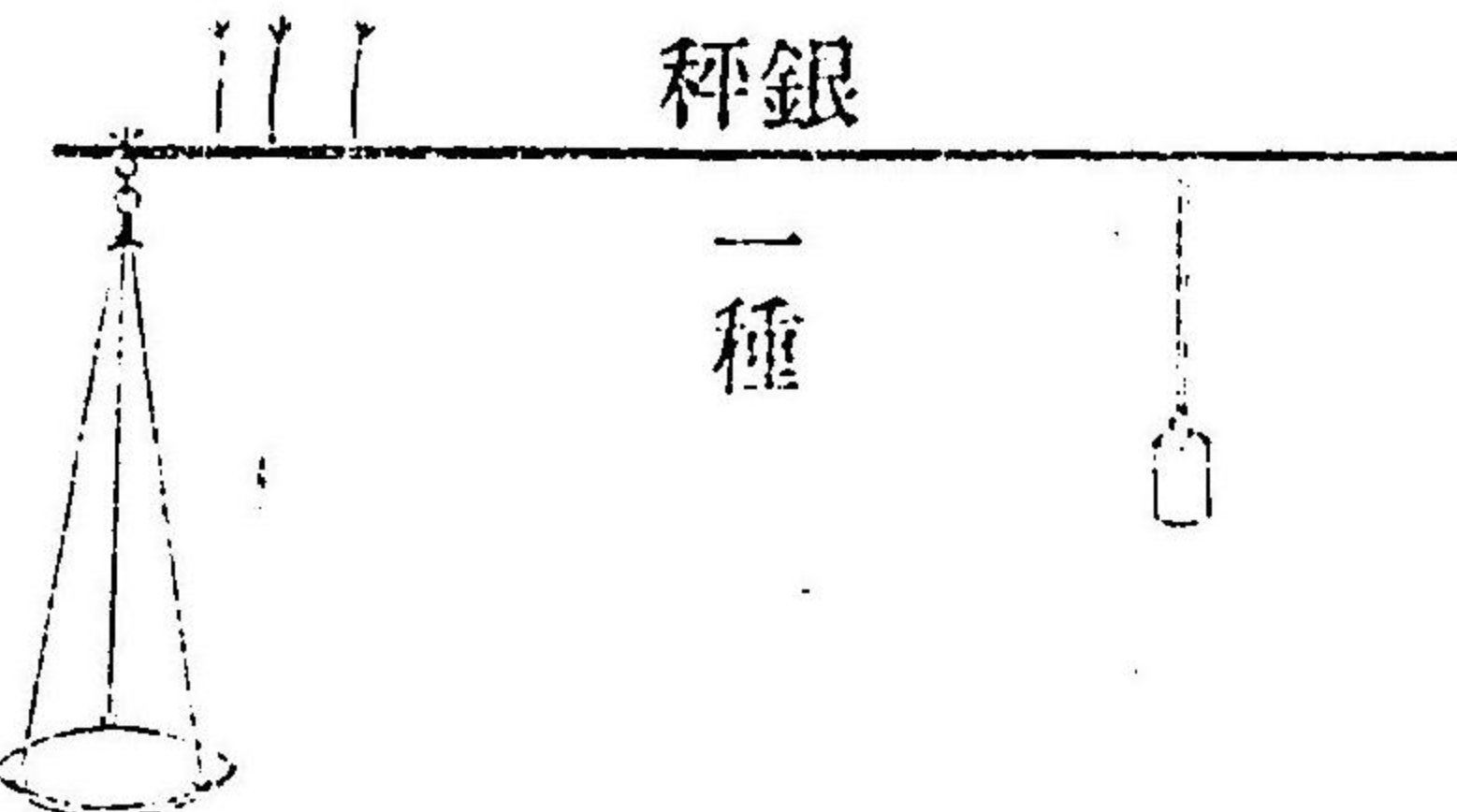
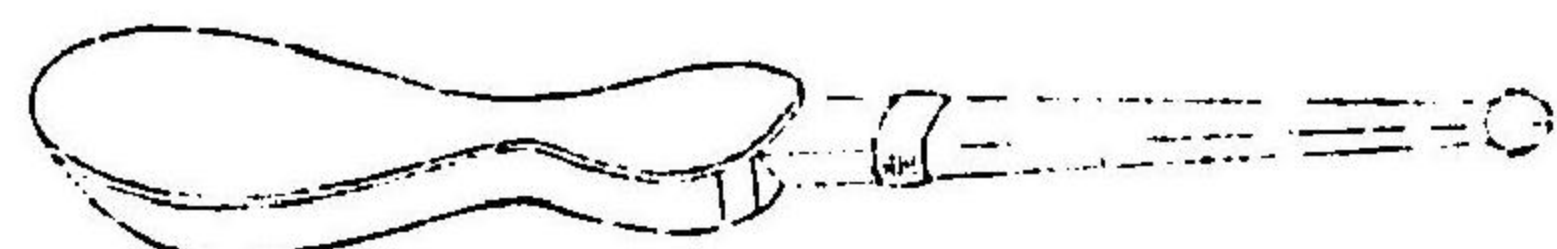
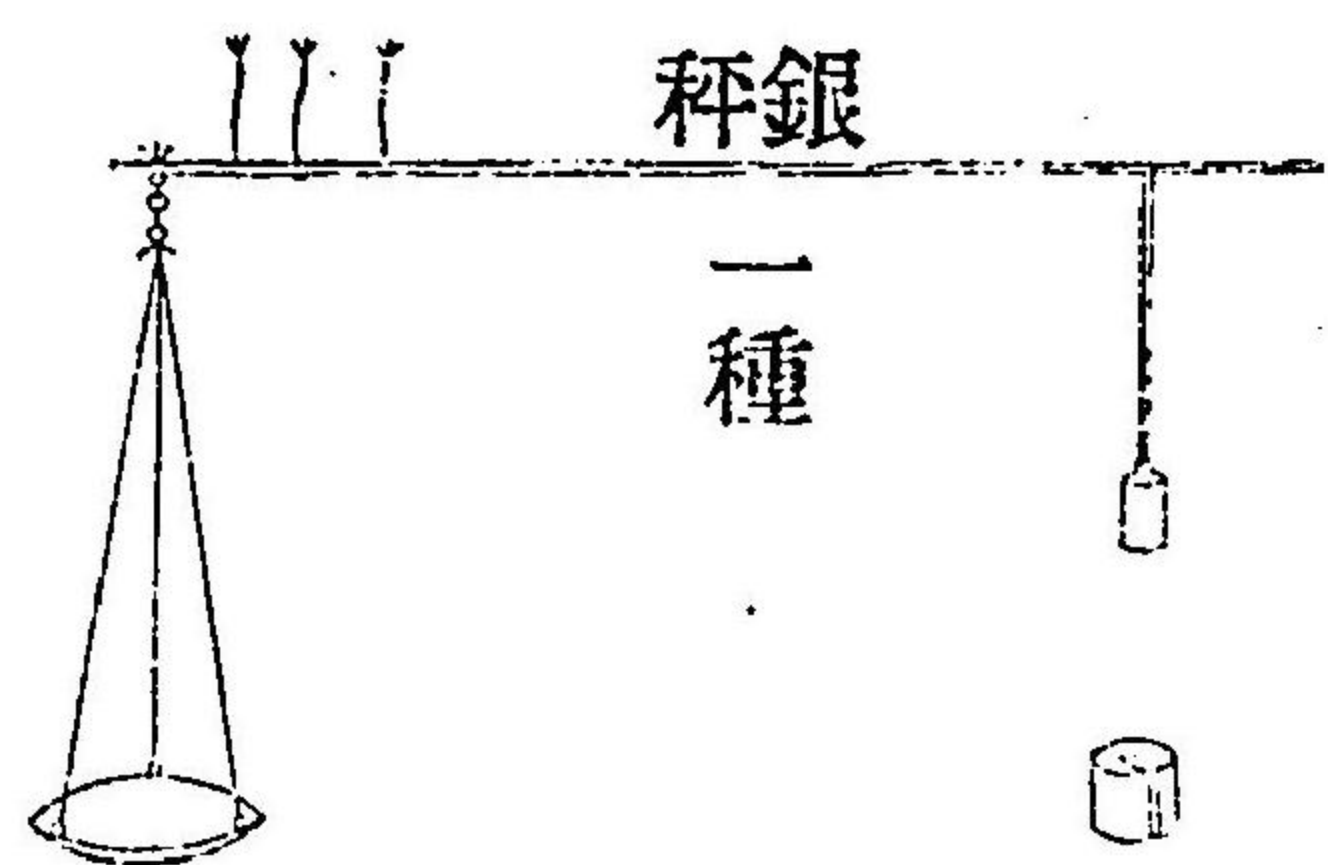
權衡種類表	舊器桿秤圖	一斗兼用	一升	一合兼用	五勺兼用
		五升	五合兼用	二合五勺	五勺
					
		圓徑二寸 長一尺三寸 木品 以銅包之	圓徑一寸 長六寸四分 同	圓徑五分 長三寸 同	圓徑五分 長三寸 同

新器桿秤圖





舊器桿秤量



卜

二百七十七

二百七十六

銀秤量	元前一上 一貫五百二 二百百匁	鍵秤量	元前一上 三百六十十 五百百匁	元前一上 五百五十十 二百百匁	元前一上 一貫五百二 二百百匁	鈞皿秤量	元前一上 一貫二百 百匁
盛出	五百直 百匁	盛出	百五十直 十匁	百五十直 十匁	五百直 百匁	盛出	二百直 百匁
星點量	十五一 匁	星點量	十二一 匁	十二一 匁	十二一 匁	星點量	十二 匁
鍾量	六十匁	鍾量	三十匁	六十匁	八十匁	鍾量	百五十匁
衡長	一尺四寸	衡長	一尺二寸	一尺六寸	一尺八寸	衡長	二尺
製作品	鍾衡 禍赤 銅極	製作品	同	同	鍾皿 禍黃赤 銅極	製作品	同

二百七十九

元二貫匁	上一貫匁	元三貫五百匁	上一貫二百匁	元六貫匁	上三貫匁	元十一貫匁	上五貫匁	元十六貫匁	上八貫匁	元廿六貫匁	上十二貫匁	元卅二貫匁	上十六貫匁	千木秤量
五百直 百匁	一百直 百匁	一百直 百匁	一百直 百匁	一百直 百匁	一百直 百匁	一百直 百匁	一百直 百匁	一百直 百匁	一百直 百匁	一百直 百匁	一百直 百匁	一百直 百匁	一百直 百匁	盛出
二十 匁	二十 匁	二十 匁	二十 匁	二十 匁	二十 匁	二十 匁	二十 匁	二十 匁	二十 匁	二十 匁	二十 匁	二十 匁	二十 匁	星點量
百五十匁	三百匁	五百匁	七百匁	一貫匁	一貫五百匁	二貫匁	二貫匁	二貫匁	二貫匁	二貫匁	二貫匁	二貫匁	二貫匁	鍾量
二尺	二尺五寸	三尺	四尺	五尺五寸	六尺	六尺五寸	六尺五寸	六尺五寸	六尺五寸	六尺五寸	六尺五寸	六尺五寸	六尺五寸	衡長
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	製作品

二百七十八

千木秤量	新器桿秤量	元	上	元	上	厘秤量	元	前	上	銀秤量	元	前	上
		三	六	五	一		六	五	十		五	十	七
盛		五	直	一	直	盛	五	十	直	盛	五	十	直
出		分	點	勿	點	出	勿	點	點	出	勿	點	點
星		二	一	二	一	星	一	二	一	星	一	二	一
點		厘	厘	厘	厘	點	厘	厘	厘	點	厘	厘	厘
量		厘	厘	厘	厘	量	厘	厘	厘	量	厘	厘	厘
鍾		一	一	一	一	鍾	一	一	一	鍾	一	一	一
量		勿	勿	勿	勿	量	勿	勿	勿	量	勿	勿	勿
衡		六	六	六	六	衡	一	一	一	衡	一	一	一
長	寸	寸	寸	寸	長	尺	尺	尺	長	尺	尺	尺	
製	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
作													
品	同	銅	角	銅	角	銅	角	銅	角	銅	角	銅	角

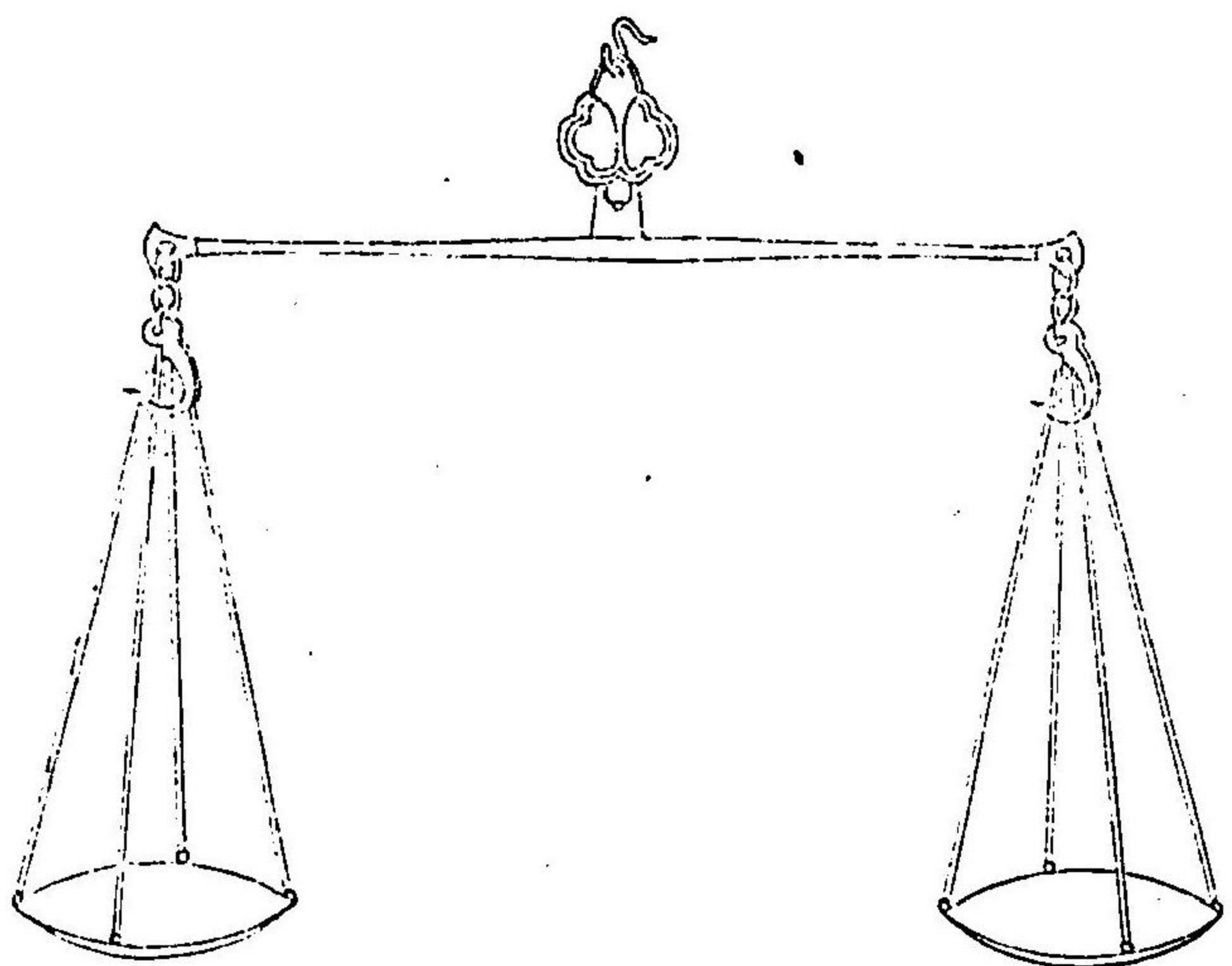
元	上	元	上	元	上	元	上	元	上	元	上	元	上	元	上	元	上
一	二	二	一	三	一	六	三	十一	五	十六	八	廿	六	十二	廿	六	十六
貫	百	貫	百	貫	百	貫	百	貫	百	貫	百	貫	百	貫	百	貫	百
勿	直	勿	直	勿	直	勿	直	勿	直	勿	直	勿	直	勿	直	勿	直
二	五	二	一	三	一	五	三	六	一	十	一	二	五	三	六	一	十
百	百	百	貫	百	貫	百	貫	百	貫	百	貫	百	貫	百	貫	百	貫
勿	點	勿	點	勿	點	勿	點	勿	點	勿	點	勿	點	勿	點	勿	點
十	二	十	二	十	二	十	二	十	二	十	二	十	二	十	二	十	二
勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿
百	百	三	五	七	一	一	二	二	六	六	六	六	六	六	六	六	六
五十	五十	百	百	百	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫
勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿	勿
二	二	二	三	四	五	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

ト

新舊 天秤 圖并 量	計 通	元 上	元 上	厘 秤	元 前 上	銀 秤
		三 六	五 一	秤 量	百 五 十	秤 量
	匁 匁	匁 分	量	匁 匁 匁	量	
	五 直	一 直	盛	五 十 直	盛	
	分 點	匁 點	出	匁 匁 點	出	
	二 一	二 一	星	一 二 一	星	
	匁 匁	匁 匁	點	匁 分 分	點	
	一	一 匁 四 分	量	十 一 匁	量	
六	一 尺 五 分	衡	一 尺 五 分	衡		
寸		長		長		
同	錘 皿 衡	製	錘 皿 衡	製		
	黃 銅 角	作	黃 黑 銅 柿	作		
		品		品		

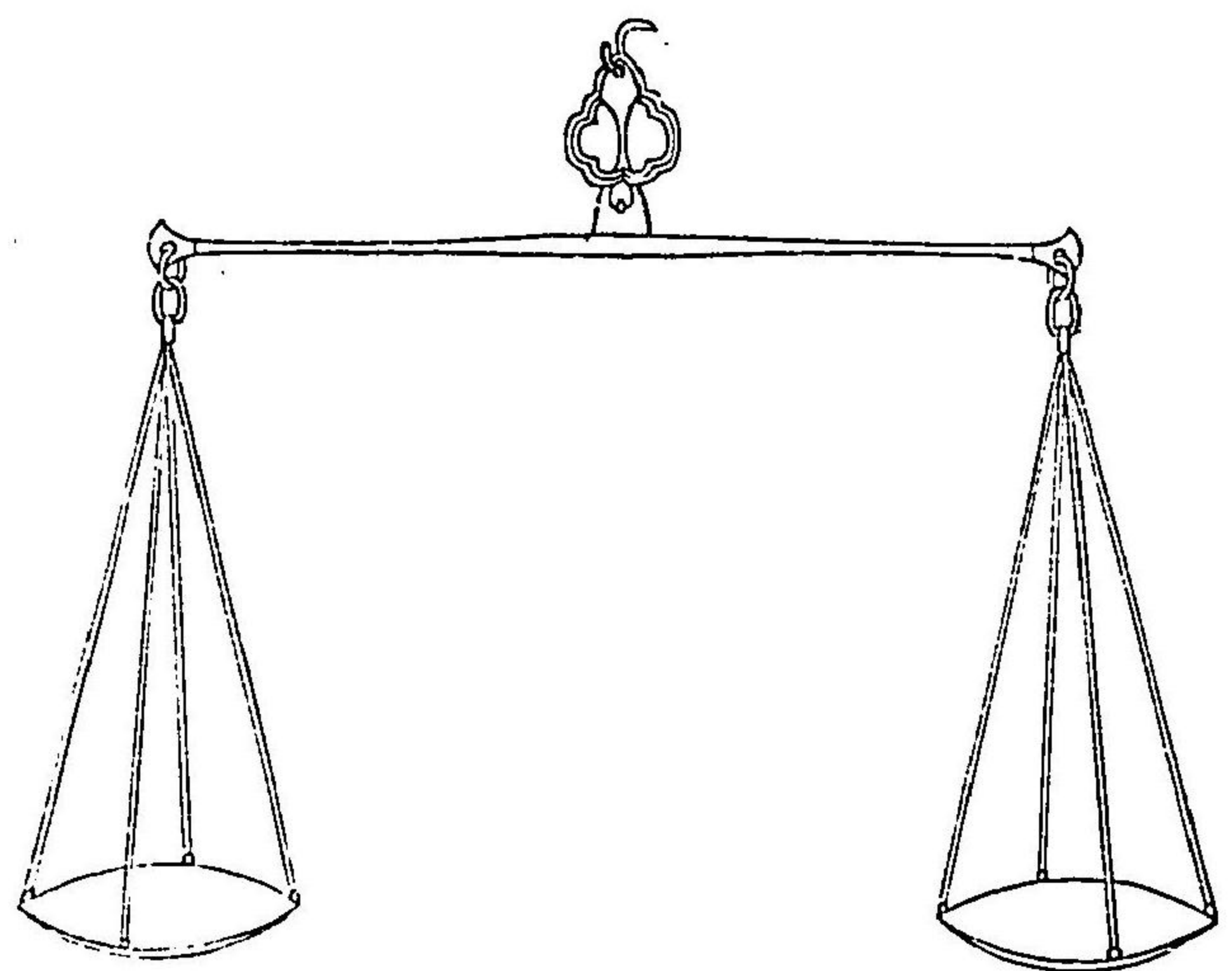
元 前 上	銀 秤	元 前 上	鍵 秤	元 前 上	元 前 上	元 前 上	鈎 皿 秤
三 五 十	秤 量	一 貫 五 百	秤 量	三 百 六 十	五 百 五 十	一 貫 五 百	秤 量
百 十 匁		匁 匁 匁		匁 匁 匁	匁 匁 匁	匁 匁 匁	
五 十 直	盛	五 百 直	盛	百 五 直	百 五 直	五 百 直	盛
十	出	匁 匁 點	出	十	十	百	出
匁 匁 點	星	匁 匁 點	星	匁 匁 點	匁 匁 點	匁 匁 點	星
二 二 一	點	十 五 一	點	十 二 一	十 二 一	十 二 一	點
匁 分 分	量	匁 匁 匁	量	匁 匁 匁	匁 匁 匁	匁 匁 匁	量
增 但 增 木	錘	六 十 匁	錘	三 十 匁	六 十 匁	八 十 匁	錘
錘 元 錘 錘	量		量				量
ヲ 緒 掛 八 七							
増 ス ニ 匁 匁							
七 寸 五 分	衡	一 尺 四 寸	衡	一 尺 二 寸	一 尺 六 寸	一 尺 八 寸	衡
	長		長				長
錘 皿 衡	製	錘 衡	製	同	同	錘 皿 衡	製
黃 銅 角	作	黃 赤 銅 檜	作			黃 赤 銅 檜	作
	品		品				品

第一



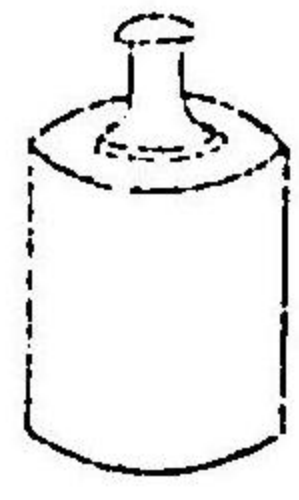
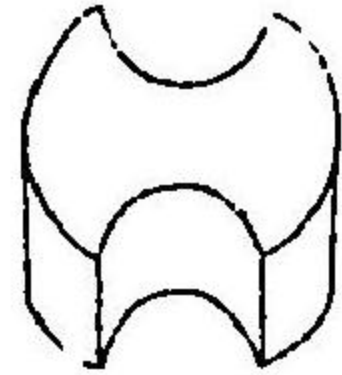
分銅量	一匁ヨリ	十貫匁迄	一匁ヨリ	五貫匁迄	一匁ヨリ	三貫匁迄	一匁ヨリ	二貫五百匁迄	一匁ヨリ	二貫匁迄	一匁ヨリ	一貫五百匁迄	一匁ヨリ	一貫匁迄
衡長	四尺五寸	三尺五寸	三尺	二尺五寸	二尺	一尺七寸	一尺六寸	同	同	同	同	同	同	同
製作品	全部黄銅	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

第二

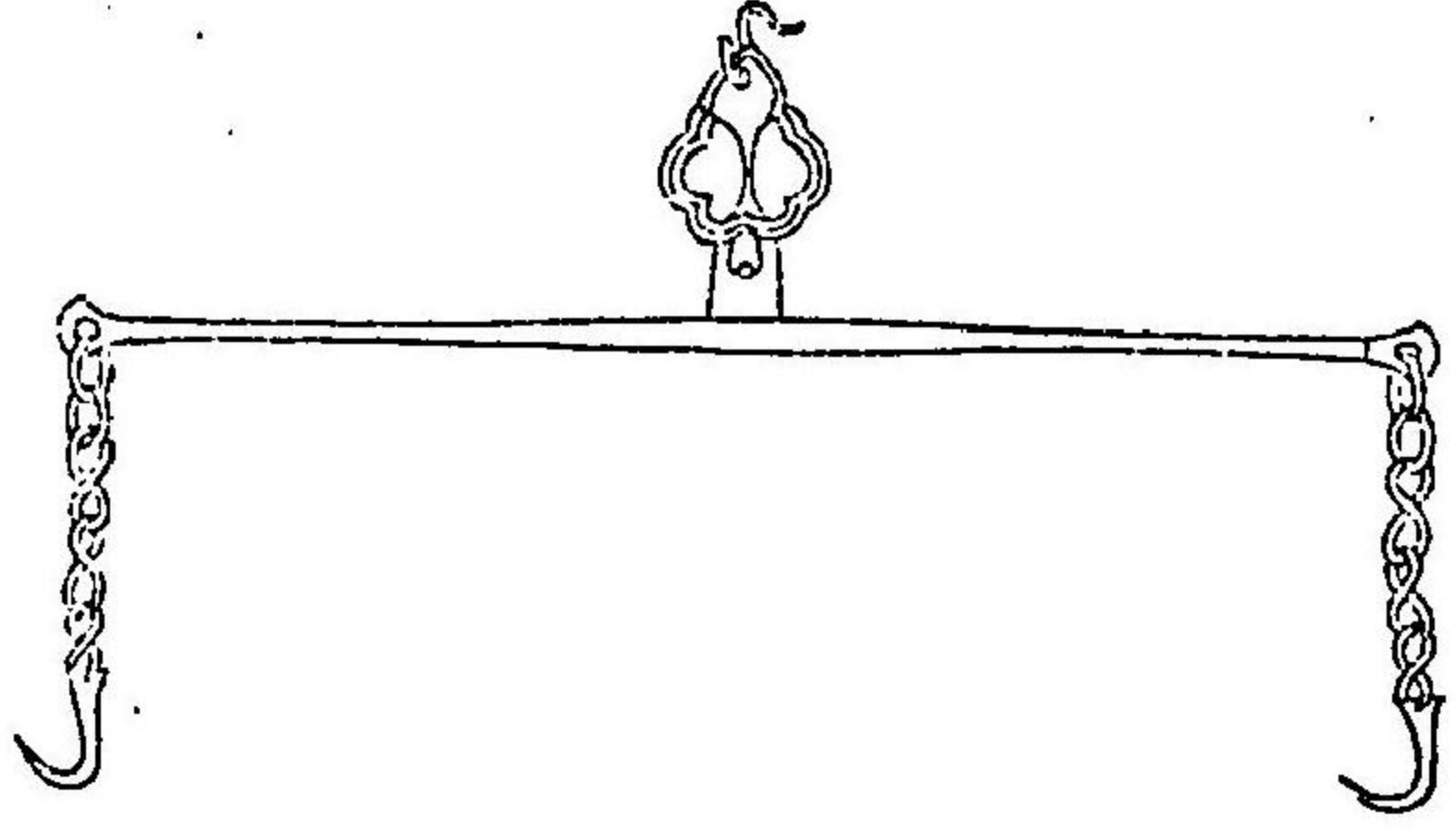


分銅量	一匁ヨリ	一貫匁迄	一匁ヨリ	五百匁迄	一匁ヨリ	五百匁迄	一匁ヨリ	五百匁迄	一匁ヨリ	百六十匁迄	一分ヨリ	二百匁迄	五匁ヨリ	百二十匁迄
衡長	一尺六寸	一尺三寸五分	一尺二寸	一尺五分	一尺二寸	一尺二寸	九寸	七寸	同	同	同	同	同	同
製作品	全部黄銅	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

下

新器	舊器	新分銅圖	通計
			新舊器共一十六種
黃銅製	褐銅製		種類若干

二百八十七

			第三
六十分迄	一分ヨリ	一匁ヨリ 五百匁迄	分銅量
一尺	一尺四寸	全部黃銅	衡長製作品
尺同			

二百八十六

○明治十四年五月二十六日第三拾貳號布告  
西洋形權衡製作検査印章左ノ通改定候條自今左ノ印章ヲ證トシ從前ノ權衡ト  
同様相用フヘシ此旨布告候事



檢

○土地賣買讓渡規則 北海道土地賣買規則  
ハ保ノ部ニ詳出ス

○明治十三年十一月三十日第五十二號布告

土地賣買讓渡規則別紙ノ通相定候條此旨布告候事

但明治八年<sup>六</sup>月<sup>六</sup>第百六號布告并同年<sup>十</sup>月<sup>十</sup>第百五十三號布告廢止候事

別紙

土地賣買讓渡規則

第一條 凡ソ所有ノ土地ヲ賣渡シ又ハ讓渡サント欲スル者ハ讓渡證文ニ地券ヲ添  
ヘ其地ノ戶長役場ニ差出シ與書割印ヲ受ケ之ヲ買受人又ハ讓受人ヘ附與スヘシ  
但一筆ノ土地ヲ分割シテ與書割印ヲ受ケント欲スル者ハ其分界及坪數等ヲ詳  
記シタル圖面ヲ添ヘテ差出スヘシ

第二條 戶長役場ニ於テハ豫メ土地賣買讓渡與書割印帳ヲ備置キ與書割印ヲ請フ  
モノアレハ地所質入書入與書割印帳ヲ見合セ登記ナキニ於テハ讓渡證文ニ與書  
割印ヲナスヘシ

第三條 買受人又ハ讓受人讓渡證文ヲ領收スル<sup>書換</sup>ハ地券願書ニ雙方連印ノ上  
地券ヲ添ヘ戶長役場ヲ經テ管轄廳ヘ差出スヘシ

第四條 第一條ノ手續ヲ以テ其土地所有權ヲ移轉スルコトヲ得ト雖モ地租并地方稅  
ハ地券ニ記載セル姓名ノ者ヨリ之ヲ徵收スヘシ  
但地券紛失ノ際下附願出ルモ亦地券ニ記載セル姓名ノ者タルヘシ

ト

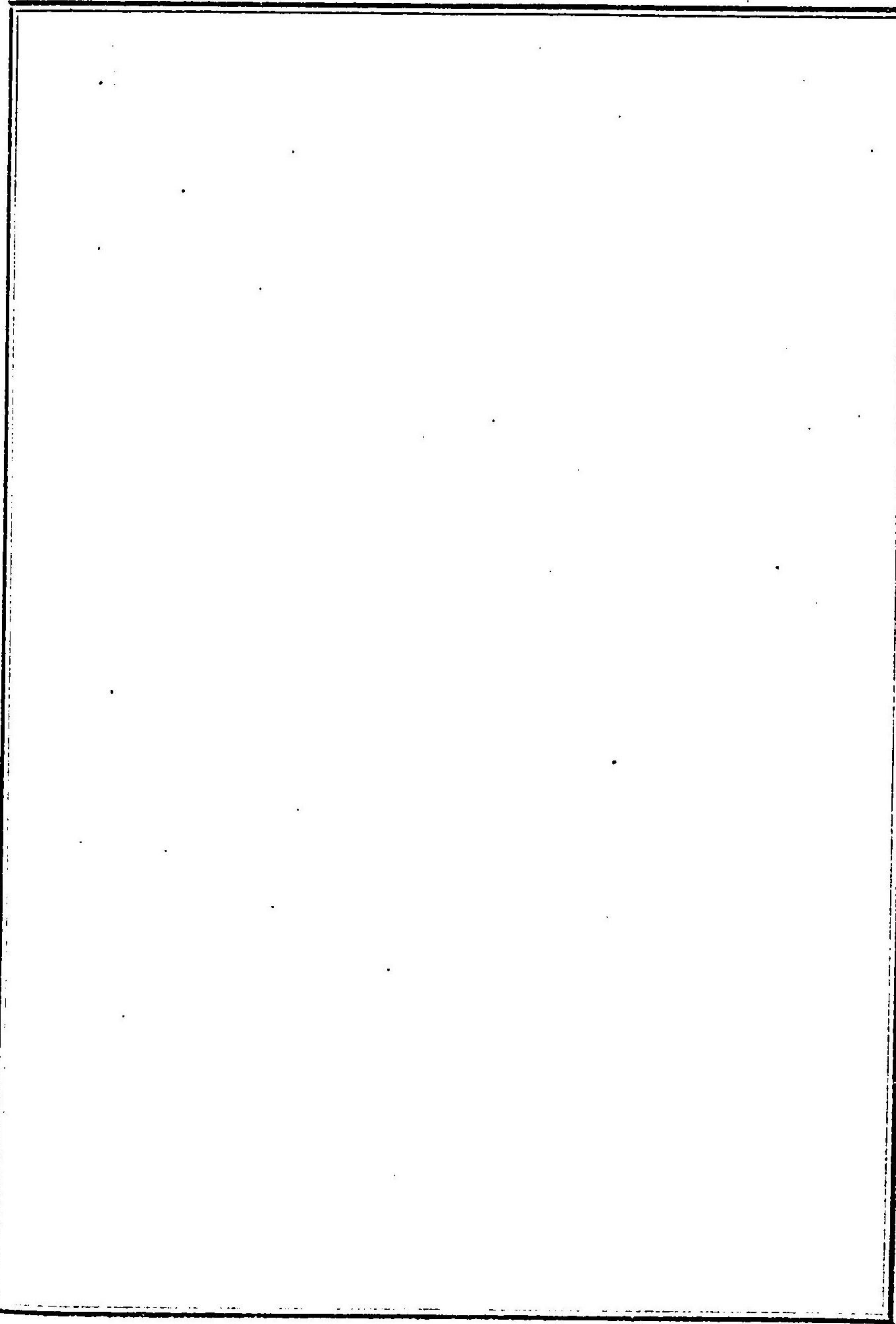
十四年七十二號布告  
別例處分方参照スヘシ

第五條 死亡者失踪者ノ家督相續若クハ遺産相續及ヒ離縁戸主ノ家督相續ニ由リ  
 土地ヲ讓受ケタル者ハ親族親族ナキモノト連印ノ上戸長役場ヲ經テ地券書換願  
 書ヲ管轄廳ヘ差出スヘシ若シ家督相續又ハ遺産相續ノ日ヨリ六箇月以内ニ戸長  
 役場迄之ヲ差出サ、ル者ハ證印稅五倍ノ科料ニ處ス  
 但本條期限内ニ地券書換願書ヲ差出ス能ハサル事由アリテ之ヲ届出ル者ハ此  
 限ニ在ラス

○明治五年二月十五日第五十號布告

地所永代賣買ノ儀從來禁制ノ處自今四民共賣買致所持候儀被差許候事





○知ノ部

○地代店賃等ノ制限ヲ廢ス

○明治五年八月廿七日第二百四十號布告

地代店賃ノ儀從來東京府下ヲ始メ間々其制限ヲ立置候向モ有之哉ニ相聞候處以來ハ雙方共相對ヲ以取極メ致貸借候儀可爲勝手事

一諸奉公人諸職人雇夫等給金雇料ノ儀是亦自今雙方共相對ヲ以テ取極メ候儀勝手次第タルヘシ尤諸職人等は迄得意或ハ出入場ト唱ヘ常ニ備ハレ先キヲ極メ置候分雇主方ニテ他ノ職人雇入候節彼是故障筋申掛ノ者モ有之由向後右様心得違無之様可致事

右之通相達候條各府縣ニ於テ管内無洩可觸示事

○地所質入書入規則

○明治六年一月十七日第十八號布告

先般田地永代賣買被差許候ニ付自今質入書入致シ候節ハ左ノ規則ノ通り可相心得事

地所質入書入規則

第一條 金穀ノ借主<sub>地</sub>ヨリ返濟スヘキ證據トシテ貸主<sub>金</sub>ニ地所ト證文トヲ渡シ貸主其作德米ヲ以テ貸高ノ利息ニ充候ヲ地所ノ質入ト云フ

第二條 金穀ノ借主<sub>地</sub>ヨリ返濟スヘキ證據トシテ貸主<sub>金</sub>ニ地所引當ノ證文ノミヲ渡シ借主ノ作德米ノ全部又ハ一部ヲ貸主ニ渡シ利息ニ充候ヲ書入ト云フ

第三條 金穀ノ借主<sub>地</sub>ヨリ返濟スヘキ證據トシテ貸主<sub>金</sub>ニ地所引當ノ証文ノミヲ渡シ借主ヨリ其利息トシテ米又ハ金ヲ拂ヒ候ヲモ亦書入ト云フ

第四條 地所ヲ質入ニ致シ候節ハ地券ヲモ相渡シ可申其年期ノ儀ハ三ケ年ヲ限ル可シ尤三ケ年以下期限取極候儀ハ勝手タルヘク且ツ年限取極候廉ハ判然證文面

十二年七月布告  
以テ本條ヲ改正ス

ニ記載致シ置可申事

但書入ノ儀ハ地券ヲ相渡スニ及ハス其年限長短共本文ノ限ニアラスト雖モ雙方相對ニテ取極候年限ハ本文同様證文面ニ記載致シ置可申事

第五條 質入又ハ書入ノ地所期限ニ至リ貸主借主相談ノ上金穀ヲ返サシテ地所ヲ引渡候節ハ舊地主其地券ノ裏ニ金主ニ可引渡旨相認メ其地ノ戸長加判ノ上金主ヨリ新地券書替可願出事

第六條 質入レノ地所ハ金主ニテ其地所耕作可致答ニ付テハ地租諸役トモ總テ金主ニテ可相勤事

但其段管轄廳へ届出證書可差出事

第七條 書入ノ地所ハ地主ニテ耕作致シ候儀ニ付地租諸役トモ無論地主ヨリ可相勤事

但管轄廳へ届出ニ不及候事

第八條 管轄違ノ者或ハ同管轄ト雖モ懸隔ノ地所ヲ質ニ取候節ハ其現地ノ村町へ

子

七年六號布告ヲ以テ本條改正ス

金主ノ名代人相定置其地租諸役トモ差支無之様可爲相勤事

第九條 質入又ハ書入証文ニハ必ス其村町戸長ノ奥書證印ヲ取ル可シ其村町戸長ノ役場ニハ奥書割印帳ヲ備ヘ置証文ノ奥書割印ヲ願出ル時ハ帳面ト證文トニ番號ヲ朱書シ割印ヲ押シ奥書ヲ爲ス可シ若シ戸長ノ奥書並ニ割印ナキ証文ハ貸附ノ証據ニ不相成候事

但戸長不在ノ節ハ其旨ヲ記シ副戸長奥書調印ス可シ

第十條 一箇所ノ地ヲ二重三重ニ書入候儀ハ不相成候得共若シ第一番ノ金主ヘ引當ニ入レ置候事ヲ第二番ノ金主承知ノ上ニテ地所代價ノ餘分ヲ見込一箇所ノ地所ヲ引當ニ借添ヘ致シ候儀ハ不苦尤引當ノ地所身代限ノ處分ニ至リ糶賣ニ相成候節ハ右ノ代金ヲ以テ先ツ第一番ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金ヲ以テ第二番ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ第三番以下右ニ準シ引渡可申若シ糶賣ノ金高ヲ以テ先ツ第一番ノ金主ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金不足スル時ハ第二番ノ金主ヘ不足ノ儘引渡ス可ク第三番以下ハ皆損失ト心得ヘキ事

七年五十二號布告ヲ以テ本條改正ス

但第二番ノ金主ヘ受取候証文ヘハ地所代價ノ餘分ヲ見込借添候旨ヲ書載可申事

第十一條 地所ハ勿論地券ノミタリトモ外國人ヘ賣買質入書入等致シ金子請取又ハ借受候儀一切不相成候事

第十二條 質入年季中天災ニテ地所流亡等其地ノ全形ヲ失スルニ至ル時ハ地券モ消滅ト可心得池成野地成等ニ變換シ又ハ欠崩等其地ノ半部或ハ三分ノ一部形跡ヲ存セサルニ至ル時ハ右變換地及殘存地ニ應シ規則ニ基キ地券書替可願出儀ニ付貸金穀高モ其割合ヲ以テ相減シ証文書替候儀ト可相心得事  
但貸主借主相對示談ハ格別ノ事

第十三條 質入ノ地所年期中天災ニ因リ荒蕪ト相成ハ貸主<sub>金</sub>ヨリ起返ノ見込ヲ定メ借主<sub>地</sub>承諾ノ證書ヲ取り其管轄ヘ可願出尤モ入費ハ借主ヨリ償フ可キ事  
但借主起返ノ入費ヲ出ス可能ハサルキハ証書ヲ以テ其地所ヲ貸主ニ引渡シ可申尤相對示談ノ處置ハ格別ノ事

七年五十二號布告ヲ以テ本條改正ス

六年百六十七號布告ヲ以テ第十五條ヲ增補ス  
七年七十六號布告ヲ以テ第十六條ヲ增補ス

第十四條 當今質入又ハ書入ニ致シ置年期中ノ分ハ總テ前文規則ニ照準シ當七月限リ証文相改メ可申事  
右ノ通相定候事

○明治六年五月十七日第百六十七號布告

本年第十八號公布地所質入書入規則第十五條增補候條此旨相達候事

地所質入書入規則增補

第十五條 是迄質入書入ニ致シ置候分ハ前約ノ年季据置不苦尤証文面等前文規則ニ觸候廉ハ總テ相改可申事

○明治七年一月十九日第六號布告

明治六年一月第十八號布告地所質入書入規則第九條左之通改正候條此旨布告候事

第九條 質入又ハ書入証文ニハ必ス其村町戸長ノ奥書証印ヲ取ルヘシ其村町戸長ノ役場ニハ奥書割印帳ヲ備ヘ置キ証文ノ奥書割印ヲ願出ル時ハ帳面ト証文トニ番號ヲ朱書シ割印ヲ押シ奥書ヲ爲スヘシ若シ奥書並ニ割印ナキ証文ハ質入又ハ書入ノ證據ニハ不相成ニ付右証文ヲ以テ訴出ルニ於テハ負債主財産分散ノ時債主他ノ債主ニ對シ先キ取リノ特權ヲ失ヒ獨リ質入又ハ書入ナキ金穀貸借ノ處分ヲ可受事  
但戸長不在ノ節ハ其旨ヲ記シ副戸長奥書調印ス可シ

○明治七年五月十二日第五十二號布告

明治六年<sup>一</sup>第十八號布告地所質入書入規則中第十條第十二條左ノ通改正候條此旨布告候事

第十條 一箇所ノ地ヲ二重三重ニ書入候儀ハ不相成候得共若シ第一番ノ金主ヘ引當ニ入レ置キ候事ヲ第二番ノ金主承知ノ上ニテ地所代價ノ餘分ヲ見込

又其地所ヲ引當ニ借添ヘ致シ候儀ハ不苦尤借主身代限ノ處分ニ相成候節ハ  
 右地所耀賣ノ代金ヲ以テ第一番ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金ヲ以テ第  
 二番ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ第三番以下右ニ準シ引渡申スヘク若シ耀賣  
 ノ金高ヲ以テ先ツ第一番ノ金主ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金第二番ノ金主  
 ヘ引渡スヘキ元利ノ金數ニ不足スルハ其不足ノ分ヲ償フテ並ニ第三番以  
 下ノ金主ニ償フテハ平常引當ナキ債主ニ身代限償却ノ例ニ從ヒ外物品耀賣  
 代價ノ内ニテ相當ノ割賦ヲ以テ引渡可申事

但書故ノ如シ

第十二條 質入年季中天災ニテ地所流亡等其地ノ全形ヲ失フニ至ル時ハ地券  
 ハ消滅スル理ニ付貸主ヨリ借主ニ對シ外地所又ハ物品ヲ代リ質ニ差入サセ  
 証文書替ヲ求ムルコトヲ得ヘシ若シ代リ質ニ差入ルヘキ地所物品等コレナキ  
 并ハ訴訟ノ末身代限リノ處分ニ及フベク又池成野地成等ニ變換シ或ハ闕崩  
 等ノタメニ其地ノ幾分ヲ失フ并ハ變換ノ模様及殘存ノ大小ニ應シ規則ニ基

キテ地券書替願出ヘキ儀ニ付若シ其變換殘存ノ地ハ貸金數高ノ償ヲナスニ  
 足ラサルト見込場合ニ於テハ貸主ヨリ借主ニ對シ外地所又ハ物品ヲ增質ニ  
 差入レサセ証文書替ヲ求ムルコトヲ得ヘシ若シ增質ニ差入ヘキ地所物品等無  
 之時ハコレ亦訴訟ノ末身代限ノ處分ニ及フヘキ事  
 但書故ノ如シ

○明治七年七月十四日第七十六號布告

明治六年<sup>一月</sup>第十八號布告地所質入書入規則左之通增補候條此旨布告候事

地所質入書入規則增補

第十六條 從前取結ヒタル質入書入ノ約定ニテ明治六年七月三十一日前二期  
 限ヲ過去リタル分ニテ債主ニ於テ貸金返濟方ニ付延期ノ勘辨ヲ加フル者ハ  
 來十月三十一日迄ニ其地所所管ノ戸長役場ヘ届出地所質入書入規則第九條  
 ニ準シ奥書割印ヲ受クヘシ若シ右日限内奥書割印ヲ受ケスシテ後日其証書

ヲ以テ訴訟ニ及フ時ハ質入書入ノ証據ニハ相立サルニ付裁判上糶賣分配ノ時ハ先取ノ權利ヲ失ヒ質入書入ナキ貸借同様ノ處分ニ及フヘキ事

○明治十二年二月十日第七號布告

明治六年<sup>一</sup>第十八號布告地所質入書入規則第五條左ノ通改正候條此旨布告候事

第五條

質人又ハ書入ノ地所期限ニ至リ貸主借主相談ノ上金穀ヲ返サスシテ地所ヲ引渡候節ハ舊地主ヨリ金主ヘ可引渡旨別紙ニ相認メ其地ノ戸長加印ノ上金主ヨリ地券相添ヘ確認ノ証ヲ可願出事

○地租改正條例

○明治六年七月廿八日第二百七十二號布告

十年一號布告ヲ以テ地租ヲ減シテ地價百分ノ二分五厘トス

今般地租改正ニ付舊來田畑貢納ノ法ハ悉皆相廢シ更ニ地券調査相濟次第土地ノ代價ニ隨ヒ百分ノ三ヲ以テ地租ト可相定旨被仰出候條改正ノ旨趣別紙條例之通可相心得且從前官廳并郡村入費等地所ニ課シ取立來候分ハ總テ地價ニ賦課可致尤其金高ハ本税金ノ三ケ一ヨリ超過スヘカラス候此旨布告候事

上諭

朕惟フニ租稅ハ國ノ大事人民休戚ノ係ル所ナリ從前其法一ナラス寬苛輕重率ネ其平ヲ得ス仍テ之ヲ改正セント欲シ乃チ所司ノ群議ヲ採リ地方官ノ衆論ヲ盡シ更ニ内閣諸臣ト辨論裁定シ之ヲ公平畫一ニ歸セシメ地租改正法ヲ頒布ス庶幾クハ賦ニ厚薄ノ弊ナク民ニ勞逸ノ偏ナカラシメン主者奉行セヨ

明治六年七月廿八日

地租改正條例

第一章 今般地租改正ノ儀ハ不容易事業ニ付實際ニ於テ反覆審按ノ上調査可致尤

土地ニ寄り緩急難易ノ差別有之各地方共一時改正難出來ハ勿論ニ付必シモ成功ノ速ナルヲ要セス詳密整理ノ見据相立候上ハ大藏省へ申立允許ヲ得ルノ後舊税法相廢シ新法施行イタシ候儀ト可相心得事

但一管内悉皆整理無之候共一郡一區調査濟ノ部分ヨリ施行イタシ不苦候事

第二章 地租改正施行相成候上ハ土地ノ原價ニ隨ヒ賦稅致シ候ニ付以後假令豐熟ノ年ト雖モ増稅不申付ハ勿論違作ノ年柄有之候トモ減租ノ儀一切不相成候事

第三章 天災ニ因リ地所變換致シ候節ハ實地點檢ノ上損墮ノ厚薄ニヨリ其年限リ免稅又ハ起返ノ年限ヲ定メ年季中無稅タルヘキ事

第四章 地租改正ノ上ハ田畑ノ稱ヲ廢シ總テ耕地ト相唱其餘牧場山林原野等ノ種類ハ其名目ニ寄り何地ト可稱事

第五章 家作有之一區ノ地ハ自今總テ宅地ト可相唱事

第六章 従前地租ノ儀ハ自ラ物品ノ稅家屋ノ稅等混淆致シ居候ニ付改正ニ當テハ判然區分シ地租ハ則地價ノ百分一ニモ可相定ノ處未タ物品等ノ諸稅目與ラサル

十年七十號布告ヲ以テ田畑ノ稱ヲ併用セシム

ニヨリ先ツ以テ地價百分ノ三ヲ稅額ニ相定候得共向後茶煙草材木其他ノ物品稅追々發行相成歲入相增其收入ノ額二百萬圓以上ニ至リ候節ハ地租改正相成候土地ニ限リ其地租ニ右新稅ノ増額ヲ割合地租ハ終ニ百分ノ一ニ相成候迄漸次減少可致事

第七章 地租改正相成候迄ハ固ヨリ舊法據置ノ筈ニ付従前租稅ノ甘苦ニ因リ苦情等申立候トモ格別偏重偏輕ノ者ニ無之分ハ一切取上無之候條其旨可相心得尤檢見ノ地ヲ定免ト成シ定免ノ地無餘義願ニ因リ破免等ノ儀ハ總テ舊貫ノ通タルヘキ事

右之通相定候條猶詳細ノ儀ハ大藏省ヨリ可相達事

明治六年七月

地租改正施行規則

第一則 今般地租改正被仰出候ニ付テハ兼テ相渡置候券面地價ノ儀舊來石盛ノ不

八年百五十二號布告ヲ以テ第七卷ニ但書ヲ追加ス

七年五十三號布告ヲ以テ第八章ヲ追加ス

同ト貢租ノ甘苦ニ寄り高低有之儀ニ付更ニ土地一歲收獲ノ作益ヲ見積各地ノ慣行ニ因リ何分ノ利ヲ以テ地價何程ト見込相立更ニ持主銘々ヨリ爲申立當否檢査ノ上適當可相定事

第二則 最前地券渡濟ノ地ハ地所ノ廉落等無之筈ニ候得共自然廉落又ハ殘歩等ノ懸念有之候分強チ舊帳簿ニ據ル時ハ地ノ廣狹其實ヲ失ヒ陰ニ地價ノ昂低ヲ爲シ其當否ヲ檢スルノ準據無之候ニ付更ニ精覈ノ反別爲申立候様可致事

第三則 郡村宅地等地價難定場所ハ其村耕地ノ平均又ハ隣村宅地ノ比較ヲ以テ相定候筈可相心得事

第四則 山間海岸其他ノ宅地他ノ比較無之地價難定分ハ一反ニ付拾錢ヨリ不少稅額ヲ定其趣ヲ券面ニ可記載事

第五則 鄉藏其外學校貧院ノ類是迄無稅ノ地トイヘトモ人民ノ共有スル者ハ宅地同様可相心得事

第六則 一村又ハ數村總持ノ山林秣場等ノ公有地ハ總テ相當ノ地租收入ノ積相心

得飯ニ地價ヲ定メ規則ノ通收稅可致事

第七則 從前一村又ハ數村ニテ貢租辨納致シ來候堤敷道敷共有墓地等ノ類有之候ハ、自今無稅ニ相定候條其反別ノミ可申立事

但從前持主有之分作德米一村ヨリ價ヒ來候類ハ是迄ノ通據置候トモ又ハ一村ニテ右地所買受候トモ相對次第タルヘキ事

第八則 海川ノ附洲湖水縁等ノ不定地或ハ試作ノ地所等反別確定無之分ハ何不定地凡反別何程ト相記シ地價相定規則ノ通收稅可致事

第九則 總テ舊來大繩受ノ地所ハ現步調査ノ上地價相定規則ノ通收稅可致事但舊來大繩受ノ地所トイヘトモ不定地ノ分ハ第八則ノ通タルヘキ事

第十則 渾テ年季ヲ定メ無稅ノ積聞届置候荒地ノ儀ハ損害ノ厚薄ニ寄り更ニ起返スヘキ難易ヲ量リ年季ノ長短ヲ定メ年季中無代價ノ地券可相渡事

第十一則 池沼等ニテ持主有之水草其他ノ利潤アルモノハ相當ノ池沼代價ヲ定メ規則ノ通收稅可致事



十年地租改正局甲  
三號布達ヲ以テ第  
十二則ニ但書ヲ追  
加ス

九年地租改正局甲  
二號布達ヲ以テ第  
十六則ヲ廢除シ第  
十七則ヲ改ム  
六則ト改ム

六年大藏省百八十八  
二號布達ヲ以テ地稅  
表雛形ヲ示ス

第十二則 新開場畝下年季中ノ分ハ其年季中無稅ノ積相心得新開試作地反別何程ト相記無代價ノ券狀可相渡事

第十三則 地價調査ノ儀ハ各廳ニ於テ適宜人員相定實地へ派出致シ可取調事

第十四則 官員派出ノ上實地點檢可致就テハ持主銘々所持ノ地所一筆毎ニ反別并番號持主姓名相記シ畝杭可建置事

第十五則 村方ヨリ差出候一筆限地價相當ナルトキハ兼テ相渡置候券狀爲差出更正ノ反別并地價ヲ券狀ノ裏ニ相記可下渡事

但券狀裏書ノ上相渡候ニ付テハ別段手数料等收入ニ不及候事

第十六則 村方ヨリ差出候地價不相當ナルトキハ調直ノ儀申渡若心得違ノ者有之及理解候上尙不服ノ節ハ入札法ヲ以テ地價相定候カ又ハ中立ノ代價ニテ可買上事

第十七則 地券調査相濟候ハ、別紙雛形ノ通地稅表ヲ製シ施行以前租稅寮へ可差出事

雛形ハ追テ達スヘシ

右之通相達候事

明治六年七月

大藏省事務總裁

參議大隈重信

別册地方官心得書相達候條右ノ内人民へ告知スヘキ條件ハ地租改正着手ノ順序緩急ヲ計リ實際不都合無之様可取計事

大藏省事務總裁

參議大隈重信

明治六年七月廿八日

地方官心得書

第一章 今般地租ノ改正ハ至大至重ノ事業タル箇ヨリ論ヲ竣タス其調査ヨロシキヲ得サレハ從前ノ偏輕偏重ヲ平均スル能ハス故ニ調査ノ間最モ詳覈考按スルヲ

子

要ス

第二章 調査ノ難キ地價ヲ定ムルヲ第一難事トシ土地ノ廣狹ヲ量ルト落地或ハ重複ノ地ナキヲ檢スル亦之レニ亞ケリ故ニ調査ノ間最モ此兩件ニ注意スヘシ

第三章 地價ヲ定ムルハ賦稅民益ノ因テ分ル所ニシテ若シ其毫釐ヲ誤ルハ民ノ幸不幸ヲ生ス故ニ下條ニ示ス檢査例ヲ熟記シ土地ノ景況ヲ審按シ然ル後處分スルヲ要ス

第四章 今調査ノ方法ヲ分ツテ二節ト定ム第一ハ人民ヨリ差出セル書上ニ就キ其當否ヲ檢シ第二ハ實地ニ臨ミ人民言フ所ノ實否ヲ檢スルニアリ

第五章 地所一筆限地價ヲ調査シテ村々ヨリ差出ス時ハ先合計上ニテ第十二章以下ノ檢査例ニ據リ合計ノ地價目的ノ準據ニ合スルヤ否ヲ檢シ準據ニ合スル者ハ假ニ之ヲ可ト定メ算者一筆限ノ算計ヲ檢ス可シ

第六章 人民申立ノ地價ヲ準據ト照合シ準據ノ價ヨリ低下スル一割迄ノ分ハ假ニ之ヲ可トスヘシ

人民ノ差出セル帳簿ヲ檢スルノ法

第七章 若シ準據ノ價ニ合セサル一割以上ナル時ハ其人民地價商量ノ方ヲ糾シ其言フ所證據アラハ先假ニ之ヲ可トスヘシ

第八章 若シ準據ヨリ低下シテ之ヲ推問スルニ其證據ナキモノハ其調査ニ誤失アルモノトナシ其事柄ヲ厚ク教諭シ再ヒ調査ヲ遂ケシムヘシ

第九章 若シ一村又ハ數村申合收穫米ヲ詐ル時ハ定免村ハ近傍檢見村ノ坪疇畝ノ歩合ヲ參酌シ其當否ヲ檢シ彌不相當ト察スルハ先一人一戸耕ヤス所ノ畝歩ヲ推問シ從前一反ノ貢額ト村費諸掛ヲ尋問シ其餘ス所若干ヲ問ハ、其數必ス尠カ  
ルヘシ其數尠ナキハ何ヲ以テ生活スルヤト推究シ猶厚ク説諭シ其眞ノ收穫ヲ言ハシムヘシ

第十章 第十二章以下檢査ノ法ハ只道理上ニテ地價ノ生スル所以ノモノヲ以テ説明シ之ヲ算定セルモノナレハ所謂理窟ツメノ者ニシテ活法ニ非ラス如何トナレハ元來土地ノ眞價ハ都鄙ノ便否人民ノ好惡耕鋤ノ難易營業ノ殊異等相須テ生スルモノニシテ強チ作益ノ多少ノミニ關セサルハ論ヲ待タス而シテ其好惡ト便否ト

一田一段歩

此收穫米一石六斗

此小作米一石八升八合

代金三圓二十六錢四厘

但一石ニ付  
代金三圓

内

金四十錢八厘

地租三分ノ  
一村入費引

金一圓二十二錢四厘

地租

小以金一圓六十三錢二厘

殘金一圓六十三錢二厘

但假ニ四分ノ  
利ト見做ス

此地價四十四圓八十錢

此百分之三

一圓二十二錢四厘

地租算法

收穫米代ノ内種肥代ヲ引去タル殘數ヲ甲ト各ツケ 第二則ハ小作米代 之ヲ實トシ一  
金ヲ直ニ甲トス

年間金利ノ歩合へ百ヲ乘シ稅率三ト村費ノ一トヲ加ヘ法トス 警へハ六分利ナル  
ナルカ 法ヲ以テ實ヲ除キ得ル所ノ數ヲ村入費トシ之ニ三ヲ乘シテ地租トス  
コトシ

第十三章 自作ノ地ヲ檢スルハ第一則ヲ以テシ小作ノ地ハ第二則ヲ以テス之ヲ正

例ト定ム然レモ各地ノ習慣區別アレハ尙別紙變例ヲモ參酌シ此方法ノ行レ難キ

地ハ別段ノ方法ヲ設ケ稟議スヘシ

第十四章 小作米ハ地主ト小作人ト相競ルノ間ヨリ出ルモノナレハ收穫ノ多寡ヲ

推知スヘキ確證ニシテ人民互ニ欺隱スル能ハサル者タルヲ以テ第二則ヲ適實ノ

者トス故ニ自作地ノ分ハ合計上ニ於テ小作地反別ノ比例ヲ以テ自作地小作米ノ

假標ヲ設ケ第二則ニ據リ調査シ其當否ヲ見ルノ參考ニ供スヘシ

第十五章 土地ヲ人ニ預ケ小作セシムルハ自ラ耕作スルト其勞費殊異アルハ勿論

隨テ收益モ亦多寡無カル可ラス故ニ小作地ヲ以テ自作地ニ比スレハ其利自ラ少

キノ理アリ譬へハ收益ノ利分自作地六分ノ利ナレハ小作地ハ四分ニテ相當ナル

ノ如キハ各人ノ胸問ニ含蓄スル所ノ者ニシテ其形ノ露出セルモノナシ故ニ臆度ヲ以テ其價ヲ算知ス可ラス是ヲ以テ幾回モ賣買シテ各人相競ヒ相糴ルニ非レハ其實ヲ得難シトス故ニ今其露出セル實益ニ就キ檢査ノ法ヲ設ク則此法ハ地價ヲ定ムル要領ト知ルヘシ若シ衆人相競ヒ相欲スルノ地ハ此算則ヨリモ其價ヲ増スハ必然ノ理アルヲ以テ必シモ此法ニ拘泥ス可ラス

第十一章 此檢査ノ法タル耕鋤其他ノ諸費ヲ除去シ全ク所得ノ實益上ヨリ算ヲ起シ來ルヲ以テ此準據ヨリ減スルモノハ決シテ無シト言ヒ難シト雖モ多クハ減スヘキノ理ナシ故ニ若シ減スル者アラハ人民不好不便ノ地乎或ハ違算不調等ノアルカ殊ニ能ク其所由ニ注意スヘシ

第十二章

檢査例

第一則

一田一段歩

此收穫米一石六斗	但 一石ニ付代
代金四圓八十錢	金三圓
内	
金七十二錢	種初肥代一
殘金四圓八錢	割五分引
内	
金四十錢八厘	地租三分ノ一
	村入費引
金一圓二十二錢四厘	地租
小以金一圓六十三錢二厘	
殘金二圓四十四錢八厘	但 假ニ六分ノ
	利ト見做ス
此地價四十圓八十錢	
此百分ノ三	一圓二十二錢四厘
第二則	

一田一段歩

此收穫米一石六斗

此小作米一石八升八合

代金三圓二十六錢四厘

但 一石ニ付  
代金三圓

内

金四十錢八厘

地租三分ノ  
一村入費引

金一圓二十二錢四厘

地租

小以金一圓六十三錢二厘

殘金一圓六十三錢二厘

但 假ニ四分ノ  
利ト見做ス

此地價四十四圓八十錢

此百分之三

一圓二十二錢四厘

地租算法

收穫米代ノ内種肥代ヲ引去タル殘數ヲ甲ト各ツケ 第二則ハ小作米代 之ヲ實トシ一  
金ヲ直ニ甲トス

年間金利ノ歩合へ百ヲ乘シ稅率三ト村費ノ一トヲ加ヘ法トス 營へハ六分利ナルル  
ナルカ 法ヲ以テ實ヲ除キ得ル所ノ數ヲ村入費トシ之ニ三ヲ乘シテ地租トス  
コトシ

第十三章 自作ノ地ヲ檢スルハ第一則ヲ以テシ小作ノ地ハ第二則ヲ以テス之ヲ正

例ト定ム然レモ各地ノ習慣區別アレハ尙別紙變例ヲモ參酌シ此方法ノ行レ難キ

地ハ別段ノ方法ヲ設ケ稟議スヘシ

第十四章 小作米ハ地主ト小作人ト相競ルノ間ヨリ出ルモノナレハ收穫ノ多寡ヲ

推知スヘキ確證ニシテ人民互ニ欺隱スル能ハサル者タルヲ以テ第二則ヲ適實ノ

者トス故ニ自作地ノ分ハ合計上ニ於テ小作地反別ノ比例ヲ以テ自作地小作米ノ

假標ヲ設ケ第二則ニ據リ調査シ其當否ヲ見ルノ參考ニ供スヘシ

第十五章 土地ヲ人ニ預ケ小作セシムルハ自ラ耕作スルト其勞費殊異アルハ勿論

隨テ收益モ亦多寡無カル可ラス故ニ小作地ヲ以テ自作地ニ比スレハ其利自ラ少

キノ理アリ譬へハ收益ノ利分自作地六分ノ利ナレハ小作地ハ四分ニテ相當ナル

ヘシ檢査ノ際尤注意スヘシ

第十六章 小作米ハ地價ヲ求ムルノ標的ナリト雖モ古來ノ名田小作永小作ノ類地主ノ其地ヲ自由スルノ權利アラサル者及小作人ニテ貢米諸役ヲ出スノ類ハ此標的ト爲ス可ラス

第十七章 今收穫ヲ量ルニ一郡一村中ニ古檢新檢其他間竿ニ長短アリ區々入交リタル地ハ一步ノ收穫ニ多少ノ差アルヲ以テ右様ノ地ヲ檢査スルノ際彼此混同セサル様注意スヘシ

第十八章 地價ヲ檢査スルノ際種子肥糞ノ歩合ハ一定ノ標的ヲ設ケサレハ比例ノ計算スヘキナシ故ニ第十二章ニ掲クル所ノ收穫米代ノ一割五分ヲ以テ定率トス且土地ニ課スル村入費ハ從前一定ノ規則ナシト雖モ今後地租ノ三分一ヨリ超過スヘカラサルヲ以テ檢査ノ際必之ヲ以テ村費ノ定率トスヘシ

第十九章 土地ヲ賣買スルヤ各人ノ好惡ニ因リ其利分低昂アリト雖モ其差等ノ如キハ概略三分利ヨリ六分利マテヲ以テ普通トス故ニ今地價ヲ檢スルノ際自作地

ハ七分利小作地ハ五分利ヲ以テ其極度トスヘシ

第二十章 米價ハ從來其地ニテ用ヒ來レル各所ノ相庭ヲ推問シ申立ノ米價ト照合シ其當否ヲ檢スヘシ

第二十一章 畑方ハ小作米金ヲ以テ地價ヲ算スルヲ本則トス可シ時トシテハ第二十四章ニ照準其價ヲ定ムヘシ

第二十二章 鹽田ハ竈元諸器械モ其地ニ屬セサレハ營業ノ成リ難キヲ以テ地價ヲ定ムル甚難シ故ニ賣買ノ代價ヲ以テ定ムヘシ

第二十三章 人民所有ノ山林藪澤ノ類其價ヲ定ムル亦難シ其一歳ノ收入ト賣買代價ノ照應ヲ以テ定ムヘシ

第二十四章 總テ收穫ノ利益詳カナラス價ノ當否決シカタキモノハ鑑定人ヲ設ケ實地上ニ於テ其價ヲ言ハシメ變例中第一則ノ意ニ基キ競糶セシメ鑑定人ノ言ト參酌シテ其價ヲ定ムルモ亦可ナリ

第二十五章 席上ノ調査相整ヒ地價ノ概畧見込相立ツ時ハ左ノ畧表ヲ制シ實地調

查ノ目的トスヘシ

新舊稅額比較表

宅地	畑	田	舊反別	舊稅額	改正別	地價	地券稅	稅金比較	反別比較
			増	減	増	減			
何程	何程	何程	何程	何程	何程	何程	何程	何程	何程

實地ヲ檢査スルノ法

第二十六章 派出ノ人員ハ適宜ニ定ムヘシト雖モ主事タル者ハ權大屬以上タルヘシ

第二十七章 實地派出ノ節ハ兼テ地券掛ヲ命シタル郡村附屬又ハ地理ニ明ナル者ヲ撰ミ隨行セシメ顧問ニ備フヘシ

第二十八章 實地ニ臨ムニニタ手又ハ三手ニ分レ派出セハ其始メ一同集合シ先ツ一村ヲ檢査シ着手ノ方法ヲ試ミ各員異様ノ處分ナキヲ要スヘシ

第二十九章 耕地巡視ノ時ハ一筆毎ノ畝杭ヲ改メ落地ノ有無ヲ點檢シ廣狹ノ當否

ヲ觀察シ三四ヶ所竿入様歩イタシ書上ノ步數ト増減アルトキハ再調ヲ命スヘシ

第三十章 様歩ノ上調査整ヒタルモノハ其近傍便宜ノ場所ニ於テ地價ヲ調査スヘシ

第三十一章 前以テ差出セル帳簿ノ代價至當ナルハ實地ト照考シ格別昂低ヲ生スヘカラスト雖モ第七章ノ如キ低價ニ申立タル地ハ殊更注意シ其言ノ實否ヲ檢査スヘシ

第三十二章 若シ人民書上ノ地價不相當ト察スルトキハ篤ト説諭シ猶承服セサル寸ハ一村ノ中チ上中下數筆ノ地ヲ撰ミ戶長地主一同立會セ變例第一則又ハ第二則ノ手續ヲ以テ入札セシムヘシ

第三十三章 自然入札法ヲ以テ處シカタク時ハ其者申立ノ價ヒヲ以テ官ニ買上ケルモ申分ナキ歟ヲ推問シ申分ナキ旨申立ルトキハ承諾ノ請書ヲ申付ヘシ

第三十四章 請書ヲ申付ケ價ヒヲ増サ、ルハ先適當ノモノト看做シ置派出ノ人員一同僉義ヲ盡シ猶隣村同位ノ地價トヲ照考シ其當否ヲ定ムヘシ

千

第三十五章 買上ノ請書ヲ命スルニ至リ請書差出スニ於テハ其中立ノ價ヒ的當ナルニ近キヲ以テ眞ニ買上クル手順ニ至ルハ稀ナルヘシト雖モ實ニ詐偽アルト察スル時ハ買上ノ處分ニ及フヘシ

第三十六章 地價ノ參考ニ供センタメ前々ノ割賦帳皆濟帳檢見歩刈帳最前ノ地券大帳地引繪圖等ノ類ハ必ラス携ヘ行クヘシ

第三十七章 常ニ水旱ノ憂アル地ハ其地價モ亦普通ヨリ減少ナルノ理アリ宜シク前々貢額ノ高下ヲ參考シ至當ノ價ヲ定ムヘシ徒ニ人民ノ中分ニ據リ格外ノ低價ニ定ムヘカラス

第三十八章 數村ノ調査畢ラハ最前渡シタル地券ヲ一村毎ニ取纏メ差出サセ地價ノ調書ト共ニ其本廳ニ送達スヘシ

第三十九章 本廳ニ於テハ各所ヨリ送達セル調書ヲ再檢シ其總計ヲ算シ前々貢租ノ額ト新稅額トノ増減當否ヲ點檢シ大帳ヲ整理シテ後地券ノ裏ニ更正ノ反別地價ヲ記載シテ下渡スヘシ

但大帳ハ最前調査セル帳簿ヘ朱字ニテ更正ノ反別地價稅額ヲ記スカ又ハ新ニ製スルトモ便宜タルヘシ

裏書式

一 耕地  
二 宅地

但何尺竿

代價何程

此百分ノ三

金何程

地 租

右明治何年何月何日更正授與之

何府縣知事令苗字名印

檢査人

某官 苗字名印

第四十章 稅法改正ニ因リ地價ヲ調理スルハ都テ舊來ノ貢額ニ拘ハラズ銘々實際賣買スヘキ見込ノ價左ノ雛形ノ如ク書載シテ進達スヘキ旨村々ヘ布達スヘシ

人民へ示スへ  
非關係



雛形

何番  
字何

一田何反步

何之某印

此收穫米何程

但種肥其外諸費ヲモ引  
去ラス一作又ハ兩毛作  
トモ總テ其地一歲ノ收  
獲ヲ舉ク可シ

地價何程

何番  
字何

一畑何反步

右同人印

此收穫品何程

但畑ハ麥桑茶藍ノ類總  
テ其品ノ數量判然タル  
モノハ悉ク記載スヘク  
其品柄ニヨリ其屬ヲ記

小作人某印

シ難キモノハ收利ノ代  
金ヲ記スヘシ

地價何程

但小作<sup>米</sup>何程

何番  
字何

一屋敷何反步

右同人印

地價何程

如此一人別ニ相認一村ノ合計左ノコトク仕譯スヘシ  
合何拾何町何反何畝何步 但<sup>一步</sup>何尺竿

地價何萬何千何百何拾何圓何拾何錢何厘

内

一田何反步	
地價何程	
內	
反別何程	
此收穫米何程	自作
地價何程	
反別何程	
此收穫米何程	小作
地價何程	
小作米何程	
一畑何反步	
地價何程	
內	

反別何程	自作
此收穫品何程	
地價何程	
反別何程	
此收穫品何程	小作
地價何程	
小作金何程	
一屋敷何反步	
地價何程	
外	
一持山何反步	
地價何程	

如此種類ハ持主任譯帳別段  
ニ仕立ヘキ事

子

一林何反步

地價何程

右ハ今般稅法御改正ニ付私共村方銘々持地反別代價等可申上旨御達シニ付私共立會從前隱田切開繩仲ノ類マテ地毎ニ取調箇所落ハ勿論隱步等一切無御座且取揚米並小作米等聊詐欺ノ儀不奉申上候若心得違ノ儀有之後日相顯ハル、ニ於テハ如何様ノ御處分有之候トモ毛頭申分無御座候依之地主一同調印ヲ以奉申上候以上

何國何郡何村

百姓總代

年號月日

何某印

戶長

何某印

何府知事  
縣令 何某殿

第四十一章 右雛形ヲ作為スルニ當リテ左ニ記スル第四十二章ヨリ第四十四章ニ

至ル箇條ヲ管内へ布達シ調理ノ際矛盾アラシムルコト勿レ

第四十二章 一村中古檢新檢入交リ竿繩長短アルモノハ合計ノ内何反步ハ何尺竿

何町步ハ何尺竿ト記載セシムヘシ

第四十三章 地代金ハ一ヶ年收穫ノ内種肥代其外諸費ヲ引去全ク地主所得トナル

ヘキ米金ヲ其村從前賣買仕來ノ利息割合ヲ以テ現今互ニ賣買スヘキ者ト看做シ見込ノ代價ヲ記載セシムヘシ

第四十四章 雛形ニ記セル收穫米ハ是迄年々其地ヨリ登量ノ總數ヲ舉クヘシ尤モ

其年々豊凶ニ依テ一定ナラスト雖モ平年作柄ヲ正實ニ書出サシムヘシ

檢査變例

第一則

一 一村申立ノ收穫米及ヒ小作米ノ員數不相當ナルカ又ハ諸入費等多分ナル事ヲ唱  
 へ検査ノ算當ニ當ラス一村申合セテ低價ニ書出セルト察スル時ハ臨機左ノ入札  
 法ヲ施スヘシ

一 一村ノ耕地ヲ上中下三等又ハ五六等其品位限リ區分シ雛形ノ如ク調査セシムヘシ  
 雛形

耕地品位

上ノ部

何番ヨリ  
 何番マテ 何番 何番

中ノ部

何番ヨリ  
 何番マテ

下ノ部

何番 何番

上ノ部何反歩

申立代價何程

合計 中ノ部何反歩

代價何程

下ノ部何反歩

代價何程

一 右品位ノ内各一二ヶ所ツ、戸長小前一同立會ハセ面前ニテ圖取ヲ以テ糶地ヲ定  
 ムヘシ

一 右糶地定マラハ村内及ヒ近傍村々ノ者ヲシテ各自賣買スヘキ見込ノ價ヲ入札セ  
 シメ高札人ニ買取ラシムヘシ

一 落札ノ代價最前持主ノ申立ヨリ高價ナルル地主コレヲ賣渡スコトヲ欲セサレハ五  
 圓ヨリ少カラス二十五圓ヨリ多カラサル謝金ヲ其村ヨリ落札人へ渡サシムヘシ  
 一 若シ又舊地主持續クコトヲ欲セサルルハ其者申立ノ代價ヲ以官ニ買上ケ更ニ入札  
 ノ代價ヲ以テ高札人へ賣渡スヘシ若シ落札人即金ニ納メ能ハサルルハ舊地主申

立ノ代價タケ即金ニ納サセ其餘ノ間金ハ年賦ニ申付ヘシ

一若シ落札直段持主申立ノ代價ヨリ低價ナルハ持主賣拂フコトヲ欲セサルハ必然ナレハ入札ノ代價其當ヲ得サルモノト見做シ地主申立ノ代價ヲ以テ地價ト定ムヘシ尤其申立ノ價不當ト察スルハ時トシテ買上ノ處分スヘシ

一落札代價ノ當否ヲ檢スルニ第十二章ノ例ヲ以テシ粗適當スルハ其當ヲ得ルモノト見做シ其比類ヲ推シテ一村上中下ノ地價ヲ定ムヘシ

一一人持地ノ上ニテ代價不相當ト察シ規則第十六則ノ手續ヲ以テ入札法ヲ施スニ至ラハ先ツ持主申立ノ代價ヲ公示シテ入札セシメ其高札最前申立ノ代價ヨリ一割以上ニアラサレハ落札セシメス持主申立ヲ相當ト見做スヘシ

一右地所落札ノ代價最前持主ノ申立ヨリ一割以上ナルハ持主之ヲ賣渡スコトヲ欲セサレハ一圓ヨリ七圓迄ノ謝金ヲ落札人へ渡サシムヘシ

一假令ハ甲所有ノ地ヲ乙落札ニ成ルト雖モ其地所ニ甲ノ作物アルハ之ヲ其儘乙ニ賣渡ストモ又甲ハ乙ノ小作人トナルハ都テ甲乙相對タルヘシ

第二則

一小作入付米ハ小作人種肥手間料等ヲ引去リ其殘數ヲ地主へ差出スヘキモノニテ申立ノ員數欺隱スヘキモノニ非スト云レ土地ノ慣習ニヨリ強テ檢査例ニ據リ難キ事情アルハ臨機小作米ノ入札ヲ施行スヘシ此法ヲ施行セント欲セハ第一則ノ如ク上中下ノ品位ヲ取調サセ隨取ニテ糶田ヲ定メ一村ノ中地所持主五六人此地ノ地主ハ必ス此撰ニ入ルヘシ小作人五六人此地ノ小作人ハ必ス此員ニ入ルヘシ相集メ向後銘々此地ヲ小作セシメ又ハ人ニ小作セシメント欲セハ何程ノ小作米ヲ出スヘキ乎ヲ入札セシメ其高札本人ヲ以テ以來其地ノ小作人ト定ムヘシ

一若落札ノ小作米從前ヨリ相増スハ是迄ノ小作人引續キ小作センコトヲ欲セハ元小作人ヲ以テ其地ノ小作ト定メ五十錢ヨリ五圓マテノ謝金ヲ元小作人ヨリ取立落札人へ相渡スヘシ

一上中下各等ノ小作米其類ヲ推シテ通算シ先一村合計上ニテ第十二章ノ第二則ニ隨ヒ其村ノ地價ヲ算出スヘシ

地主ハ毎ニ小作米ノ多カラシムルヲ欲シ小作人ハ毎ニ其少キヲ欲スル通情ナレハ小作米ヲ入札シテ地主ノ申立タルヨリモ多カラシムルハ最難シトス故ニ此法ハ地主ノ申立タル小作米ノ高分外ニ少クシテ之ニ幾分ヲ増スモ尙小作ノ利益アルヘキヲ確乎見据タル并及ヒ耕地少ク人民多ク手ヲ虚フシテ毎ニ耕スニ地ナキヲ憂ル地ニノミ行フヘキモノトス若シ深ク此時ト地トニ注意スルヲナク此法ヲ妄用スルハ平地ニ風波ヲ起スアルヲ以テ最深思熟慮スルヲ要ス

第三則

地主所得ト舊貢米トヲ以テ地價ノ當否ヲ檢スルノ例

一 田壹反歩

此舊貢米九斗

此代金壹圓五十錢

一 地主全所得米九斗

此代金貳圓七十錢

外二斗 諸費見込除之

合四圓二十錢

内

壹圓四十錢 新稅引

殘貳圓八十錢 六分利

此原價四十六圓六十六錢七厘

此百分ノ三壹圓四十錢

第四則

最前渡シタル地券ノ代價ト舊貢額トヲ根據トシ今度書出セル地價ノ當否ヲ檢査スルノ例

一 田壹反歩

舊地券ノ地價三十八圓五十七錢 舊稅額存在セル地券代價ナリ

舊貢米五斗

此代金壹圓五十錢 六分利

此原價貳十五圓

二口合六十三圓五十七錢

內

壹圓貳十七錢壹厘 新稅

此原價貳十壹圓十八錢三厘

殘四十貳圓三十八錢七厘

此百分ノ三壹圓貳十七錢壹厘

○明治七年五月十二日第五十三號布告

明治六年<sup>七</sup>月<sup>七</sup>第二百七十二號布告地租改正條例中左ノ通第八章追加候條此旨布告候事

第八章 地租改正後賣買ノ間地價ノ増減ヲ生シ候共改正ノ年ヨリ五箇年ノ間

ハ最初取定メ候地價ニヨリ收稅致スヘキ事

但地價昂低ヲ生シ候節ハ券狀裏面ヘ其地方官ニ於テ朱書ニテ記シ置可申事

○明治八年十月七日第百五十二號布告

明治六年<sup>七</sup>月<sup>七</sup>第二百七十二號布告地租改正條例第七章ヘ左ノ通但書追加候條此旨布告候事

第七章 地租改正云々

但改正調査ニ臨ミ既ニ土地ノ丈量相濟收獲地價等實地適當ノ申立ト難見据改正施行差支候節ハ定免地ト雖モ悉皆檢見法ヲ以テ收稅可致事

○明治九年五月十二日第六十八號布告

地租改正調査ニ臨ミ丈量濟收獲地價適當ノ見据相立一郡一區内ニ就テ人民過般承服ノ場合ニ至ルト雖モ其一部分ノミ私見ヲ張り承服セサル者有之節ハ近

傍類地等ノ比準ヲ取り相當ノ地價ヲ定メ地券相渡收稅申付候條此旨布告候事

○明治十年十月四日第七十號布告

明治六年<sup>七</sup>月<sup>七</sup>第二百七十二號地租改正條例第四章ニ地租改正ノ上ハ田畑ノ稱ヲ廢シ總テ耕地ト唱フヘキ旨布告候處詮議ノ次第有之ニ付自今田畑ノ稱併用スヘシ此旨布告候事

○明治十二年二月廿七日第拾號布告

明治七年<sup>五</sup>月<sup>五</sup>第五十三號布告ヲ以テ追加候地租改正條例第八章但書削除候條此旨布告候事

○明治十三年五月廿日第二十五號布告

第一條

明治七年第五十三號ヲ以テ地租改正後五ヶ年間ハ當初定メタル地價ニ據リ收稅致スヘキ旨布告及ヒ置シ處仍ホ明治十八年迄据置收稅致スヘシ但府知事縣令ニ於テ當初定メタル地價不適當ナリト思量シ其事由ヲ具申スルハ大藏卿ハ検査員ヲ派遣シ實地調査ノ上一町村又ハ一郡區限リ特別修正ヲ聽許スルコトアルヘシ

第二條

改租以後地目變換<sup>田ヲ畑ニ畑ヲ田宅地ニナスノ類</sup>セルモノハ五ヶ年滿期ニ際シ總テ現地目ニ組換地價ヲ修正シ爾後變換スル者ハ其年々修正スヘシ

第三條

第一條第二條ニ依リ修正ヲ加フル時ハ明治六年第二百七十二號布告ノ地租改正條例及ヒ同年七月大藏省事務總裁布達ノ地租改正施行規則ニ依ルヘシ且其費用ハ官吏ノ旅費日給ヲ除クノ外悉皆修正ニ該ル郡區町村若クハ所有者ヨリ支出スヘキモノトス



第四條

地價修正ノ後租額ノ増減ハ其修正聽許ノ年ヨリ改定スルモノトス  
右布告候事

○明治十年一月四日第一號布告

今般地租ノ儀別紙詔書ノ通被仰出候ニ付テハ明治十年ヨリ地價百分ノ二分五厘ト被定候條此旨布告候事

詔書寫

朕惟フニ維新日淺ク中外多事國用實ニ費ラレス而シテ兆民猶ホ疾苦ノ中ニ在リテ未タ富庶ノ澤ヲ被ラサルヲ愍レミ曩ニ舊税法ヲ改正シテ地價百分ノ三トナシ偏重無カラシメントス今又親ク稼穡ノ艱難ヲ察シ深ク休養ノ道ヲ念フ更ニ稅額ヲ減シテ地價百分ノ二分五厘ト爲サン有司宜ク痛ク歲出費用ヲ節減シテ以テ朕カ意ヲ賛クヘシ

明治十年一月四日

○地所名稱區別

○明治七年十一月七日第百二十號布告

明治六年三月第百十四號布告地所名稱區別左ノ通改定候條此旨布告候事

官有地

第一種 地券ヲ發セス地租ヲ課セス區入費ヲ賦セサルヲ法トス

一 皇宮地 皇居離宮等ヲ云

一 神地 伊勢神宮山陵官國幣社府縣社及  
ヒ民有ニアラサル社地ヲ云

第二種 地券ヲ發シ地租ヲ課セス區入費ヲ賦スルヲ法トス

但府縣所用ノ地ハ地券ヲ發セス唯帳簿ニ記入ス

一 皇族賜邸

十二年三十四號布告  
入費トアルヲ都區  
地方稅ト改ム

八年百十四號布告  
ヲ以テ此條ヲ改正  
ス  
十二年三十四號布告  
賦スルトアルヲ地  
方稅ヲ賦セサルト  
改ム

十二年三十四號布告  
以テ但書中ヲ改ム

一官用地

官院省使寮司府藩縣本廳裁判所警視廳陸海軍  
本營其他政府ノ許可ヲ得タル所用ノ地ヲ云

第三種

地券ヲ發セス地租ヲ課セス區入費ヲ賦セサルヲ法トス

但人民ノ願ニヨリ右地所ヲ貸渡ス時ハ其間借地料及ヒ區入費ヲ賦  
スヘシ

一山岳丘陵林藪原野河海湖沼池澤溝渠堤塘道路田畑屋敷等其他民有地ニア  
ラサルモノ

一鐵道線路敷地

一電信架線柱敷地

一燈明臺敷地

一各所ノ舊跡名區及ヒ公園等民有地ニアラサルモノ

一人民所有ノ權理ヲ失セシ土地

一民有地ニアラサル堂宇敷地及ヒ墳墓地

一行刑場

十二年三十四號布告  
以テ區入費ヲ賦スルトアル地  
方稅ヲ賦セサルト改ム

第四種

地券ヲ發セス地租ヲ課セス區入費ヲ賦スルヲ法トス

一寺院大中小學校說教場病院貧院等民有地ニアラサルモノ

民有地

第一種

地券ヲ發シ地租ヲ課シ區入費ヲ賦スルヲ法トス

一人民各自所有ノ確證アル耕地宅地山林等ヲ云

但此地賣買ハ人民各自ノ自由ニ任スト雖モ潰シ地開墾等ノ如キ大ニ地  
形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス

第二種

一人民數人或ハ一村或ハ數村所有ノ確証アル學校病院鄉倉牧場秣場社寺等  
官有地ニアラサル土地ヲ云

但此地賣買ハ其所有者一般ノ自由ニ任スト雖モ潰地或ハ開墾等ノ如キ  
大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス

第三種

地券ヲ發シテ地租區入費ヲ賦セサルヲ法トス

十三年四十三號布告  
以テ一項ヲ追加ス

九年八十八號布告  
以テ第二種ヲ第一種ニ合セ第三種ヲ第一種ト改ム

八年百十四號布告  
以テ此條并ニ第一項ヲ改正ス

八年百五十四號布告  
項ヲ追加ス

一官有ニアラサル墳墓地等ヲ云フ

○明治八年七月二日第百十四號布告

明治七年<sup>十一月</sup> 第百二十號布告地所名稱區別ノ内官有地第二種及ヒ民有地第三種ノ條左ノ通改正候條此旨布告候事

官有地

第二種 地券ヲ發シ地租ヲ課セス區入費ヲ賦スルヲ法トス尤府縣所用

十二年三十四號布告  
方稅ヲ賦セサルト

ノ地ハ地券ヲ發セス唯帳簿ニ記入ス

但此地ニ在ル官舎ヲ貸渡スハ借地料ヲ賦スヘシ

民有地

第三種 地券ヲ發シテ地租區入費ヲ賦セサルヲ法トス

一官有ニアラサル鄉村社地及ヒ墳墓地等ヲ云

九年八十八號布告  
二種ト改ム

○明治八年十月九日第百五十四號布告

明治七年<sup>十一月</sup> 第百二十號布告地所名稱區別中民有地第三種へ左ノ通追加候條此旨布告候事

民有地第三種

一民有ノ用惡水路溜池敷堤敷及井溝敷地

○明治九年六月十三日第八十八號布告

明治七年<sup>十一月</sup> 第百二十號及八年<sup>七月</sup> 第百十四號布告地所名稱區別中民有地ノ部第二種ヲ第一種ニ合セ第三種ヲ第二種ト相改候條此旨布告候事

○明治十二年九月十一日第三十四號布告

明治七年<sup>十一月</sup> 第百二十號布告地所名稱區別中官有地第二種第四種區入費ヲ賦スルトアルヲ地方稅ヲ賦セサルトシ第三種但書借地料及ヒ區入費ヲ賦スヘシ

九年八十八號布告  
二種ト改ム

子

トアルヲ借地料ヲ納メシムヘシトシ其他區入費トアルヲ都テ地方稅ト改正候條此旨布告候事

○明治十三年十月五日第四十三號布告

地所名稱區別中民有地第二種ニ左ノ通追加候條此旨布告候事  
一公衆ノ用ニ供スル道路

但其地形ヲ變換スルトキハ管轄廳ノ許可ヲ請フヘシ

○朝鮮國ト條約

○明治九年三月二十三日第三十四號布告

今般朝鮮國ト別冊ノ通り條約取結相成候條此旨布告候事

修好條規

大日本國

大朝鮮國ト素ヨリ友誼ニ敦ク年所ヲ歷有セリ今兩國ノ情意未タ洽子カラサルヲ視ルニ因テ重テ舊好ヲ修メ親睦ヲ固フセント欲ス是ヲ以テ日本國政府ハ特命全權辦理大臣陸軍中將兼參議開拓長官黑田清隆特命副全權辦理大臣議官井上馨ヲ簡ミ朝鮮國江華府ニ詣リ朝鮮國政府ハ判中樞府事申樞都摠府副摠管尹滋承ヲ簡ミ各奉スル所ノ諭旨ニ遵ヒ議立セル條款ヲ左ニ開列ス

第一款

朝鮮國ハ自主ノ邦ニシテ日本國ト平等ノ權ヲ保有セリ嗣後兩國和親ノ實ヲ表セン  
ト欲スルニハ此彼互ニ同等ノ禮儀ヲ以テ相接待シ毫モ侵越猜嫌スル事アルヘカラ  
ス先ツ従前交情阻塞ノ患ヲ爲セシ諸例規ヲ悉ク革除シ務メテ寬裕弘通ノ法ヲ開擴  
シ以テ雙方トモ安寧ヲ永遠ニ期スヘシ

第二款

日本國政府ハ今ヨリ十五箇月ノ後時ニ隨ヒ使臣ヲ派出シ朝鮮國京城ニ到リ禮曹判  
書ニ親接シ交際ノ事務ヲ商議スルヲ得ヘシ該使臣或ハ留滯シ或ハ直ニ歸國スルモ  
共ニ其時宜ニ任スヘシ朝鮮國政府ハ何時ニテモ使臣ヲ派出シ日本國東京ニ至リ外  
務卿ニ親接シ交際事務ヲ商議スルヲ得ヘシ該使臣或ハ留滯シ或ハ直ニ歸國スルモ  
亦其時宜ニ任スヘシ

第三款

嗣後兩國相往復スル公用文ハ日本ハ其國文ヲ用ヒ今ヨリ十年間ハ添フルニ譯漢文  
ヲ以テシ朝鮮ハ眞文ヲ用フヘシ

第四款

朝鮮國釜山ノ草梁項ニハ日本公館アリテ年來兩國人民通商ノ地タリ今ヨリ従前ノ  
慣例及歲遣船等ノ事ヲ改革シ今般新立セル條款ヲ憑準トナシ貿易事務ヲ措辦スヘ  
シ且又朝鮮國政府ハ第五款ニ載スル所ノ二口ヲ開キ日本人民ノ往來通商スルヲ准  
聽スヘシ右ノ場所ニ就キ地面ヲ賃借シ家屋ヲ造營シ又ハ所在朝鮮人民ノ屋宅ヲ賃  
借スルモ各其隨意ニ任スヘシ

第五款

京圻忠清全羅慶尙咸鏡五道ノ沿海ニテ通商ニ便利ナル港口二個所ヲ見立タル後地  
名ヲ指定スヘシ開港ノ期ハ日本曆明治九年二月ヨリ朝鮮曆丙子年正月ヨリ共ニ數  
ヘテ二十個月ニ當ルヲ期トスヘシ

第六款

嗣後日本國船隻朝鮮國沿海ニ在リテ或ハ大風ニ遭ヒ又ハ薪糧ニ窮竭シ指定シタル  
港口ニ達スル能ハサル時ハ何レノ港灣ニテモ船隻ヲ寄泊シ風波ノ險ヲ避ケ要用品

ヲ買入レ船具ヲ修繕シ柴炭類ヲ買求ムルヲ得ヘシ勿論其供給費用ハ總テ船主ヨリ賠償スヘシト雖モ是等ノ事ニ就テハ地方官人民トモニ其困難ヲ體察シ眞實ニ憐恤ヲ加ヘ救援至ラサル無ク補給敢テ吝惜スル無ルヘシ倘又兩國ノ船隻大洋中ニテ破壊シ乗組人員何レノ地方ニテモ漂着スル時ハ其地ノ人民ヨリ即刻救助ノ手續ヲ施シ各人ノ性命ヲ保全セシメ地方官ニ届出該官ヨリ各本國へ護送スルカ又ハ其近傍ニ在留セル本國ノ官員へ引渡スヘシ

第七款

朝鮮國ノ沿海島嶼岩礁從前審檢ヲ經サレハ極メテ危險トナスニ因リ日本國ノ航海者自由ニ海岸ヲ測量スルヲ准シ其位置淺深ヲ審ニシ圖誌ヲ編製シ兩國船客ヲシテ危險ヲ避ケ安穩ニ航通スルヲ得セシムヘシ

第八款

嗣後日本國政府ヨリ朝鮮國指定各口へ時宜ニ隨ヒ日本商民ヲ管理スルノ官ヲ設ケ置クヘシ若シ兩國ニ交渉スル事件アル時ハ該官ヨリ其所ノ地方長官ニ會商シテ辨

理セン

第九款

兩國既ニ通好ヲ經タリ彼此ノ人民各自己ノ意見ニ任セ貿易セシムヘシ兩國官吏毫モ之レニ關係スルコナシ又貿易ノ限制ヲ立テ或ハ禁沮スルヲ得ス倘シ兩國ノ商民欺罔尙賣又ハ貸借償ハサルコアル時ハ兩國ノ官吏嚴重ニ該通商民ヲ取糺シ債欠ヲ追辨セシムヘシ但シ兩國ノ政府ハ之ヲ代償スルノ理ナシ

第十款

日本國人民朝鮮國指定ノ各口ニ在留中若シ罪科ヲ犯シ朝鮮國人民ニ交渉スル事件ハ總テ日本國官員ノ審斷ニ歸スヘシ若シ朝鮮國人民罪科ヲ犯シ日本國人民ニ交渉スル事件ハ均シク朝鮮國官員ノ查辨ニ歸スヘシ尤雙方トモ各其國律ニ據リ裁判シ毫モ回護祖庇スルコナク務メテ公平允當ノ裁判ヲ示スヘシ

第十一款

兩國既ニ通好ヲ經タレハ別ニ通商章程ヲ設立シ兩國商民ノ便利ヲ與フヘシ且現今

千

議立セル各款中更ニ細目ヲ補添シテ以テ遵照ニ便ニスヘキ條件共自今六個月ヲ過スシテ兩國別ニ委員ヲ命シ朝鮮國京城又ハ江華府ニ會シテ商議定立セン

第十二款

右議定セル十一款ノ條約此日ヨリ兩國信守遵行ノ始トス兩國政府復之レヲ變革スルヲ得ス以テ永遠ニ及ホシ兩國ノ和親ヲ固フスヘシ之レカ爲ニ此約書二本ヲ作り兩國委任ノ大臣各鈐印シ相互ニ交付シ以テ憑信ヲ昭ニスルモノナリ

大日本國紀元二千五百三十六年明治九年二月二十六日

大日本國特命全權辦理大臣陸軍中將兼參議開拓長官黑田清隆印

大日本國特命副全權辦理大臣議官井上馨印

大朝鮮國開國四百八十五年丙子二月初二日

大朝鮮國大官判中樞府事申摺印

大朝鮮國副官都摠府副摠管尹滋承印

○明治九年十月十四日第百廿七號布告  
今般朝鮮國ト修好條規附錄並貿易規則別紙ノ通結約相成候條此旨布告候事

別冊

修好條規附錄

日本國政府曩ニ特命全權辦理大臣陸軍中將兼參議開拓長官黑田清隆特命副全權辦理大臣議官井上馨ヲシテ朝鮮國江華府ニ詣ラシメ同國政府ハ大官判中樞府事申摺副官都摠府副摠管尹滋承ニ委任シ日本曆明治九年二月二十六日朝鮮曆丙子年二月初二日雙方互ニ調印シタル修好條規第十一款ノ旨趣ニ從ヒ日本國政府ハ理事官外務大丞官本小一ニ委任シ朝鮮國京城ニ詣リ朝鮮國政府ハ講修官議政府堂上趙寅熙ニ委任シ相會同シテ議立スル條款左ニ開列ス

第一款

嗣後各港口駐留日本國人民管理官朝鮮國沿海地方ニ於テ日本國ノ諸船困難ニ遭ヒ緊急ナリト聞クトキハ地方官ニ告ケ該地ニ到ル道路ヲ經過スルヲ得ヘシ

第二款

嗣後使臣及管理官ヨリ各所へ通スル送文ハ自費ヲ以テ郵送スルモ或ハ該國人民ヲ雇ヒ專差スルモ各其便ニ從フヘシ

第三款

議定シタル朝鮮國通商各港ニ在リテ日本國人民地基ヲ租賃シ住居スルハ各其地主ト相議シテ價ヲ定ムヘシ朝鮮國政府ニ屬スル地ハ朝鮮國人民ヨリ官ニ納ルト同一ノ租額ヲ出シテ住居スヘシ釜山草梁項日本公館ニハ從前同國政府ヨリ守門設門ヲ設ケシカ今後之ヲ廢撤シ一ニ新定ノ程限ニ依リ標ヲ界上ニ立ツヘシ他ノ二港モ亦此例ヲ照ス

第四款

嗣後釜山港ニ於テ日本國人民行步ヲ得ヘキ道路ノ里程ハ波戶場ヨリ起算シテ東西南北各直徑十里<sup>朝鮮里法ニ依ル</sup>ト定ム東萊府中ニ至テハ里程外ニ在リト雖モ特ニ往來ヲ爲ス此里程内ニ於テ日本國人民隨意行步シ其地ノ物産及日本國物産

ヲ賣買スルヲ得ヘシ

第五款

議定シタル朝鮮國各港ニ於テ日本國人民ハ朝鮮國人民ヲ賃雇スルヲ得ヘシ朝鮮國人民其政府ノ許可ヲ得ハ日本國ニ來ルモ妨ナシ

第六款

議定シタル朝鮮國各港ニ於テ日本國人民若シ死去シタル時ハ適宜ノ地處ヲ選ミ埋葬スルヲ得ヘシ但他ノ二港ノ埋葬地ハ釜山埋葬地ノ遠近ノ例ニ依ル

第七款

日本國人民日本國ノ諸貨幣ヲ以テ朝鮮國人民ノ所有物ト交換シ得ヘシ又朝鮮國人民ハ交換シ買得タル日本國ノ諸貨幣ヲ以テ日本國ノ諸貨物ヲ買入ル、爲メ朝鮮國指定ノ諸港ニテハ人民相互ニ通用スルヲ得ヘシ  
日本國人民ハ朝鮮國銅貨幣ヲ使用運輸スルヲ得ヘシ兩國人民私ニ錢貨ヲ鑄造スル者アレハ各其國ノ法律ニ照シテ處斷スヘシ



第八款

朝鮮國人民日本國人民ヨリ買得タル貨物或ハ贈與ヲ受タル諸物品ハ隨意使用シテ妨無シ

第九款

修好條規第七款ニ載スル旨趣ニ從ヒ日本國測量船小船ヲ放チ朝鮮國沿海ヲ測量スル時或ハ風雨ニ逢ヒ或ハ干潮ノ爲メ本船ニ歸ル能ハサル時ハ該處里正ヨリ其近傍ノ人家ニ安著セシム可シ若シ需用ノ物品アラハ官ヨリ辨給シ後日其入費ヲ完清スヘシ

第十款

朝鮮國ハ未タ海外諸國ト通信セス日本國ハ年來諸國ト締盟友誼アルノ故ヲ以テ今後朝鮮國ノ沿海へ諸國ノ船舶風波ノ爲メ困難シ漂着スルアラハ朝鮮國人民理ニ於テ之ヲ愛恤セサル無シ該漂民本國ニ送還セラレンヲ望マハ朝鮮國政府ヨリ各港口駐留ノ日本國管理官ニ遞付シ本國ニ送還セシム該官員之ヲ領諾

セサル無シ

第十一款

右十款ノ章程及之ニ添ヘタル通商規則共修好條規ト同一ノ權ヲ有ス兩國政府遵行シテ違フ莫カルヘシ然レトモ此各款中若シ兩國人民交際貿易上實地ノ障礙ヲ生シ改革セサル可ラサル事柄ヲ認ムル時ハ兩國政府其議案ヲ作リ一箇年前報知シテ協議決定スヘシ

大日本紀元二千五百三十六年明治九年八月廿四日

理事官外務大丞官本小一印

大朝鮮開國四百八十五年丙子七月初六日

講修官議政府堂上趙寅熙印

朝鮮國議定諸港ニ於テ日本國人民貿易規則

第一則

日本國商船 日本國政府所管ノ軍艦及專ラ通信ニ用フル諸船ヲ除ク 朝鮮國ニテ許可セシ諸港ニ入津ノ時船主或ハ船長日本國人民管理官ヨリ渡シタル證書ヲ三日ノ内ニ朝鮮國官廳へ差出スヘシ

所謂證書ナル者ハ船主所持ノ日本國船籍航海公証ノ類ヲ入港ノ日ヨリ出港ノ日マテ管理官ニ差出シ置キ管理官ヨリ此證書類ヲ預リタル証票ヲ與フ是ヲ日本國現時施行ノ商船成規ト爲ス船主本港碇泊中此証票ヲ朝鮮國官廳へ差出シ日本國ノ商船タルヲ驗明ス

此時船主又其記錄簿ヲ差出スヘシ

所謂記錄ナル者ハ船名並ニ本船ヲ發スルノ地名積荷ノ噸數石數 共ニ船船算定スルノ名 船長ノ姓名乗組水夫ノ人員船客ノ姓名ヲ詳記シテ船主調印シタル者ナリ

此時船主又本船積荷ノ報單並船内所用雜物ノ簿記ヲ差出スヘシ

所謂報單ナル者ハ荷物ノ名或ハ其物質ノ實名并荷主ノ姓名記號番號ヲ詳

記シテ 記號番號ナキ荷物ハ此例ニアラス 報知スルナリ此報單及其他書類共何レモ日本國文ヲ用ヒテ漢譯文ヲ副ルヲ無シ

第二則

日本國商船進港ノ積荷ヲ陸揚ケセント欲スル時ハ船主或ハ荷主ヨリ更ニ積荷ノ物名并元價斤量個數ヲ書記シ朝鮮國官廳ニ届出ヘシ官廳届書ヲ得ハ速ニ荷卸シ免狀ヲ渡スヘシ

第三則

船主或ハ荷主第二則ノ免狀ヲ得タルノ後其荷物ヲ陸揚ケスヘシ朝鮮國官吏若シ之ヲ驗査セント要スレハ荷主敢テ之ヲ拒ムヲ無シ官吏亦注意驗査シテ之カ爲メ毀損ヲ致スト無カレ

第四則

出港セントスル荷物ハ荷主第二則入港積荷届書ノ式ニ照シ船名并荷物ノ品書個數ヲ書記シ朝鮮國官廳ニ届出ヘシ官廳ハ速ニ之ヲ許可シ出港荷物免狀ヲ渡

スヘシ荷主免狀ヲ得ハ本船ニ積込ムコトヲ得ヘシ官廳若シ其荷物ヲ検査セント要スレハ荷主敢テ之ヲ拒ムコト無シ

第五則

日本國商船出港ヲ要スル時ハ前日正午前ニ朝鮮國官廳ヘ報知スヘシ官廳報ヲ得ハ嘗テ預リ置キタル證書ヲ還附シ出港免狀ヲ渡スヘシ

日本國郵便船ハ成規ノ時限ニ拘ハラスシテ出港スルトモ必ス官廳ニ報知スヘシ

第六則

嗣後朝鮮國諸港口ニ於テ糧米及雜穀トモ輸出入スルヲ得ヘシ

第七則

港稅

連桅檣ノ商船及蒸氣商船稅金五圓

單桅檣ノ商船稅金貳圓 荷物五百石以上積

單桅檣ノ商船稅金壹圓五十錢 荷物五百石 俱ニ附屬脚 以下積 艇ヲ除ク

日本國政府ニ屬スル諸船舶ハ港稅ヲ納レス

第八則

朝鮮國政府或ハ人民諸物品ヲ不開港場ノ口岸ニ運輸セント欲スル時ハ日本國商船ヲ雇入ル、コトヲ得ヘシ雇主若シ人民ナレハ朝鮮國政府ノ免狀ニ照シテ雇役スヘシ

第九則

日本國船隻若シ通商ヲ許サ、ル朝鮮國ノ港口ニ到リ私ニ賣買ヲ爲スヲ該地方官見届タル時ハ最寄管理官ニ引渡スヘシ管理官ハ其所得ノ錢物一切ヲ取上ケテ朝鮮國官廳ニ交付スヘシ

第十則

鴉片煙販賣ヲ嚴禁ス

第十一則

兩國現ニ定ムル規則ハ今後兩國商民貿易形況ニ依リ各委員時ニ隨テ事情ヲ酌量シ商議改正スルヲ得ヘシ此カ爲メ兩國委員各調印シテ即日ヨリ遵行セシム  
大日本國紀元二千五百三十六年明治九年八月廿四日

理事官外務大丞宮本小一 印

大朝鮮國開國四百八十五年丙子七月初六日

講修官議政府堂上趙寅淵 印

○明治十五年十一月二十二日第五十四號布告

今般朝鮮國ト別紙ノ通修好條規續約ヲ訂定交換ス

右奉 勅旨布告候事

別紙

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル

大日本國皇帝此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス大日本國辦理公使花房義質及大朝鮮國

全權大臣李裕元全權副官金宏集ヲ以テ雙方全權委員ト爲シ明治十五年八月三十日朝鮮國濟物浦ニ於テ大日本國ト大朝鮮國トノ間ニ取結ヒシ修好條規續約書ヲ朕親ヲ閱覽セシニ能ク朕カ意ニ適シ更ニ間然スヘキナシ故ニ凡テ其約書條款ニ掲クル本趣ハ朕茲ニ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百四十二年

明治十五年十月三十日東京宮中ニ於テ親ヲ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 國 璽

奉 勅 外務卿正四位勳一等井上 馨

別紙

大日本國辦理大臣花房義質ト大朝鮮國全權大臣李裕元副大臣金宏集ト明治十五年八月三十日 朝鮮國四百九十年七月十七日 仁川府濟物浦ニ在テ商訂シタル追加條約ヲ今兩國ノ批准ヲ經テ大日本國外務卿井上馨ト大朝鮮國特命全權大臣兼修信使朴泳孝副大臣金晚植ト東京ニ於テ互ニ相查照シ以テ之ヲ交換シ各名ヲ署シ印ヲ

鈴シ以テ証トナス

大日本國明治十五年十月三十日

大日本國 外務卿 井上 馨

大朝鮮國開國四百九十一年九月二十日

大朝鮮國特命全權大臣兼修信使朴泳孝  
大朝鮮國 副大臣 金晚植

日本國ト朝鮮國ト嗣後益々親好ヲ表シ貿易ヲ便ニスル爲メ茲ニ續約ニ款ヲ訂定スルコト左ノ如シ

第一

元山釜山仁川各港ノ間行里程今後擴メテ四方各五十里ト爲シ朝鮮二年ノ後ヲ期シ 條約批准ノ日ヨリ周歲更ニ各百里ト爲ス事  
今ヨリ一年ノ後ヲ期シ楊花鎮ヲ以テ開市場ト爲ス事

第二

日本國公使領事及ヒ其隨員眷從ノ朝鮮內地各處ニ遊歷スルヲ任聽スル事

遊歷地方ヲ指定シ禮曹ヨリ証書ヲ給シ地方官証書ヲ驗シ護送ス

右兩國全權大臣各々諭旨ニ據リ約ヲ立テ印ヲ蓋シ更ニ批准ヲ請ヒ二ヶ月ノ内

日本明治十五年十月 日本東京ニ於テ交換スヘシ  
朝鮮開國四百九十一年九月

大日本國明治十五年八月三十日

大朝鮮國開國四百九十一年七月十七日

日本國辦理公使花房義質 印

朝鮮國全權大臣李 裕元 印

朝鮮國全權副官金 宏集 印

○明治九年十月十四日第百二十八號布告

從前朝鮮國貿易ノ儀ハ對馬國人民ニ限取引イタサセ候處本年三月第三十四號布

告修好條規及今般第百貳拾七號布告修好條規附錄並貿易規則ノ趣旨ニ遵ヒ一

般ノ人民同國釜山港へ渡航セント欲スル者ハ差許サレ候條海外行免狀又ハ航海公証ヲ使府縣廳又ハ其支廳ヨリ申受渡航可致候尤旅行先ヨリ急ニ渡航セント欲スル者ハ本人ヨリ其貫籍ヲ明白ニ書記シ旅行先地方ノ廳へ願出許可ヲ受ヘク候此旨布告候事

但釜山港ノ外開港ノ場所ハ追テ確定ノ上尙可布告事

○明治十三年一月廿八日第二號布告

明治九年二月我國ト朝鮮國トノ間ニ取結ヒタル修好條規第五款ノ旨趣ニ遵ヒ兩國人民通商ノタメ朝鮮國ニ於テ開クヘキ二港ノ内咸鏡道元山津ヲ明治十三年五月一日ヨリ開港相成候條此旨布告候事

但右期月ヨリ渡航ノ者ハ明治九年<sup>十月</sup>第百二十八號第百二十九號布告ノ通可相心得事

○朝鮮國貿易輸出入取扱方

○明治九年十月十四日第百二十九號布告

自今朝鮮國貿易品ハ輸出入品トモ日本國內地ニテ諸物品ヲ運送スルト同様ニ相心得輸出セント欲スル物品ハ開港場ハ稅關其他ハ出船地ノ區務所ヨリ荷物送り狀ニ檢印申受朝鮮國開港場派出ノ日本管理官へ右送り狀差出朝鮮地方へ輸入濟ノ檢印ヲ申受日本國へ歸着ノ後最前出船セシ元地へ右送り狀可届返候朝鮮國ヨリ輸出シ來ル物品ハ送り狀へ管理官ノ檢印申受日本國各地へ陸揚セントスル節右檢印有之送り狀ヲ其地稅關又ハ區務所へ差示シタル上陸揚ケ可致候此旨布告候事

○朝鮮釜山浦へノ郵便稅額當分内地同様トス

○明治九年十一月二十二日第百四十四號布告

朝鮮國釜山浦へノ郵便物ハ當分本邦内地同様ノ稅額ニ相定候條此旨布告候事

○鳥獸獵規則

○明治十年一月廿三日第十一號布告

鳥獸獵規則別紙ノ通改正候條此旨布告候事

別紙

鳥獸獵規則

第一條 小銃ヲ用テ鳥獸ヲ獵シ生業トスル者ヲ職獵トシ遊樂ノタメニスルヲ遊獵トス

第二條 銃獵免狀ナキモノハ總テ銃獵スルヲ禁ス但有害ノ鳥獸ヲ除クカタメニハ地方官ノ便宜ヲ以テ臨時ノ免許ヲ與フヘシ

第三條 銃獵免狀ヲ得ント欲スル者ハ願書ニ族籍職分住所姓名年齢ヲ詳記シ東京

十四年四十三號布告ヲ以テ本則中内務大臣ノ文字ヲ都テ廢務ト改ム

十四年六十一號布告ヲ以テ廢務ト改ム

改ム

府下ニ於テハ内務省其他ハ該地方官廳へ差出スヘシ

第四條 免狀ハ其効一期限ニ止ルモノトス免狀ハ貸借シ賣買シ若シクハ授受スルヲ禁ス

第五條 免狀ヲ願受ル者ハ左ノ通免許稅ヲ納ムヘシ

- 一 職獵稅 金壹圓
- 一 遊獵稅 金拾圓

第六條 水火盜難其他ノ事故ニヨリ免狀ヲ毀失スル時ハ速ニ東京府下ニ於テハ内務省其他ハ該地方官廳ニ届出ヘシ再ヒ免狀ヲ願受ル者ハ更ニ稅金ヲ納ムルニ及ハスト雖モ手數料トシテ金貳拾五錢ヲ納ムヘシ

第七條 左ニ記列シタル者ニハ免狀ヲ付與セサルヘシ

- 一 拾六歳未滿ノ者
- 一 白痴瘋癲等ノ者
- 一 故ナク弓箭銃砲ヲ放ツノ刑ヲ受ケシ者

十四年六十一號布告ヲ以テ廢務ト改ム

千

第八條 左ニ記列シタル場所ニ於テハ銃獵ヲナスヲ禁ス

一 都府市街ハ勿論衆人群集ノ場所

一 銃丸ノ達スヘキ恐レアル人家ニ向ヒタル距離ノ場所

一 禁獵制札ノ場所

但制札ハ獵銃貳挺ヲ交叉シタル圖ノ下ニ銃獵禁制ノ四字ヲ記シ掲ケ置クヘシ

一 作物植付ケアル田畑内或ハ社寺人家等ノ構内

但該主又ハ管守人ノ許諾ヲ受タル者ハ此限ニアラス

第九條 獵銃ハ和銃玉目四匁八分以下並ニ西洋獵銃ニ限ルヘシ軍銃ヲ用フルヲ禁ス

第十條 銃獵期限ハ十月十五日ヨリ四月十五日迄ヲ以テ一期トス是時限ノ外ハ銃獵ヲ禁ス

但地方ノ景況ニヨリ己ムヲ得ス此期限ヲ伸縮スル時ハ其理由ヲ内務省ヘ届出

十年八十五號布告ヲ以テ本條ヘ但書ヲ追加ス

ヘシ

第十一條 日没ヨリ日出迄ノ時間ハ銃獵ヲ禁ス

第十二條 凡ソ出獵スル者ハ必ス其免狀ヲ携帯スヘシ出獵中警察官吏區戸長村役人等免狀ヲ看ント請フ者アル時ハ直ニ之ヲ示スヘシ

第十三條 地主其所有地内ニ於テ他人ノ銃獵スルヲ有害トスル時ハ第八條所示ノ如キ制札ヲ建テ其周圍ニ繩張又ハ假圍ヲナスヘシ

第十四條 凡テ一期内再犯以上ノ者ハ其罰金ヲ倍科スヘシ

第十五條 銃獵ヲ生業トスル者ニアラスシテ職獵ノ免狀ヲ受ケ遊獵スル者ハ五十圓ノ罰金ヲ科シ免狀取上ケ其期内銃獵ヲ禁スヘシ

第十六條 總テ犯則ノ者ヲ他ヨリ証跡ヲ取り訴出ル時ハ犯人罰金ノ半ヲ賞トシテ與フヘシ

第十七條 第十四條第十五條ノ外此諸規則ヲ犯ス者ハ三圓ヨリ少ナカラス二十圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

十年八十五號布告ヲ以テ第十八條ヲ追加ス

千



○明治十年十二月十七日第八十五號布告

本年<sup>一</sup>月第十一號布告鳥獸獵規則第九條へ但書同第十八條左ノ通追加候條此旨  
布告候事

第九條

一 獵銃ハ云々

但開拓使管内ニ限り和銃玉目十匁以下ヲ用フルヲ得ヘシ

第十八條

一 開拓使管内ニ入り鹿獵ヲ爲ス者ハ該使施行ノ規則ニ遵フヘシ

○明治十四年九月十三日第四十三號布告

明治九年<sup>六</sup>月第八十二號同十年<sup>一</sup>月第十一號同年<sup>二</sup>月第二十四號同十一年<sup>五</sup>月第八號  
同年<sup>二</sup>月第三十七號同十二年<sup>二</sup>月第九號同年<sup>五</sup>月第十九號布告中内務省又ハ大藏

十五年八月號布告ヲ  
以テ開拓使ヲ廢シ  
箱館札幌樺室三縣  
ヲ置ク

省トアルハ農商務省ト改正内務卿又ハ大藏卿トアルハ農商務卿ト改正候條此  
旨布告候事

○明治十四年十一月四日第六十一號布告

鳥獸獵規則第三條及第六條中農商務省トアルヲ更ニ警視廳ト改正候條此旨布  
告候事

○地租改正後買上地拂下地潰地等收稅除稅區分

○明治十年二月十三日第十八號布告

地租改正後買上地拂下地潰地等收稅除稅區分左ノ通相定候條此旨布告候事

第一條 民有地ヲ買上ル時其年分ノ稅ハ買上タル前月分迄月割ヲ以テ收入スヘシ  
第二條 官有地ヲ拂下ル時其年分ノ稅ハ拂下タル翌月分ヨリ月割ヲ以テ收入スヘ

第三條 民有地ヲ官ノ許可ヲ得テ川溝溜池道路堤塘敷等ノ潰シ地トナス時其年分ノ税ハ潰シ地トナスノ許可ヲ得タル前月分迄月割ヲ以テ收入スヘシ

○明治十五年七月廿八日第三十五號布告

明治十年<sup>二月</sup>第十八號布告第三條左ノ通改正ス

第三條

民有地ヲ官ノ許可ヲ得テ川溝溜池道路堤塘敷其他潰シ地トナス時ハ工事著手ノ月ヨリ除税スヘシ一旦著手スルモ若シ工事中止シテ六ヶ月ニ及フモノハ工事ヲ施シタル部分ヲ除キ其中止間ハ除税ノ限ニアラス  
但七ヶ月以上ニ渉ルヘキ工事ハ六ヶ月毎ニ其工程ヲ量リ除税ノ區域ヲ定ムルモノトス

○地租田方ニ限り願ニヨリ當分半額代米納ヲ許ス

○明治十年十一月廿二日第八十號布告

地租金ノ内田方ニ限り當分人民ノ情願ニ任セ半額其府縣ノ地租改正ニ用ヒタル相場ヲ以テ代米納差許候條此旨布告候事

○地所賣買讓渡等ノ節地券面ニ餘白アルモノハ裏書シテ証認ス

○明治十二年二月十日第六號布告

地所賣買讓與等ノ節ハ總テ地券書換下ケ渡スヘキ成規ノ處自今其券狀餘白アルモノハ管轄廳ニ於テ其裏書ヘ確認ノ證ヲ記シテ下ケ渡スヘシ此旨布告候事  
但証印税ノ儀ハ從前ノ通

十四年三十號布告  
アリテ証印税改正  
アリテ照スヘシ

○徵兵令

○明治十二年十月二十七日第四十六號布告

徵兵令別冊ノ通改正候條此旨布告候事

但徵兵令ニ關スル從前ノ布告達及ヒ指令ハ渾テ廢止トス

別冊

徵兵令

徵兵令

第一章 徵兵編制

第一條 徵兵ハ全國ノ男子ヲ徵集シ以テ兵役ニ充ル者ナリ今陸軍ヲ大別シテ四ト爲ス常備軍豫備軍後備軍國民軍是ナリ又其兵丁ノ身材ニ從ヒ步騎砲工等ノ兵種ニ區別ス

但海軍徵兵ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第二條 常備軍ハ男子年二十歳ニ至ル者ヲ各軍管下ノ國郡ヨリ徵集シ其當籤者ヲ以テ之ヲ編制シ三ヶ年ノ役ニ服セシメ所管鎮臺ニ備フル者ナリ

第一項 殊ニ技藝ニ熟スル者平時ハ服役未タ終ラスト雖モ詮議ノ上假ニ歸郷ヲ許スヘシ

第二項 強壯ニシテ技藝ニ熟シ行狀正シキ者ハ在營六ヶ月ニシテ近衛兵ニ拔擢シ更ニ三ヶ年ノ役ニ服セシメ役終ルノ後豫備軍ニ編入シ二ヶ年六ヶ月ノ後後備軍ニ編入ス

但近衛兵編制ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第三項 上下士官ト爲シテ志願スル者ハ檢査格例ニ照シ士官學校又ハ教導

第四項 技藝ニ熟シ且才氣アル者ハ之ヲ拔擢シテ下士ニ任ス

第三條 輜重輸卒看病卒並ニ職工ハ各其志願者ヲ徵募スト雖モ若シ不足スルトキハ壯丁ノ身幹定尺ニ滿タス又ハ銃器ヲ執ルニ適應セサル者或ハ合格ノ者ト雖モ各自ノ職業ニ依リ便宜ヲ以テ諸兵ト同シク徵集シ該役ニ服セシムルコトアルヘシ

第一項 輜重輸卒トシテ徵集スル者ハ六ヶ月間常備軍役ニ服セシメ役終レハ豫備軍ニ編入シ五年六ヶ月ノ後更ニ後備軍ニ編入ス

第二項 看病卒並ニ職工トシテ徵集スル者ハ服役諸兵ト異ナルコトナシ

第四條 常備軍在營中ハ定額ノ日給ヲ與フ其他食料服類共官給タルヘシ

第五條 豫備軍ハ常備軍三ヶ年ノ役ヲ終リシ者ヲ以テ之ヲ編制シ更ニ三ヶ年ノ役ニ服セシメ常ニ家居シテ産業ヲ營マシム而シテ戰時或ハ非常ノ事故アル時ニ當リテハ直ニ之ヲ召集シ常備軍ニ加ヘ其員ヲ充實シ又ハ別ニ隊伍ニ編制シ從軍セシムル者ナリ故ニ毎歲一度屯營ニ召集シ其技藝ヲ復習セシム

第六條 後備軍ハ豫備軍三ヶ年ノ役ヲ終リシ者ヲ以テ之ヲ編制シ更ニ四ヶ年ノ役ニ服セシメ豫備軍ニ次テ之ヲ召集スル者ナリ故ニ平時ニ於テハ每歲一度便宜ノ地ニ召集シ其技藝ヲ復習セシム

第七條 兵役期限己ニ滿ル者ト雖モ戰時ハ勿論非常ノ事故アル時ハ其期限ヲ延スコトアルヘシ

第八條 國民軍ハ全國ノ男子十七歳ヨリ四十歳迄ノ人員ヲ兵籍ニ載セ置キ全國大舉ノ役アルニ當リ時機ニ從ヒ隊伍ニ編制シ以テ守衛ニ充ル者ナリ

### 第二章 徵兵區域

第九條 凡全國ヲ別ツテ七大徵兵區トシ各軍管ノ區域ニ從フ者之ヲ軍管徵兵區トス軍管ニ包轄スル師管ノ區域ニ從フ者之ヲ師管徵兵區トシ師管ニ包轄スル旅管ノ區域ニ從フ者之ヲ旅管徵兵區トシ旅管ニ包轄スル聯隊區域ニ從フ者之ヲ聯隊徵兵區トシ聯隊區域ニ包轄スル大隊區域ニ從フ者之ヲ大隊徵兵區トシ大隊區域ニ包轄スル中隊區域ニ從フ者之ヲ中隊徵兵區トス